

地質情報研究部門 2024 年度年報

Annual Report of
Research Institute of Geology and Geoinformation
2024

地質情報研究部門
2026.2



地質情報研究部門 2024 年度年報

年報刊行にあたって

日本は、四方を海に囲まれ、大地震や火山噴火が頻発する活動的島弧に位置します。このような地質条件のなか、エネルギー・環境・資源制約への対応やレジリエントな社会の実現といった社会課題を解決し、国土の持続的発展を支える地質情報が求められています。地質情報研究部門は、我が国における地質調査の責任機関である地質調査総合センター（GSJ）の研究ユニットとして、日本の国土および周辺海域の地質学的な実態を明らかにし、国の知的基盤としての地質情報を整備することで、この要請に応えることを目指しています。具体的には、我が国の第3期知的基盤整備計画（2021年度～2030年度）に基づき、陸域・海域ならびに沿岸域における系統的な地質調査を通して、地質図幅や地球科学基本図等の基盤的地質情報の整備と、その利活用促進に取り組んでいます。また、陸域資源の持続的利用に向けた地球環境変化の定量的把握を目的とした衛星画像情報の整備とその利活用促進に向けた研究、さらには海域に賦存するエネルギー・資源の開発を見据えた海洋環境影響評価手法の高度化に関する研究も行なっています。そして、最新の地質情報と科学的根拠に基づいた自然現象に関する科学的理解をもとに、産業技術総合研究所の第6期中長期目標期間におけるミッションである「社会課題の解決と産業競争力の強化に貢献するイノベーションの連続創出」の実現に向け、地質情報の整備とその社会実装を積極的に進めていきます。

本年報は地質情報研究部門の2024年度の研究活動を記録し、紹介するものです。近年の自然災害の増加に伴い、知的基盤としての地質情報に対する社会の関心、様々な課題の検討や解決への期待などが高まってきています。このような社会環境のもとで、職員一同、地質の調査研究のさらなる推進と発展に向けて取り組んでおります。ご高覧いただき、活動内容や成果についてご理解いただくとともに、忌憚の無いご意見を賜りますようお願いいたします。

今後も長期的な国家的事業の支柱となる基盤的地質情報整備を継続していきます。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

2026年2月
地質情報研究部門長 野田 篤

地質情報研究部門 2024 年度年報

目 次

1. 概要	1 -
2. 研究グループ	2 -
3. 研究テーマ概要	5 -
4. 外部資金による研究	17 -
5. 業績	27 -
5.1 地質図類	27 -
5.2 データベース・ソフトウェア	30 -
5.3 誌上発表	31 -
5.4 口頭発表	45 -
5.5 イベント	76 -
5.6 プレス発表	79 -
5.7 受賞	80 -
資料編	81 -
付 1 構成及び所在	81 -
付 2 職員等	82 -

1. 概要

1.1 研究目的

地質調査に関するわが国における責任機関として、国の知的基盤整備計画に沿って地質情報の整備と高度化を実施し、わが国の産業基盤を引き続き強化する。

当研究部門のミッションは、日本の国土および周辺海域を対象として地質の調査を実施し、陸域・海域地質情報を国の知的基盤として整備することにある。日本は、四方を海に囲まれ、大地震や火山噴火が頻発する活動的縁辺域に位置する。このような地質条件の中、防災・資源・環境に関わる社会的な課題を解決し、社会の安全・安心で持続的発展を支える地質情報が求められている。そこで、最新の地質情報を整備し、その科学的根拠に基づいて地球の過去・現在を知り、地球環境の健全性の評価および自然災害発生リスクに関する科学的理解と将来予測を社会に発信する。

1.2 中期目標・計画達成のための方針

地質調査のナショナルセンターとしての地質情報の整備を実施する。わが国の知的基盤整備計画に基づいて、国土およびその周辺海域の地質図、地球科学基本図のための地質調査を系統的に実施し、地質情報を整備する。具体的には下記のとおり。

- ・知的基盤整備計画に沿った地質図幅・地球科学図などの系統的な整備、および 20 万分の 1 日本シームレス地質図の改訂を行う。
- ・地質情報としての衛星データの整備と活用を行う。
- ・トカラ列島を含む沖縄トラフ海域の地質調査を着実に実施し、日本周辺海域の海洋地質情報の整備を行う。
- ・沿岸域の海陸シームレス地質情報の整備を行う。
- ・ボーリングデータを活用した都市域の地質・地盤情報を整備する。
- ・地質調査の人材育成を行う。

1.3 グループ体制と重点課題

中長期目標・計画を達成するため、研究グループをベースにした基礎・萌芽研究と、ユニット・グループを横断するプロジェクト研究によるマトリックス方式を継続して採用する。研究グループは専門家集団としての特徴を生かし、プロジェクト研究の基礎を支え、将来のプロジェクト創出の基となる研究を実施する。当研究部門の組織体制は 12 研究グループから構成される。当研究部門では研究グループを横断する以下の 4 つの重点プロジェクト (P) を設定し、連携・協力して研究を進める。

- ・陸域地質図 P : 国土基本情報としての陸域の島弧地質と知的基盤整備。
- ・地球科学図 P : 地球物理、地球化学図などの作成。衛星情報の整備と利活用の研究。
- ・海域地質図 P : 国土基本情報としての海域の島弧地質と知的基盤整備。

- ・沿岸域の地質・活断層調査 P : 陸域－沿岸域－海域をつなぐシームレス地質情報の整備と活断層の評価。都市域の地質地盤図の整備。

1.4 内外との連携

社会課題の解決に向けた橋渡しの拡充し、地球科学的な根拠に基づいた産業基盤の評価を可能にする地質の調査の実施。地質の調査に関するわが国における責任機関として、着実な成果を公表するとともに、地質の調査に関する新たな技術開発を目指す。

他の関連ユニットとの連携を強め、産総研における地質調査総合センター (GSJ) としての機能を十分に果たす中核を担うとともに、産総研内外の連携を推進する。

研究によって形作られる地質情報はもちろんのこと、地球を理解する科学技術は、地質学的にも関連の深いアジアをはじめとする世界にとって共通の財産であり、当研究部門は CCOP (東・東南アジア地球科学計画調整委員会) などの国際組織や IODP (統合国際深海掘削計画)、ICDP (国際陸上科学掘削計画) などの国際プロジェクトを通じて世界に貢献する。また、地すべりなど地質災害の緊急課題についても、地質調査総合センターとして迅速に取り組む。

2. 研究グループ

2.1 平野地質研究グループ

(Quaternary Basin Research Group)

研究グループ長：納谷 友規

概 要：

堆積平野とその周辺丘陵地を主な研究対象とし、それらの地質学的実態把握と形成プロセスの総合的な理解に努め、自然災害の軽減・産業立地・環境保全などに貢献する地質情報を提供する。この目的のため、沿岸域の地質・活断層調査プロジェクトや陸域地質図プロジェクトにも積極的に参加し、また関連する所内外の研究グループや研究機関とも連携して研究を進める。関東地方、中部地方、近畿地方、四国地方における沿岸平野を重点的に調査・研究している。平野を構成する地層の詳細な層序・地質特性・地質構造などを把握し、またそれらの形成プロセスを明らかにするとともに、地質情報のマップ化、データベース化を進めている。さらに平野域に関連した自然災害が発生した場合は関係諸グループと連携を取り、被害調査などを実施する。年代層序や堆積環境復元などに資する古生物学、堆積学、古地磁気学、火山灰層序など、地層の年代や堆積環境復元に資する基礎研究も進めている。

研究テーマ：テーマ題目 1、10、13、22

2.2 層序構造地質研究グループ

(Stratigraphy and Tectonics Research Group)

研究グループ長：原 英俊

概 要：

日本列島と大陸縁辺域であるアジア周辺地域を主な研究対象とし、それらの地質学的実態を把握するため層序構造地質の研究を行う。主に、過去の造山帯（沈み込み型および衝突型）における付加・大陸成長過程の解明、前弧域・背弧域の堆積盆地における堆積環境の復元、火山活動の時空間変遷に基づく島弧内堆積盆地の形成過程の解明、遠洋域での堆積環境の復元と古海洋地理区の解明、高精度微化石層序の構築を主要な課題と位置づける。さらに国土の基本地質情報整備のために部門重点課題として実行される陸域地質図プロジェクトに中核研究グループとして参画する。得られた研究成果とともに、最新の地質学的知見を融合し、5万分の1および20万分の1地質図幅、20万分の1日本シームレス地質図の整備を行う。

研究テーマ：テーマ題目 1、23

2.3 地殻岩石研究グループ

(Orogenic Processes Research Group)

研究グループ長：工藤 崇

概 要：

地殻岩石の研究と陸域地質図プロジェクトの2つを主要な研究活動の柱とする。地殻岩石の研究は、変成岩・深成岩・火山岩・堆積岩を対象とし、活動的島弧の長期的挙動及び進化の解明を目標とする。特に、沈み込み帯のプレ

ート境界における付加・変形・変成作用、島弧地殻の中～深部における変形・変成・深成作用、島弧地殻の浅部～表層における火成・堆積・変形作用の系統的な調査・研究及び分析技術の開発を行う。陸域地質図プロジェクトについては、その運営・実施に中核グループとして参画し、5万分の1地質図幅の作成や出版年度の古い20万分の1地質図幅の改訂を行う。特に、陸域地質図プロジェクトにおいては、地殻岩石の研究成果および既存の地質体形成過程に関する知見を融合・適合することにより高精度の地質図の作成を行う。また、20万分の1日本シームレス地質図の改訂にも携わる。研究成果は論文・地質図・データベースなどを通じて公表する。

研究テーマ：テーマ題目 1、24

2.4 シームレス地質情報研究グループ

(Integrated Geo-information Research Group)

研究グループ長：内野 隆之

概 要：

陸域地質図プロジェクトの中核グループとして、20万分の1日本シームレス地質図の編纂・公開を行う。また、5万分の1および20万分の1地質図幅の作成を行い、日本列島形成過程など学術的研究も進める。加えて、シームレス地質図に関連する地質情報のオープンデータ化、表示機能向上など地質情報を社会により利活用してもらうための技術開発、衛星・地形・農林情報とのデータ連携による新たな価値の創出、シームレス化に伴って開発された技術の国際標準化、JIS A0204・0205の作成・普及などを、地質領域の他グループ・室や他領域の関係部署、大学・外部機関と連携して実施する。また、「防災・減災のための高精度デジタル地質情報の整備事業」の一つである「斜面災害リスク評価のための地質情報整備事業」の中核グループとして、各種地質情報を整備・統合・解析を行い、斜面災害リスク評価図を作成する。

研究テーマ：テーマ題目 1、4、25

2.5 情報地質研究グループ

(Geoinformatics Research Group)

研究グループ長：長 郁夫

概 要：

当研究グループは、地層や地質試料から新たな地質情報を抽出し、それらを高度化・統合化することによって、新たな地質学的視点を創出する研究を行う。野外地質調査やボーリング調査、常時微動観測、各種室内分析により、基礎的な地質情報を抽出し高精度化するとともに、それら地質情報の処理技術の開発研究を実施する。またシームレス化・デジタル化された地質情報を統合することにより、地質災害軽減などに資する研究を行う。さらに地質情報を公開するための仕様の検討やシステム構築についても取り組む。それらの研究をベースに、部門が推進する地質情報整備に積極的に取り組む。特に都市域の3次元地質地盤図については、研究課題推進の中核研究グループとして、

関係外部機関と協力し、層序の研究から、3 次元地質モデリング、公開システムの構築まで幅広く担当する。また各地で実施されているスマートシティなど、都市 DX の取り組みを通じて、3 次元地質地盤情報の社会実装に努める。

研究テーマ：テーマ題目 9、26

2.6 リモートセンシング研究グループ

(Remote Sensing Research Group)

研究グループ長：山本 聰

概 要：

当研究グループでは、国の知的基盤整備計画に沿ってリモートセンシング技術に関わる開発研究を推進し、社会の安全・安心および持続可能な発展を支える産業基盤の構築に貢献する。NASA と共同で運用している光学センサー ASTER について、機上校正、代替校正、相互校正などの結果から衛星データの品質管理を実施し、その結果を GSJ 地質情報データベースサービスとして一般に無償提供し、NASA/USGS にも継続的に提供する。また、衛星情報と地質情報の活用により、資源・エネルギー、環境、防災、地質・宇宙分野における研究開発を通じて、社会的課題の解決に貢献する。資源・エネルギー分野では、リモートセンシング技術の活用による、新エネルギー・地下資源開発の探査・分析・評価の技術開発研究を行う。環境分野では衛星情報やリモセン技術の活用による環境評価技術の開発研究を進める。防災分野では、斜面災害リスク評価のための地質情報整備と活用に関わる研究等を進める。また将来探査衛星に搭載される新型センサーの開発研究やドローンを活用したリモートセンシング技術の開発研究も行う。

研究テーマ：テーマ題目 5、27

2.7 海洋地質研究グループ

(Marine Geology Research Group)

研究グループ長：井上 卓彦

概 要：

海域地質図プロジェクトおよび沿岸域の地質・活断層調査プロジェクトの中核を担いつつ、海洋地質研究を遂行する。日本周辺海域の海洋地質情報を整備・公開するとともに、それらのデータを基に日本周辺海域の地質構造発達史、活断層評価、堆積作用、古環境変動、および海底火山や熱水活動に伴う地質現象の解明を行うことを目的とする。民間船、大学の実習船などの調査船を用いて音波探査、堆積物および岩石採取を行い、それらの解析によって海洋地質図（海底地質図および表層堆積図）を作成、出版する。これらの調査で得られたデータを整備し、データベースとしてインターネット経由での公開も進める。地質情報に乏しい沿岸海域についても、小型船舶を用いて音波探査と堆積物採取を行い、沿岸域の地質情報の整備を進めるとともに沖合と陸上の地質情報の統合的な解析を行う。これらの調査およびこれ以外の内外の調査航海や他機関のデータなどを活用し、活動的構造運動や堆積作用、古環境変動などを

の海域における地質現象の解明を行う。

研究テーマ：テーマ題目 6、8、25

2.8 地球変動史研究グループ

(Paleogeodynamics Research Group)

研究グループ長：板木 拓也

概 要：

海陸の地質・古生物学的および地球物理学的情報を統合して、地質学的時間スケールの地球環境システムやテクトニクスの変動史の解明を目標とする。当研究グループは、このような広域の研究をカバーするため、多様な専門分野からなる研究者集団として構成されている。個々の研究者が高い技術力を維持するとともに、革新的な技術を創出、情報発信することで、当該分野におけるリーダーシップを取りつつ、所内外からの要請や連携にも対応する。また、これらの研究を基盤として、当部門のミッションである陸域、海域、それらをつなぐ沿岸域の地質情報の整備、および海底鉱物資源ポテンシャル評価に資する調査を行い、さらに発展的な研究としてこれらを展開する。

研究テーマ：テーマ題目 10、19、16、19、29

2.9 海洋環境地質研究グループ

(Marine Geo-Environment Research Group)

研究グループ長：鈴木 淳

概 要：

最新の地質情報を整備し、その科学的根拠に基づいて地球の過去・現在を知り、地球環境の健全性の評価及び自然災害発生リスクに関する科学的理解と将来予測を社会に発信する。具体的には、将来の深刻化が懸念されている地球環境問題、すなわち温暖化（海域・内水域）、海水準上昇、海洋酸性化、海洋貧酸素化などに関係する地質学的諸問題の解明に当たるとともに、それらの過去の変遷を復元する研究を推進する。海洋エネルギー・鉱物資源の探査・開発については、地質学、海洋物理学、生物地球化学及び海洋生態学的手法を用いた環境ベースライン調査を企画し、特に環境影響評価の観点からの貢献を図る。これら目標実現に向けて、安定同位体比分析を始め各種地球化学的分析法、分子遺伝学的解析手法などの高度化について重点的に取り組むとともに、生態学、堆積学、海岸工学、古生物学など多様な手法の連携により、研究課題に対して総合的なアプローチを取る。第 5 期に新設された融合研究ラボ「環境調和型産業技術研究ラボ」では、中心的な役割を担うべく、他領域と積極的な研究交流を持ち、社会課題の解決に向けた研究開発を推進する。また、部門の重点プロジェクト海域地質図プロジェクトに参画する。

研究テーマ：テーマ題目 6、17、18

2.10 資源テクトニクス研究グループ

(Tectonics and Resources Research Group)

研究グループ長：下田 玄

概 要：

我が国の排他的経済水域には、海底鉱物資源の賦存が期待できる海底火山列が複数存在する。これらの火山列は、島弧火成活動と背弧拡大に関連する。グループでは、沈み込みに関連したテクトニックな時空変遷を解明することにより、島弧火成活動と背弧拡大に伴い生成すると考えられている海底鉱物資源の広域ポテンシャル評価に資する研究を行った。海域における調査は、地質試料を採取し、それに対して地質学的・岩石学的・地球化学的な解析を行った。異なる研究手法を組み合わせることで、海底鉱床の生成に重要な元素の移動や濃集過程を解明し、鉱床形成につながる元素濃集過程の指標を科学的に見いだすことを試みた。岩石学的研究は、日本周辺海域の構造発達史を明らかにするために行なった。日本周辺の広大な海域について海底鉱物資源のポテンシャル評価を行うためには、海底熱水鉱床が形成されるテクトニックセッティング、すなわち、前弧海底拡大、超低速拡大軸、背弧・島弧内リフト盆地の形成過程の解明が不可欠である。従って、これらの形成過程を科学的に解明することにより海底鉱物資源の広域的なポテンシャル評価に資する指標開発を実施した。地球化学的な研究は、海底鉱床の生成に重要な元素の移動や濃集過程の解明に応用することができる。すなわち、同位体比や化学組成が変化する過程を科学的に解明することで、鉱床形成につながる元素濃集過程の指標を科学的に見いだすことを試みた。

研究テーマ：テーマ題目 7、31

2.11 地球化学研究グループ

(Geochemistry Group)

研究グループ長：間中 光雄

概 要：

地殻における元素の地球化学的挙動の解明を中心とした地球化学情報の集積・活用と高度な分析技術の開発を目的とし、元素の地球化学的挙動解明の基礎となる地球化学図の作成、あらゆる地質試料の分析の基礎となる地球化学標準物質の作製、地質関連試料の高度な分析技術の開発と維持・普及を行う。地球化学図の研究では、大都市市街地における元素のバックグラウンドを明らかにするために、従来の 10 倍の精度を持つ精密地球化学図を作成するとともに、既に公開している地球化学図データベースの充実を図る。標準物質の研究では、岩石標準試料の国内唯一の発行機関として、ISO に対応した各種地質試料の認証標準物質の作製を行うとともに、岩石標準試料の各種情報をデータベースとして公開する。また、地球化学の基礎技術として、さまざまな地質試料中の元素の高度な分析技術の開発と、それらを用いた元素の挙動解明の研究を行う。

研究テーマ：テーマ題目 3、32、34

2.12 地球物理研究グループ

(Geophysics Group)

研究グループ長：名和 一成

概 要：

地球物理データを取得する調査手法、解析技術、シミュレーション技術の開発・高度化を行い、地下地質構造・地下動態を解明する。重力図・磁気図の作成および重力などの地球物理関連データベースの拡充を行うとともに、地球物理情報と他の地質情報を統合・連携した研究を推進する。また、平野部・沿岸域や土砂災害地域において地震探査や重力・磁気探査など物理探査を実施し地質・活断層に関する詳細な地下構造を求めることで、国土の知的基盤地質情報整備とその利活用に貢献する。これらの研究成果は論文・地球科学図・データベースや産総研一般公開・地質情報展などを通じて社会に発信する。各種探査技術を活用して民間企業との共同研究、技術コンサルティングも実施する。地球物理図・データベース作成やデータ解析、地球物理学的手法を用いた野外調査を通じて若手人材を育成する。

研究テーマ：テーマ題目 2、10、33

3. 研究テーマ概要

テーマ題目一覧

- [テーマ題目 1] 陸域地質図プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 2] 地球物理図プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 3] 地球化学図プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 4] 次世代シームレス地質図プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 5] 衛星データのアーカイブ・品質管理・配信に関する研究（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 6] 海域地質図プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 7] 海底鉱物資源プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 8] 大陸棚調査プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 9] 都市域の地質地盤図（運営費交付金：重点プロジェクト）
- [テーマ題目 10] 沿岸域プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）
-
- [テーマ題目 11] 微化石を用いた層序と古環境研究体制の構築による地質情報整備の加速化（GSJ 戦略的課題推進費）
- [テーマ題目 12] 海中・海底の連続多項目観測実現のための表層採泥器改修（GSJ 戦略的課題推進費）
- [テーマ題目 13] 内陸沖積河成層を対象とした超軟弱層の形成メカニズムの解明（GSJ 戦略的課題推進費）
- [テーマ題目 14] 3 次元地質地盤図ビューア改修（GSJ 戦略的課題推進費）
- [テーマ題目 15] 瀬戸一豊田地域における未開発珪砂資源の予察的調査・研究（GSJ 戦略的課題推進費）
-
- [テーマ題目 16] 常温稼働可能な磁気顕微鏡開発と資源科学・地球惑星科学への応用（産総研-東北大マッチング研究支援事業）
- [テーマ題目 17] 海洋ネガエミ技術に係る炭酸塩反応過程と生物石灰化機構の研究（岡山大学と産総研とのマッチング研究支援事業）
- [テーマ題目 18] 先端遺伝子解析による分野横断・融合ベースの次世代型環境評価技術の開発（理事長裁量予算）
- [テーマ題目 19] R6 コア技術_「砂粒」自動鑑定技術の実用化（理事長裁量予算）
- [テーマ題目 20] 地盤沈下を反映した相対海面上昇データベースの構築（国際化ボトムアップ連携支援事業）
- [テーマ題目 21] 点群 PNG の標準化（知財・標準化推進部業務）
-
- [テーマ題目 22] 平野地質の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 23] 層序構造地質の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 24] 地殻岩石の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 25] シームレス地質情報の研究の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 26] 情報地質の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 27] リモートセンシングの研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 28] 海洋地質の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 29] 地球変動史の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 30] 海洋環境地質の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 31] 資源テクニクスの研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 32] 地球化学の研究（運営費交付金）
- [テーマ題目 33] 地球物理の研究（運営費交付金）
-
- [テーマ題目 34] 標準試料自己財源（成果普及品自己財源）
- [テーマ題目 35] 海洋地質データ頒布（成果普及品自己財源）

[テーマ題目 1] 陸域地質図プロジェクト (運営費交付金: 重点プロジェクト)

[研究代表者] 原 英俊 (層序構造地質研究グループ)

[研究担当者] 原 英俊、辻野 匠、宇都宮 正志、伊藤 剛、武藤 俊、志村 侑亮、鈴木 敬介、工藤 崇、山崎 徹、佐藤 大介、中村 佳博、村岡 やよい、羽地 俊樹、山岡 健、納谷 友規、田邊 晋、佐藤 善輝、中谷 是崇、小松原 琢、内野 隆之、西岡 芳晴、板野 靖行、長森 英明、中江 訓、宮地 良典、野田 篤、中島 礼、小松原 純子、宮川 歩夢、山元 孝広 (活断層・火山研究部門)、石塚 吉浩 (活断層・火山研究部門)、及川 輝樹 (活断層・火山研究部門)、古川 竜太 (活断層・火山研究部門)、松本 弾 (活断層・火山研究部門)、丸山 正 (活断層・火山研究部門)、中野 俊 (活断層・火山研究部門)、伊藤 順一、吉川 敏之 (地質情報基盤センター)、松浦 浩久 (地質情報基盤センター)、宮崎 一博 (連携推進室)、高橋 浩 (連携推進室)、高木 哲一 (企画本部)、細井 淳 (茨城大学)、植木 岳雪 (帝京科学大学)、竹内 誠 (名古屋大学)、常盤 哲也 (信州大学)、森 宏 (信州大学)、植田 勇人 (新潟大学)、長谷川 健 (茨城大学)、遠藤 俊祐 (島根大学)、西山 賢一 (徳島大学)、中尾 賢一 (徳島県立博物館)、加瀬 善洋 (道総研)、林 圭一 (道総研)、廣瀬 亘 (道総研)、藤内 智士 (高知大学)、辻 智大 (山口大学)、川村 寿郎 (宮城教育大)、吉田 孝紀 (信州大学)、土谷 信高 (蒜山地質年代学研究所／元岩手大学)、木村 順史 (電力中央研究所) (常勤職員 29 名、他研究ユニット 13 名、他 19 名)

[研究内容]

「陸域地質図プロジェクト」の実施にあたっては、本部門・他研究ユニット及び外部研究機関の研究者との協力体制のもと、「層序構造地質」・「平野地質」・「地殻岩石」・「シームレス地質情報」・「火山活動」(活断層・火山研究部門)からなる 5 つの中核グループが推進している。20 万分の 1 地質図幅では、2 区画 (京都及大阪・姫路) の調査を行った。5 万分の 1 地質図幅に関しては、18 区画 (鹿沼・満島・丹生・川原河・網野・冠島・福山・松山北部・鳴門海峡・長島・大川・金峰山・甲浦・盛岡・陸中大原・勝浦・香住・梼原・種子島南部) の調査を行った。また、4 区画 (米子・高見山・大河原・門) の地質図幅を出版した。

[キーワード] 地質図幅、5 万分の 1 地質図、20 万分の 1 地質図

[テーマ題目 2] 地球物理図の研究 (運営費交付金: 重点プロジェクト)

[研究代表者] 名和 一成 (地球物理研究グループ)

[研究担当者] 名和 一成、伊藤 忍、大滝 壽樹、大谷 竜、住田 達哉、宮川 歩夢、木下 佐和子、大熊 茂雄 (常勤職員 7 名、他 7 名)

[研究内容]

活動的島弧に位置する国土の地下地質構造を体系的に解明するために、地球物理情報を整備するとともに、各種ニーズに対応した物理的調査手法を開発する。重力図、空中磁気図といった地球物理図や、地球物理データベースを作成する。また、高精度、高時空間分解能調査が可能な精密重力測定技術を開発する。具体的には、重力図について「富山」及び「飯田-豊橋」地域重力図 (ブーゲー異常) の出版用原稿を作成した。「災害軽減に貢献するための地震火山研究計画」の「地殻変動連続観測等データの流通及び利用に関する協定」に基づいて、北海道大学弟子屈観測所の重力連続観測データと高精度微気圧計データを提供するとともに、モニタリングデータのクイックルック画像をまとめた「重力観測データ集」の整備を継続した。地球物理関連データ (反射法地震探査など) のデータベース化のためのツールを作成した。

[キーワード] 地球物理図、重力図、空中磁気図、地球物理データベース、精密重力測定技術、研究 DX

[テーマ題目 3] 地球化学図プロジェクト (運営費交付金: 重点プロジェクト)

[研究代表者] 久保田 蘭 (地球化学研究グループ)

[研究担当者] 久保田 蘭、間中 光雄、遠山 知亜紀、中村 淳路、三國 和音、立花 好子 (常勤職員 5 名、他 1 名)

[研究内容]

元素の地球化学的挙動解明の基礎となる地球化学図の作成において、大都市市街地を含む地域における元素のバックグラウンドを明らかにするために、従来の日本全国図の 10 倍の精度を持つ精密地球化学図を作成する。また、日本全国のヒ素などの有害元素をはじめとする 53 元素の濃度分布の全データをデータベース化し、インターネットを通して日本の地球化学図データベースとして地球化学基盤情報を提供する。

精密地球化学図の作成では、「関東の地球化学図」と「中部地方の地球化学図」の発刊に続き、2019 年度より、新たに大阪市・京都市を中心とする関西精密地球化学図の作成に着手している。2024 年度は、これまで採取した試料の分析データの解析を終了させ、再採取が必要な地点および新規採取地点の選定を実施した。また、海域の地球化学図の拡充として、トカラ列島周辺海域及び東シナ海域等の海底堆積物試料の化学分析を実施した。それに伴い GB23 航海の海底堆積物試料の化学分析値を地調研報にて投稿した。

[キーワード] 地球化学図、データベース、有害元素、バクグラウンド、環境汚染、元素分布

[テーマ題目 4] 次世代シームレス地質図の研究（運営費交付金：重点プロジェクト）

[研究代表者] 内野 隆之（シームレス地質情報研究グループ）

[研究担当者] 内野 隆之、西岡 芳晴、坂野 靖行、斎藤 真、宝田 晋治、川畠 大作、長津 樹理、井川 敏恵（常勤職員 6 名、他 2 名）

[研究内容]

本プロジェクトは、20 万分の 1 日本シームレス地質図 V2 のデータ更新と表示機能等の強化を行うものである。

2024 年度は、2022 年に刊行された 20 万分の 1 地質図幅「宮津」（第 2 版）をベクトルデータ化した後、20 万分の 1 日本シームレス地質図 V2 へ埋め込み及び更新を行った。また、2023 年に刊行された 20 万分の 1 地質図幅「富山」（第 2 版）をベクトルデータ化し、シームレス化を進めた。県や市区町村を指定してその範囲のみの 20 万分の 1 日本シームレス地質図表示する「タウンシームレス版」を公開した。その他、凡例数を約 60 に絞った「簡略版」の作成を進めた。

[キーワード] 20 万分の 1 日本シームレス地質図 V2、ベクトルデータ化、20 万分の 1 地質図幅「宮津」、タウンシームレス版

[テーマ題目 5] 衛星データのアーカイブ・品質管理・配信に関する研究（運営費交付金：重点プロジェクト）

[研究代表者] 山本 聰（リモートセンシング研究グループ）

[研究担当者] 山本 聰、水落 裕樹、松岡 萌、池田 あやめ、岩男 弘毅（常勤職員 5 名）

[研究内容]

地球観測衛星から撮影した衛星データは地球規模の地質防災、環境モニタリング、資源探査等の利用において極めて重要な情報である。本研究では、地質情報としての衛星データの整備と活用を目指す。衛星情報から潜在的な地質情報を抽出し、これをデータベース化・デジタル化された地質情報と統合することにより、資源管理、地質災害等に関する研究に資するデータを整備する。特に ASTER については、NASA で受信した生データの処理を定常的に行い、その結果を宇宙システム開発利用推進機構、米国 NASA/USGS に定期的に提供する環境を維持した。また、2016 年 4 月 1 日より、地質分野が提供するサービスの一つとして、gbank のサービスの一つである衛星データ検索システム (MADAS) を通じて ASTER-VA の一般公開を開始している。データの提供にあたって、品質管理されたデータ処理・管理を実現するため、ASTER のサブシステムである VNIR と TIR それぞれについて 49 日毎の機上校正データ解析を行い、センサ劣化特性の定量評価を行

った。過去の機上校正結果の長期トレンドに対する品質評価を基に、校正係数の再導出を行い、それらのデータを茨城大の関係者および宇宙システム開発利用推進機構へ提供した。その結果、ASTER データの品質評価基準において誤差を規定範囲と比べて大きく改善することにより品質管理に貢献した。

[キーワード] 地球観測衛星、ASTER、品質管理、地質情報

[テーマ題目 6] 海域地質図プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）

[研究代表者] 井上 卓彦（海洋地質研究グループ）

[研究担当者] 井上 卓彦、荒井 晃作、池原 研、三澤文慶、石野 沙季、有元 純、板木 拓也、天野 敦子、杉崎 彩子、鈴木 克明、清家 弘治、小田 啓邦、佐藤 太一、高下裕章、山下 幹也、鈴木 淳、宇都宮 正志、兼子 尚知、針金 由美子、山本 浩万、喜瀬 浩輝、久保田 蘭、飯塚 瞳、見邨 和英、石塚 治（活断層・火山研究部門）、大上 隆史（活断層・火山研究部門）、岡村 行信（活断層・火山研究部門）、片山 肇、佐藤 侑里、西田 尚央（東京学芸大学）、古山 精史朗（東京海洋大学）（常勤職員 23 名、他 7 名）

[研究内容]

日本周辺海域の地球科学的調査・研究を通じて、地殻を中心とした海洋地球に関する基盤的情報を系統的に整備し、広く社会へ提供する。特に、海洋地質図の整備、海洋地質データベースの構築とインターネット公開、これらを支え、発展・高度化させる基盤的研究を行い、世界をリードする研究に取り組む。なお、海洋地球に関する基盤的情報及び科学的知見は、国や社会の持続的発展を支える基本的公共財として、産業立地を含む各種海洋開発・災害軽減・環境管理などに対する基礎的資料となる。2024 年度は九州北西沖の海域地質調査を行った。具体的には東京海洋大学の神鷹丸を使った構造探査航海を 2024 年 9 月 26 日～10 月 15 日に行い、東海大学の望星丸による地質調査航海を、2024 年 10 月 19 日～11 月 27 日に行った。また、2022 年度調査航海に関して概要を地質調査研究報告に特集号として取りまとめ、特集：鹿児島県トカラ列島周辺の海洋地質-2022 年度調査航海結果として、2024 年 12 月に発行した。海域において調査航海を実施するとともに、これまでの調査航海の結果に基づき、海洋地質図の整備を進め、熊野灘の海底地質図の web 出版を行い、宮古島周辺、奥尻島北方の海底地質図の出版準備を整えた。

[キーワード] 海底地質図、重力・地磁気異常図、表層堆積図、データベース、日本周辺海域、北部沖縄トラフ海域、望星丸、神鷹丸

[テーマ題目 7] 海底鉱物資源プロジェクト（運営費交付

金：重点プロジェクト）

[研究代表者] 下田 玄 (資源テクトニクス研究グループ)

[研究担当者] 下田 玄、針金 由美子、佐藤 太一、後藤 孝介、山下 幹也、高下 裕章、井上 卓彦、三澤 文慶、石塚 治 (活断層・火山研究部門)、田中 弓 (常勤職員 9 名、他 1 名)

[研究内容]

沖縄トラフや伊豆一小笠原弧を含むフィリピン海とその周辺海域における海底鉱物資源の広域ポテンシャル調査を推進するための基礎研究を行った。伊豆一小笠原海域や琉球弧のテクトニックなデータを文献等から収集することで、有望海域の選定に資する研究を行った。また、これに基づいた物理探査や試料採取の為の調査航海の準備を行った。熱水鉱床形成が起きている可能性の高い地域、及び過去に鉱床が形成された可能性のある地域を抽出するため、我が国周辺海域における活動的な火成活動域についても検討した。陸上の基盤岩についても調査・研究を進めており、過年度に採取した岩石試料を中心に化学分析や鉱物学的研究の為の試料調製を進めた。

[キーワード] 海底鉱物資源、テクトニクス、伊豆一小笠原弧、琉球弧、フィリピン海プレート、地球化学、岩石学

[テーマ題目 8] 大陸棚調査プロジェクト (運営費交付金：重点プロジェクト)

[研究代表者] 井上 卓彦 (海洋地質研究グループ)

[研究担当者] 井上 卓彦、小田 啓邦、下田 玄、石塚 治 (活断層・火山研究部門)、森田 澄人 (地質情報基盤センター)、片山 肇、岸本 清行、湯浅 真人、西村 昭、棚橋学 (常勤職員 5 名、他 5 名)

[研究内容]

当該テーマは本部門の重点プロジェクトの一つであるが、地質調査総合センターを横断する大陸棚チーム員および客員研究員・外部有識者等の協力のもとに取り組んでいる。大陸棚調査プロジェクトには、二つの課題がある。一つは、2012 年 4 月 26 日にわが国が国連の『大陸棚の限界に関する委員会』(以下、大陸棚限界委員会) から受領した「延長大陸棚勧告」に基づき、わが国の延長大陸棚に関連する課題の技術的検討を担う『大陸棚延長部会 (2015 年度改定)』(内閣府総合海洋政策推進事務局所掌) を通じたフォローアップ作業への参画・貢献である。もう一つは、国連への大陸棚申請書作成のために用いた資料のうち産総研が保有するものを研究利用も含め維持管理することである。

1) 2012 年に受領した大陸棚限界委員会の「延長大陸棚勧告」に基づき、日本政府は 2014 年 10 月に政令により、勧告を受けた 4 海域のうち「四国海盆海域」と「沖大東海嶺南方海域」の 2 海域で延長大陸棚を設定した。2024 年 7 月には、「小笠原海台海域」について、2023 年 12 月に米国の公表した延長大陸棚に関する Executive Summary

において米国の延長大陸棚と認定している重複部分を除いた勧告された海域を日本の延長大陸棚と設定した改訂政令を 2024 年 7 月に施行した。「南硫黄島海域」については、勧告受けているが政令による設定はなされていない。一方、勧告において審査未了の「九州パラオ海嶺南部海域」の日本の延長大陸棚は、パラオ共和国が申請・審査中の延長大陸棚に接続・重複している。前年度に引き続き、「大陸棚限界委員会」での審査状況の把握、パラオ共和国の延長大陸棚の審査状況や進捗に関連した情報収集を行った。パラオ共和国は自国北部海域の分離修正申請を 2017 年 10 月に行い、2018 年 3 月の大陸棚限界委員会での決定を経て、審査を担当する小委員会が立ち上がり、審査継続中である。今年度は 3 会期に開催された大陸棚限界委員会においてパラオの小委員会が開催された。大陸棚限界委員会の HP の議長報告によれば、小委員会では大陸斜面基部・脚部の認定等がほぼ完了まで進捗しているようである。今後も審査の進捗および決定を見極めることが必須課題である。

2) 「大陸棚延長部会」における地質調査総合センターの役割として、我が国の「審査未了海域」の審査再開促進や審査再開後に向けて、同海域に関連する地球科学データや論文の取集・解析など必要な活動等を機関として維持することがある。大陸棚調査で得られた海底コア・岩石等の試料、および関連する地形・地質・地球物理データは試料庫・資料室等に保管し、日本の周辺海域の詳細な地球科学の基盤情報として適切な利活用に供するよう維持管理している。

[キーワード] 海洋地質調査、大陸棚画定、国連大陸棚限界委員会

[テーマ題目 9] 都市域の地質地盤図 (運営費交付金：重点プロジェクト)

[研究代表者] 野々垣 進 (情報地質研究グループ)

[研究担当者] 野々垣 進、中澤 努、小松原 純子、長郁夫、米岡 佳弥、藪田 桜子 (常勤職員 6 名)

[研究内容]

本テーマでは、ボーリングデータ等を利用して首都圏の 3 次元地質地盤図の作成を行っている。2024 年度は、埼玉県南東部の 3 次元地質地盤図を公開した。この 3 次元地質地盤図作成においては、1 万点以上のボーリングデータの解析結果を基に広域 3 次元地質モデリングを実施した。これにより、荒川低地や中川低地の地下に分布する沖積層の 3 次元分布形状を詳細に描き出したほか、良好な地盤とされていた大宮台地の地下にも沖積層に似た軟らかい泥層が谷埋め状に分布することを明らかにした。また千葉県北部延長域、千葉県中央部、および神奈川県東部の 3 次元地質地盤図作成に向けて、それぞれの地域において産総研による層序ボーリング調査のデータを軸に、自治体から提供を受けた大量の土木建築工事のボーリングデータに対する地層の対比作業を行い、その結果を基に地質サ

ーフェスモデルを作成した。加えて、層序ボーリング調査地点を中心に微動観測を実施し、地下の地質層序及び層相の違いによる地盤震動特性の差異について検討した。さらに千葉県域の 3 次元地質地盤図の高精度化および首都圏主要部の 3 次元地質地盤図のシームレス化に向けて、下総台地における層序の再検討を目的としたボーリング調査を 2 地点で実施した。ボーリング調査はともに更新統下総層群を対象としたものであり、千葉県印西市および千葉県松戸市において、それぞれ掘進長 100m および 60m の層序ボーリング調査を実施した。それぞれのボーリングコア試料の層相観察により、海水準変動に対応した堆積サイクルを認定し、これらの地域の層序の再検討に向けた重要なデータを得た。

[キーワード] 都市域の地質地盤図、3 次元地質モデリング、層序ボーリング調査、地盤震動特性

[テーマ題目 10] 沿岸域プロジェクト（運営費交付金：重点プロジェクト）

[研究代表者] 板木 拓也（地球変動史研究グループ）

[研究担当者] 板木 拓也、佐藤 智之、佐藤 善輝、小松原 琢（地質情報基盤センター）、宮川 歩夢、住田 達哉、天野 敏子、田村 亨、中島 礼、清家弘治、有元 純、阿部 朋弥、納谷 友規、長 郁夫、伊藤 忍、木下 佐和子、水野清秀、山口 和雄（地圈資源環境研究部門）、杉野 由樹、大熊 茂雄、大上 隆史（活断層・火山研究部門）、駒澤 正夫、入月俊明（島根大学）、須貝 俊彦（東京大学）、本郷 美佐緒、羽佐田 紘大（奈良大学）、堀 和明（東北大学）、佐久間 仁美（常勤職員 16 名、その他 12 名）

[研究内容]

本プロジェクトは、陸域と沿岸海域とをつなぎシームレス地質図を作成し、活断層や地下地質を含めた統合化された地質情報を整備することを目的としている。海域においては、小規模な高分解能マルチチャンネル音波探査と試料採取によって海域の層序と地質構造を明らかにする。また、陸域においては、ボーリング調査、踏査、地震探査、重力探査を実施し、地下の地質構造を明らかにしている。

2024 年度は、前年度に引き続き、紀伊水道とその周辺の平野部で取得されたデータと試料の解析を進めた。また、これまでに伊勢湾・三河湾で取得された地質情報をもとに海陸シームレス地質情報集「伊勢湾・三河湾沿岸域」を出版した。

[キーワード] 沿岸域、反射法音波探査、採泥調査、ボーリング調査、重力調査、層序、地下地質、活断層、紀伊水道、伊勢湾・三河湾

[テーマ題目 11] 微化石を用いた層序と古環境研究体制の構築による地質情報整備の加速化 (GSJ)

戦略的課題推進費)

[研究代表者] 宇都宮 正志（層序構造地質研究グループ）

[研究担当者] 宇都宮 正志、辻野 匠、羽田 裕貴、有元 純（地質情報研究部門）（常勤職員 4 名）

[研究内容]

微化石は地層の堆積年代や古環境を高精度で推定できることから、陸域地質図や海洋地質図、沿岸域シームレス地質情報集などの知的基盤整備に欠かせない技術である。GSJ は微化石の専門教育を受けた若手・中堅研究者が国内で最も多く在籍している研究機関だが、実験環境は専門的な微化石試料の処理を行う上で十分でなく、様々な由来の岩石試料を処理する研究者と共同で流し台や実験台を使用していた。その結果、異なる時代の微化石の混入や酸に弱い石灰質な微化石の溶解などのリスクがあった。そこで本課題では、655 室で珪藻、石灰質ナノ化石及び有孔虫化石の処理を集約的に行えるよう、老朽化した排水用堆積物トラップを交換し、超音波洗浄機を設置した。また塩酸を使用する珪藻化石と酸に弱い石灰質ナノ化石・有孔虫化石の処理を明確に区別して処理できる形に実験台を分担した。これにより陸域・海域・沿岸域の高精度な地質年代や古環境情報の品質を保証しつつ、作業を効率よく進めることができる。

[キーワード] 微化石、実験室整備、知的基盤

[テーマ題目 12] 海中・海底の連続多項目観測実現のための表層採泥器改修 (GSJ 戰略的課題推進費)

[研究代表者] 鈴木 克明（海洋地質研究グループ）

[研究担当者] 鈴木 克明、斎藤 直輝、高下 裕章、板木 拓也、清家 弘治、石塚 治（活断層・火山研究部門）（常勤職員 6 名）

[研究内容]

本研究は海洋地質調査で運用している木下式グラブ採泥器 (K グラブ) の運用範囲および機能拡張を目的とする。まず 2023 年度に開発した海中・海底連続撮影装置（使用機器: Hykecam SP2）について、運用試験と改修を行った。Hykecam の運用試験では焦点距離調整や光量等、大水深運用に向けた課題を洗い出した。また、予備として保管されていた K グラブ 2 号機について、1 号機と同等以上の項目の観測を実施できるよう改修作業を行った。

[キーワード] 海底カメラ、海底堆積物、環境影響評価

[テーマ題目 13] 内陸沖積河成層を対象とした超軟弱層の形成メカニズムの解明 (GSJ 戰略的課題推進費)

[研究代表者] 田邊 晋（平野地質研究グループ）

[研究担当者] 田邊 晋、佐藤 善輝、國本 節子（常勤職員 2 名、他 1 名）

[研究内容]

表層河成層が厚く分布する中川低地北限において、2 本

の堆積物コアを採取し、堆積相解析および物性値を測定した。その結果、表層河成層の含水率は、堆積環境ではなく、含泥率および有機物含有量と正の相関を示すことが解明された。

[キーワード] 沖積層、河成層、中川低地、堆積相、含水率、含泥率、有機物含有量

[テーマ題目 14] 3 次元地質地盤図ビューア改修 (GSJ 戦略的課題推進費)

[研究代表者] 野々垣 進 (情報地質研究グループ)

[研究担当者] 野々垣 進、藪田 桜子 (常勤職員 2 名)

[研究内容]

本研究では、地質サーフェスモデルや物性ボクセルモデルなどの 3 次元地質地盤モデルの Web ビューアの機能を強化することで、GSJ が整備する地質地盤情報の利便性を向上することを目的とする。2024 年度は、これまでに開発した WebGL ベースのサーフェスモデルビューアおよびボクセルモデルビューアそれぞれに対して、3 次元地質地盤モデルのステークホルダーである国・自治体・企業等からのニーズが特に大きい、地図表示機能、スケール表示機能、および方位表示機能という 3 つの機能を実装した。これにより、ビューア上に表示した 3 次元地質地盤モデルの地理的な位置や大きさの視認性が向上し、従来よりも正確かつ容易に地層や物性の 3 次元分布形態を把握することが可能となった。

[キーワード] 3 次元地質地盤モデル、サーフェスモデル、ボクセルモデル

[テーマ題目 15] 濑戸一豊田地域における未開発珪砂資源の予察的調査・研究 (GSJ 戦略的課題推進費)

[研究代表者] 中島 礼 (部門付)

[研究担当者] 中島 礼、長森 英明 (常勤職員 2 名)

[研究内容]

国内珪砂資源について、愛知県瀬戸一豊田地域を含む愛知県から岐阜県にかけて分布する新第三系及び第四系を対象に未開発の珪砂資源の予察的調査を実施した。愛知県の豊田市から瀬戸市、岐阜県の多治見市から土岐市にかけては珪砂を含む新第三系の瀬戸層群が、この周囲には珪砂を含む第四系の段丘堆積物が分布している。本研究では、段丘堆積物に含まれる珪砂について、資源として評価することを目的とした。豊田市や瀬戸市の下流域にあたる愛知県高浜市や碧南市には、上部更新統の段丘堆積物が広く分布している。この地層の珪砂は、上流に分布する三河山地の花崗岩や瀬戸層群が河川によって削剥、運搬されて堆積されたものである。本研究では、段丘堆積物に含まれる珪砂層を地質調査し、採集した珪砂のサンプルについて XRD と XRF 分析を実施し、段丘堆積物の珪砂の珪酸分 (SiO_2) は約 80%と低く、90%以上が必要とされるガラス原料などに使われる瀬戸層群の珪砂よりも低いことがわかった。

[キーワード] 珪砂、瀬戸、豊田、資源、瀬戸層群、段丘堆積物

[テーマ題目 16] 常温稼働可能な磁気顕微鏡開発と資源科学・地球惑星科学への応用 (産総研-東北大マッチング研究支援事業)

[研究代表者] 小田 啓邦 (地球変動史研究グループ)

[研究担当者] 小田 啓邦、福興 直人 (日本学術振興会特別研究員)、久保田 均 (新原理コンピューティング研究センター) (常勤職員 2 名、他 1 名)

[研究内容]

本研究は、令和 6 年度産総研-東北大マッチング研究支援事業として、実施された。本研究では、磁気顕微鏡システムの SQUID 素子を TMR 素子に置きかえ、液体ヘリウムによる冷却を必要としない常温での高感度磁気画像の取得を目指した。磁気センサとして用いるのは、脳磁計用に開発された高感度 TMR 素子である。本研究では、磁気顕微鏡のために分解能と高感度の両立に向け、2 種類の TMR 素子 (長さ $1073 \mu \text{m}$ および $357 \mu \text{m}$) の TMR 素子を用いて、較正と周波数特性の評価を行った。また、TMR 素子を用いて玄武岩薄片試料の磁気画像取得に成功し、SQUID 素子による磁気画像と比較検討した。さらに、TMR 素子を用いた海底鉄マンガンクラストの磁気画像取得を目指した。これらの結果をもとに、外部研究資金公募への応募も積極的に行なった。

[キーワード] TMR 素子、磁気センサ、磁気顕微鏡、SQUID 素子、玄武岩、海底鉄マンガンクラスト

[テーマ題目 17] 海洋ネガエミ技術に係る炭酸塩反応過程と生物石灰化機構の研究 (岡山大学と産総研とのマッチング研究支援事業)

[研究代表者] 鈴木 淳 (海洋環境地質研究グループ)

[研究担当者] 鈴木 淳、山岡 香子、源田 亜衣 (常勤職員 2 名、他 1 名)

[研究内容]

本研究は、令和 6 年度 岡山大学-産総研マッチングファンデーション事業として、実施された。2050 年カーボンニュートラル実現に向け、海洋の CO_2 吸収能力を活用した「海を利用したネガティブエミッション技術(海洋ネガエミ技術)」の開発が急務である。特に、水酸化カルシウムやカシラン石などを海洋に散布して、 CO_2 吸収能力の回復を促進する海洋アルカリ増進技術について、海外では実証実験が開始されているが、国内では認知度もまだ低く、実験的研究も行われていない。研究テーマの具体化に向けて、この技術開発が海洋生物へ与える影響の有無やその程度を事前に把握しておくことを目的として、影響評価に関する予察的研究を行なった。

[キーワード] 海洋ネガエミ技術、海洋アルカリ増進、石灰化

[テーマ題目 18] 先端遺伝子解析による分野横断・融合ベースの次世代型環境評価技術の開発（理事長裁量予算）

[研究代表者] 井口 亮（海洋環境地質研究グループ）

[研究担当者] 井口 亮、西島 美由紀、依藤 実樹子、池内 紗里（常勤職員 1 名、他 3 名）

[研究内容]

本研究では、環境 DNA/RNA 分析による水圈の環境解析法の高度化、生体情報解析技術による環境影響評価促進技術の開発、マイクロバイオーム情報を活用した環境評価技術の高度化と有用微生物資源データベースの構築を目的としている。本予算では、今年度は主に沖縄沿岸の環境 DNA データ取得と周辺環境データとの統合解析を実施した。特に微生物由来の酵素組成の把握を進め、論文として取りまとめた。また、各種環境変化に対する生物の網羅的遺伝子発現解析、生物集団の遺伝的多様性及び集団間の連続性に関する手法の高度化を進め、論文として取りまとめた。

[キーワード] 連結性、環境 DNA、環境影響評価

[テーマ題目 19] 「砂粒」自動鑑定技術の実用化（令和 6 年度コア技術育成支援 PJ）

[研究代表者] 板木 拓也（地球変動史研究グループ）

[研究担当者] 宮川 歩夢、松本 恵子（活断層・火山研究部門）、見邨 和英、吉岡 純平（常勤職員 5 名）

[研究内容]

地質情報の高精度化と将来懸念される専門技術者枯渇という課題を解決することを目的として、地層を構成する鉱物や火山灰、微化石等の「砂粒」を識別・鑑定するシステムの開発を開始した。

2024 年度は、自動スライド・スキャナを用いた「砂粒」画像の自動取得と AI による自動鑑定の連携技術を実用化した。また、ハイスクール化を目指して連続式の自動スライド・スキャナを新たに導入し、世界最速クラスの「砂粒」自動鑑定システムを構築した。

[キーワード] 人工知能、スライドスキャナー、微化石、火山灰、鉱物粒子

[テーマ題目 20] 地盤沈下を反映した相対海面上昇データベースの構築（国際化ボトムアップ連携支援事業）

[研究代表者] 田村 亨（地球変動史研究グループ）

[研究担当者] 板木 拓也、納谷 友規、田邊 晋、水落 裕樹（地質情報研究部門）、澤井 祐紀（活断層・火山研究部門）（常勤職員 4 名）

[研究内容]

海面上昇と地殻変動の和である「相対海面変動」の推移は、沿岸低地の環境保全・防災・開発に多大な影響を及ぼす。地球温暖化による 21 世紀の海面上昇速度は約 5 mm/ 年と言われるが、これに 10~20 mm/ 年以上の地盤沈下が

加わり、今世紀末までに 1~2 m 以上の相対海面の上昇を被る地域が世界中に偏在している。相対海面変動とその不確実性を評価するデータベース（DB）を示すことで、近い将来に発生する海面上昇とそこから派生する海岸侵食、高潮、津波、塩害などのリスクを適切に評価し、産業立地の計画や防災に有効利用することができる。

本研究では、こうした相対海面上昇の DB を確立するために、ニュージーランド GNS Science との共同で次の 2 つのテーマに取り組んだ。1) GNZ が公開している NZ SeaRise を参考に日本国内での DB 構築手法を確立する。2) NZ SeaRise で考慮されていない地盤沈下の不確実性を取り入れ、また DB の有効活用を両者で検討する。また、これらの目的のために、2025 年 2 月に GNS Science 研究者 5 名を招へいしてワークショップを行った。

[キーワード] 気候変動、地震、地殻変動、海面上昇

[テーマ題目 21] 点群 PNG の標準化（知財・標準化推進部業務）

[研究代表者] 西岡 芳晴（地質情報研究部門）

[研究担当者] 西岡 芳晴、川畑 大作（地質情報研究部門）

[研究内容]

点群 PNG は、近年、航空測量技術等の急速な進化、普及に伴って大量に生成、利用可能となってきたポイントデータを、インターネットを通じて利用するためのファイルフォーマットである。大量のポイントデータをリアルタイムに取得し描画することが可能であり、都市計画や自然災害対応等の広範な応用への活用が期待されている。公共測量を行う自治体や研究成果をオープンデータとして公開する研究機関等のファイルフォーマットとして利用されることを想定しており、特に三次元点群データに関しては、地方自治体等と利活用方法の検討等で情報交換を行いつつ進めた。

点群 PNG の仕様はほぼ確定状態であり、今年度は正式公開へ向けて WebP 形式への拡張可能性を確認した。また、大量の 3D 点群データを想定して、点群 PNG を地図タイルとして利用するために、点群 PNG タイルメーカーの動作速度を向上させ、点群 PNG タイルビューアーの改良により動作速度を向上、計測ツールを実装した。さらに、転送速度が速い点群 PNG の利点を活用して、ユーザー環境で LAS 形式に変換、保存できる点群ダウローダーを開発した。その上で、すでに全県の点群データを整備、公開している静岡県、兵庫県、長崎県の県庁職員らに、三菱総研との共同研究の枠組みの中の「点群データ活用研究会」を介して利用をはたらきかけた。

[キーワード] 点群 PNG、国際標準化、地方自治体

[テーマ題目 22] 平野地質の研究（運営費交付金）

[研究代表者] 納谷 友規（平野地質研究グループ）

[研究担当者] 納谷 友規、田邊 晋、佐藤 善輝、中谷 是崇、羽田 裕貴、水野 清秀、國本 節

子、田中 ゆみ子(平野地質研究グループ)
(常勤職員 5 名、他 3 名)

[研究内容]

本研究は、平野・盆地内あるいはその周辺の丘陵地・台地や低地地下を構成する主に第四紀堆積物の堆積プロセス・層序・地質構造あるいは地形の形成プロセス、環境変動などを明らかにすることを目的としている。

2024 年度は以下の研究を行った。京都盆地南部の巨椋池干拓地において簡易ボーリング調査と珪藻化石分析を行い、完新世中期以降の堆積環境変遷を復原した。本邦関東・東北地方や米国西部に分布する新第三紀～第四紀の地層群を対象に化学-磁気層序を構築し、古環境復元に向けた年代尺度を整備した。静岡県掛川地域の鮮新～更新統における火山灰層序を構築し、記載岩石学的特徴や火山ガラスの化学分析値などに基づき、火山灰層の他地域との広域対比を検討した。大分県姫島に分布する更新統の地質調査を行った。

[キーワード] 第四紀、新第三紀、沖積層、地形発達史、テフラ層序、古地磁気層序、複合年代層序、珪藻化石

[テーマ題目 23] 層序構造地質の研究（運営費交付金）

[研究代表者] 原 英俊(層序構造地質研究グループ)
[研究担当者] 原 英俊、辻野 匠、宇都宮 正志、伊藤 剛、武藤 俊、志村 侑亮、鈴木 敬介(常勤職員 7 名)

[研究内容]

日本列島を構成する活動的島弧と周辺の東・東南アジア諸国を含む大陸縁辺域における様々な地質現象を解明するための地質調査・研究を実施した。その結果として 2024 年度は、以下の成果を得た。

日本列島の古地理復元を目的に、陸中大原地域のペルム系の調査・分析を行い、後背地とアジア東縁との関係を明らかにした。前期三疊紀の海洋生物多様性変動の解明目的に、南三陸地域の地質調査を行なった結果、アンモノイド分類群の再編に資する化石群集を発見した。岐阜県関市栗野地域のジュラ紀付加体（上麻生ユニット）に含まれる礫を検討した結果、ペルム紀放散虫と骨針を発見し、海洋プレートからチャート礫が供給されていた可能性を指摘した。紀伊半島の四五十帯白亜紀付加体とその中の蛇紋岩について地質調査・分析を行なった結果、蛇紋岩の起源と付加体-蛇紋岩間の交代作用を明らかにした。室戸半島の四五十帯中新世付加体中の自生炭酸塩岩の形成に、付加体の変形フロント前縁部で湧水した熱水が寄与していることを明らかにした。若狭湾の中新世火山活動終期の実態理解のために化学分析を行った結果、舞鶴と丹後の火山岩が類似することがわかった。神奈川県、千葉県及び秋田県における新第三系の年代層序解明を目的に、石灰質ナノ化石及びテフラ層序を検討した結果、年代対比に有用なテフラ層や化石群集を見出すことができた。

[キーワード] 層序、構造地質、堆積学、活動的島弧

[テーマ題目 24] 地殻岩石の研究（運営費交付金）

[研究代表者] 工藤 崇(地殻岩石研究グループ)

[研究担当者] 工藤 崇、山崎 徹、佐藤 大介、中村 佳博、羽地 俊樹、山岡 健(常勤職員 6 名)

[研究内容]

島弧地殻形成において重要な変成作用・火成作用・堆積作用の進行過程を明らかにするため、主に日本列島を対象に変成岩・火成岩・堆積岩の野外調査、岩石試料の分析・解析、地質体及び岩石の形成モデリングを行い、以下のような成果を得た。1) 深成岩形成と接触変成作用の関係性解明を目的として関東山地金峰山地域の地質調査と熱構造解析を行なった結果、高いマグマフラックスでの深成岩形成史が明らかになった。2) 下部地殻苦鉄質深成活動の実態把握のため、大分県豊後大野市のコートランダイトの岩石学的・地球化学的検討を行い、それらが典型的な島弧火山岩組成の含水マグマから晶出したことを見いだした。3) 中部領家深成変成コンプレックスの貫入関係及び広域変成作用の解明を目的に、満島地域の領家花崗岩及び領家変成岩について地質調査と室内分析を行なった結果、満島地域の花崗岩類の貫入関係と貫入年代を新たに制約することができた。4) 白亜紀の地殻応力場の復元を目的に、福山地域の岩脈姿勢データ取得のための地質調査を行なった結果、本地域の岩脈の貫入順序は岩質よりも貫入方向により制約されることが明らかとなった。5) 沈み込み帶深部の蛇紋岩交代作用に伴う亀裂系の発達様式を解明するため、東吉野地域の鉱物脈を応力解析した結果、プレート収束に伴う短縮変形を反映していることが判明した。6) 青森県田子地域における中新統層序の高精度化のため、年代未詳の泥岩主体の地層について U-Pb 年代測定を行なった結果、これが一戸地域で確認される 16 Ma 頃の海成層に対比されることが判明した。

[キーワード] 地殻、岩石、島弧、沈み込み帯、変成作用、火成作用、堆積作用

[テーマ題目 25] シームレス地質情報の研究（運営費交付金）

[研究代表者] 内野 隆之(シームレス地質情報研究グループ)

[研究担当者] 内野 隆之、西岡 芳晴、坂野 靖行、長森 英明、川畑 大作、阿部 朋弥、村岡 やよい、片桐 星来、斎藤 真、宝田 晋治、内藤 一樹、吉川 敏之、長津 樹理、井川 敏恵、松崎 紗代子、巖谷 敏光、阪口 圭一、星住 英夫(常勤職員 12 名、他 6 名)

[研究内容]

シームレス地質図に関連する業務、地質図幅の作成、斜面災害斜面災害リスク評価図作成等を行う。2024 年度は、20 万分の 1 日本シームレス地質図 V2 の関連技術である「点群 PNG」フォーマットについて、国際標準化に向け

た活動を進めるとともに、幾つかの自治体から得た標高データをもとに点群 PNG タイルを作成したほか、点群 PNG ファイル作成ツールを整備した。地質図幅については、5 万分の 1 地質図幅の「妙高山」、「盛」、「満島」、「種子島南部」、「盛岡」の作成を進めた。斜面災害プロジェクトについては、災害履歴や岩石の面データなど各種地質情報の収集・整備ならびに解析を行い、九州北部地域の斜面災害リスク評価図を作成した。JIS については、A0204 及び A0205 の作成を進めた。

[キーワード] シームレス地質図、点群 PNG、国際標準化、地質図幅、斜面災害リスク評価、JIS

[テーマ題目 26] 情報地質の研究（運営費交付金）

[研究代表者] 長 郁夫（情報地質研究グループ）

[研究担当者] 長 郁夫、野々垣 進、米岡 佳弥、藪田 桜子、中澤 努（常勤職員 5 名）

[研究内容]

本テーマでは、地層や地質試資料から新たな地質情報を抽出し、それらを高度化、統合化することによって、新たな地質学的視点を創出する研究を行っている。具体的には、愛知県の中央構造線付近に発達する砂岩岩脈の形成プロセスを明らかにするために、野外調査による砂岩岩脈の地質記載および定方位サンプリングを実施した。また、貫入面の方位データを用いて砂岩岩脈貫入時の古応力解析を行った。2022 年にサンプリングを行ったアルカリ玄武岩 10 試料に対して、これらの成因を検討するために Sr 同位体および Mg 同位体分析を行った。サーフェスモデル型の 3 次元地質モデリング研究の一環として、ボーリング柱状図解析システムを通して作成した標高データセットから地層基底面を推定し、推定面の形状や精度を視覚的・数値的に確認するまでの処理の機械化を進めた。微動を用いた地質地盤調査手法開発の一環として、浅部微動探査用のアレイ形状に関するガイドラインを策定した。H/V スペクトルのピーク読み取りアルゴリズムを策定し、微動アレイ探査システムに組み込んだ。地下構造可視化システムの維持管理を継続した。石材の地質学的研究として、類似する秋吉石灰岩産石材と赤坂石灰岩産石材を比較し、歴史的建造物の改修時の石材利用について検討した。また国会議事堂に使用される阿哲石灰岩産の石材の詳細な岩相及び产地を明らかにした。

[キーワード] 情報地質、都市地質、ボーリングデータ、3 次元地質情報、常時微動

[テーマ題目 27] リモートセンシングの研究（運営費交付金）

[研究代表者] 山本 聰（リモートセンシング研究グループ）

[研究担当者] 山本 聰、水落 裕樹、松岡 萌、池田 あやめ（常勤職員 4 名）

[研究内容]

当研究グループは、ASTER を始めとする様々な衛星デ

ータと地質情報を統合することにより、環境・資源・防災・宇宙分野に関わるリモートセンシングの研究開発を行っている。2024 年度の研究では、地質災害モニタリングとして、光学（マルチ・ハイパー）や SAR 等の長期衛星画像を用いた斜面災害リスク評価のための情報抽出に関する研究を実施した。環境モニタリングとして、沖縄沿岸域の環境影響評価技術に関する研究を実施した。また、ハイパーデータを用いたソーラーパネルの種類判別等に関する研究や、ドローンを活用したハイパー技術の開発研究を実施した。加えて、衛星データを活用した農業分野への応用研究として、民間企業との技術コンサルを行った。さらに将来の月資源探査を目的としたハイパーデータを活用した鉱物データマイニング研究や、月表層の進化過程の解明を目的とするハイパーデータと高解像度可視画像の融合解析研究を行った。またハイパー研究の応用として、小惑星リュウグウのリモートセンシングデータと回収試料分析データの統合解釈に関する分光研究を実施した。

[キーワード] ASTER、衛星、地質災害、環境モニタリング

[テーマ題目 28] 海洋地質の研究（運営費交付金）

[研究代表者] 井上 卓彦（海洋地質研究グループ）

[研究担当者] 井上 卓彦、杉崎 彩子、三澤 文慶、石野 沙季、有元 純、鈴木 克明、片山 肇、岸本 清行、佐藤 侑里、新井 和乃、土井 詩織、田村 マリアン、西田 尚央（東京学芸大学）、古山 精史朗（東京海洋大学）、村上 文敏（客員研究員）（常勤職員 6 名、他 9 名）

[研究内容]

日本周辺海域の海洋地質情報を整備公開するとともに、日本周辺海域の地質構造発達史、活断層評価、堆積作用、古環境変動、海底火山や熱水活動等に伴う地質現象の解明を目指している。2024 年度は以下のようない成果を得た。

日本周辺海域の地質構造に関する研究では、九州北西方海域において、音波探査や地形調査、岩石採取調査を着実に実施し、この海域の層序や活構造、地質構造発達史に関する試料を採取した。加えて過年度まで実施していたトカラ列島周辺海域の試資料について解析を進めた。沿岸域調査として、紀伊水道で実施した音波探査については海陸シームレス地質図の完成に向けて解析を進めた。三宅島周辺の調査においては、火山島周辺域の地質情報を得るために、水中ドローンや採泥器を用いた火山噴出物の把握に努め、海底火山や堆積層の分布について検討した。また令和 6 年能登半島地震発生を受けて、緊急調査航海を実施した。これにより過去に取得した断層の情報と比較し、令和 6 年能登半島地震の活動について把握することが出来た。加えて能登半島地震を受けて実施した外部機関との共同研究航海、過年度沖縄トラフ南部で実施した公募調査航海の成果について、学会発表を通じて成果発信を行った。さらに、SIP の一環としてサブボトムプロファイル探査結果や

反射法地震探査の結果のとりまとめ、その後の評価等に貢献した。堆積作用の研究では、九州北西方海域の調査航海により、多くの地点で堆積物試料を採取した。加えて過年度まで実施したトカラ列島周辺海域における堆積作用の検討を進めた。古環境変動の研究では、九州北西、福徳岡ノ場海底火山周辺の外洋域に加え、石川県能登半島沿岸域、秋田県一ノ目潟、北海道朱鞠内湖の沿岸海域・湖沼域において調査を実施した。これらの海域に加えて南極周辺で採取された柱状試料や表層堆積物試料を用い、微化石や有機・無機化学組成の分析結果を含め海洋環境の変遷およびその原因となった海洋イベントとの関係について研究を進めた。また、トカラ列島諷訪之瀬島周辺海域において、イベント堆積物の供給源を推定するための堆積物調査・地形探査・三成分地磁気探査に加え、海洋プラスチック調査を行った。さらに、人工知能/深層学習を活用した珪藻化石の古環境学的分析手法については、良好な実験結果を得た。また、これまでの海洋調査で取得された音波探査記録および堆積物試料データのデジタル化に加え、海洋地質情報のシームレス化を念頭に、既存の海洋地質データを統合的に管理・表示するために構築したデータベースへの登録を進めるとともに、民間企業に対する技術コンサルティング契約を複数受託した。

[キーワード] 海洋地質、日本周辺海域、沿岸海域、海底地質構造、海域活断層、堆積作用、古環境

[テーマ題目 29] 地球変動史の研究（運営費交付金）

[研究代表者] 板木 拓也（地球変動史研究グループ）

[研究担当者] 板木 拓也、小田 啓邦、田村 亨、天野 敦子、佐藤 智之、清家 弘治、見邨 和英、飯塚 瞳（常勤職員 8 名）

[研究内容]

海陸の地質・古生物学的及び地球物理学的情報を統合して、地質学的時間スケールの地球環境システムやテクトニクスの変動史の解明を目標とする。広域の研究をカバーするため、グループは多様な専門分野からなる研究者集団として構成され、個々の研究者が高い技術力を維持するとともに革新的な技術を創出、情報発信することで、当該分野におけるリーダーシップを取りつつ、所内外からの要請や連携にも対応する。また、これらの研究を基盤として当部門のミッションである陸域、海域、それらを繋ぐ沿岸域の地質情報の整備、及び海底鉱物資源ポテンシャル評価に資する調査を行い、更に発展的な研究としてこれらを展開する。

2024 年度は、AI（人工知能）、磁気顕微鏡、堆積物の非破壊イメージングなどの最新技術を用いることで分析や解釈の効率化・高度化を図る技術の開発・運用を進めた。また、陸域、海域及び沿岸域の地質調査を実施し、地質図作成の基礎情報を収集・出版するとともに、海洋マイクロプラスチックに関する調査も実施した。

[キーワード] 古環境解析、複合年代層序、微化石層序、古生物、古地磁・岩石磁気、磁気顕微鏡、非破壊イメージ

ング、高分解能地層探査、沿岸域、地質災害リスク、AI（人工知能）、海洋プラスチック

[テーマ題目 30] 海洋環境地質の研究（運営費交付金）

[研究代表者] 鈴木 淳（海洋環境地質研究グループ）

[研究担当者] 鈴木 淳、井口 亮、高橋 晓、長尾 正之、山岡 香子、喜瀬浩輝、齋藤 直輝、源田 亜衣、西島 美由紀、依藤 実樹子、池内 絵里、儀武 混大、吉永 弓子、山本 紗、井上 絵里（常勤職員 7 名、他 8 名）

[研究内容]

地球環境問題、すなわち海域の温暖化、海洋酸性化・海洋貧酸素化の海洋生物等への影響の解明、そして過去の変遷の復元を目標として、研究を実施した。ICP-MS 分析計による地球化学的分析法や、遺伝生態学的解析手法の高度化に取り組んだ。コバルトリッヂクラストや海底熱水鉱床、表層型メタンハイドレート及びマンガン団塊等の海洋エネルギー・鉱物資源については、生物地球化学、遺伝生態学手法を用いた物質循環と環境変遷の調査・分析を主体として、海洋環境ベースライン調査、環境影響評価の観点からの研究を実施した。また、部門の重点プロジェクト「海域地質図プロジェクト」には、調査航海へ参加するとともに、表層堆積物の微生物分布情報の蓄積を目的として、DNA 抽出及びハイスクレーブットシーケンサーにより塩基配列を決定して、微生物群集構造を明らかにした。融合研究ラボ「環境調和型産業技術研究ラボ」においては、エネルギー・環境領域や計量標準総合センターと積極的な研究交流を持ち、「ネイチャーポジティブ（自然再興）」をキーワードとして、社会課題の解決に資する取り組みを実施した。

[キーワード] 地球環境、環境影響評価、生物多様性、遺伝生態学、同位体比、物質循環、沿岸海洋

[テーマ題目 31] 資源テクトニクスの研究（運営費交付金）

[研究代表者] 下田 玄（資源テクトニクス研究グループ）

[研究担当者] 下田 玄、針金 由美子、佐藤 太一、後藤 孝介、山下 幹也、高下 裕章、田中弓（常勤職員 6 名、他 1 名）

[研究内容]

四方を海に囲まれた我が国は火成活動が盛んであり、我が国の排他的経済水域においても活発な火山活動が報告されている。すなわち、我が国の排他的経済水域内には、海底鉱物資源の賦存が期待できる島弧火山列が複数存在する。グループでは、島弧火成活動や背弧海盆拡大に関連したテクトニクスな時空変遷を解明することにより、海底鉱物資源の広域ポテンシャル評価に資する研究を行った。海域の地質試料に対して地質学的・岩石学的・地球化学的な解析を行い、かつ、異なる研究手法を組み合わせることで、海底鉱床の生成に重要な元素の移動や濃集過程を解明

し、鉱床形成につながる元素濃集過程の指標を科学的に見いだすことを試みた。島弧の形成過程を科学的に解明することにより海底鉱物資源の広域的なポテンシャル評価に資する指標開発を実施した。岩石学的・地球化学的な研究は、海底鉱床の生成に重要な元素の移動や濃集過程の解明に応用することができる。従って、同位体比や化学組成が変化する過程を科学的に解明することで、鉱床形成につながる元素濃集過程の指標を科学的に見いだすことを目標に研究を行った。

[キーワード] 海底鉱物資源、テクトニクス、地球化学、岩石学

[テーマ題目 32] 地球化学の研究（運営費交付金）

[研究代表者] 間中 光雄（地球化学研究グループ）

[研究担当者] 間中 光雄、久保田 蘭、遠山 知亜紀、
中村 淳路、三國 和音（常勤職員 5 名）

[研究内容]

地殻における元素の地球化学的挙動解明の研究として、鉱物・土壤・堆積物などに取り込まれた微量元素の挙動及び存在状態解析の研究、地表環境下における粘土鉱物が関与する岩石-水反応の研究、宇宙線生成核種等の同位体を用いた堆積・浸食過程解析の研究、ハロゲン元素の地球化学的研究及び上部マントルの地球化学的研究を行った。

鉱物・土壤・堆積物などに取り込まれた微量元素の挙動及び存在状態解析の研究では、八丈島の土壤の地球化学的特性と植生分布について検討した。地表環境下における粘土鉱物が関与する岩石-水反応の研究では、土壤から流出する溶質量と降雨量の関係について実験的に調査した結果を取りまとめた。宇宙線生成核種等の同位体を用いた堆積・浸食過程解析の研究では、採取試料の分析を進めつつ、分析時の電極材質の影響を評価した論文 1 編を国際誌に公表した。ハロゲン元素の地球化学的研究では、GSJ の標準岩石試料の全ハロゲン濃度の推奨値の決定を目指すとともに、塩素同位体比分析法の開発法について検討した。上部マントルの地球化学的研究では、プチスポット火山産玄武岩質捕獲岩についての論文 1 編を国際誌に公表した。

[キーワード] 地球化学、土壤、堆積物、存在形態、ハロゲン、同位体、宇宙線生成核種、玄武岩

[テーマ題目 33] 地球物理の研究（運営費交付金）

[研究代表者] 名和 一成（地球物理研究グループ）

[研究担当者] 名和 一成、伊藤 忍、大滝 壽樹、大谷 竜、住田 達哉、宮川 歩夢、木下 佐和子、大熊 茂雄（常勤職員 7 名、他 11 名）

[研究内容]

国土及び周辺地域の地下構造・地下動態の把握・解明の為に、各種物理的手法による計測・探査・解析・解釈技術の開発・改良を行う。複数の地質・地球物理情報に基づく、モデリング・モニタリング手法やシミュレーション手法の開発を行う。所内外の連携研究を中心としたプロジェクト研究の基礎を支え、将来の新しいプロジェクト創出となる

萌芽的研究も実施する。具体的には、日本の陸域の地質情報整備の一環としての地球物理図の整備と沿岸域の海陸シームレス地質情報の整備の基礎を支える。また、地質調査総合センターの他部門・グループとの連携研究とともに、他の領域や研究機関、民間企業との連携・共同研究にも積極的に携わる。

2024 年度、運営費交付金や科学研究費補助金課題などの関連研究課題を進捗させて、研究成果を国際・国内誌上で発表した。地震波を用いた南米南部の深部地下構造解析の結果が Q1 ジャーナル誌に掲載された。また、浅部地下構造解析の結果を地質調査研究報告誌上で公表した。初めて発表された「南海トラフ地震臨時情報」を受けて実施した緊急アンケートの結果を査読付論文として公表した。そのほか、他部門・他機関と連携して、重力モニタリングを実施している道東屈斜路カルデラ地域に高分解能微気圧計を設置して継続的にデータを取得した。技術コンサルティングを受け、民間企業に重力解析ソフト構築にむけての技術的支援を行った。物理探査ができる人材育成のため、岡山平野での重力探査を通じて、学部生 2 人に技術指導を行った。

[キーワード] 地球物理、地殻構造、地球ダイナミクス、地球科学情報、重力探査、重力モニタリング、地震探査、地震波解析、磁気探査、岩石物性、データベース、人材育成

[テーマ題目 34] 標準試料自己財源（成果普及品自己財源）

[研究代表者] 間中 光雄（地球化学研究グループ）

[研究担当者] 間中 光雄、久保田 蘭、遠山 知亜紀、
中村 淳路、三國 和音、太田 充恒、立花 好子（常勤職員 6 名、他 1 名）

[研究内容]

地質試料は多種・多様な成分で構成され、化学分析の際には各成分が互いに影響しあうため、正確な分析を行うためには、目的とする試料と主要な化学組成が良く似た、目的成分の濃度が決められている標準試料が必要不可欠である。地質情報研究部門は化学分析用岩石標準試料の国内唯一の発行機関として、1964 年以来、約 60 年にわたって地質関連試料の標準試料を作製し、世界各国の研究機関との共同研究により、化学組成や同位体組成、年代値の信頼性の高いデータを定め公表してきた。この標準試料は世界中で活用され、分析精度を高める標準として世界的に大きく貢献している。しかしながら、近年の国際化の動きの中で、標準物質は国際的な標準である ISO のガイドラインに対応することが望ましく、当部門発行の岩石標準試料についても、NITE 認定センターより ISO に対応した標準物質生産者としての認定（ASNITE 認定）を取得し、ISO の規定に則った認証標準物質（地球化学標準物質）とした。なお、標準試料の各種情報はデータベースとしてインターネット上で公開され、認証書の見本や各試料の分析データ等を見ることができる。

標準物質生産者としての ISO 認定については、再認定審査を継続的に受審し、認定の継続が認められ、新しい認定証が交付されている。認定は基本的に 4 年毎に更新され、その中間年度と更新年度に、それぞれ認定維持審査と再認定審査が行われる。

2024 年度の品質目標として、特に品質システムの適切な管理および要員教育の継続を設定した。品質システム管理においては、リスクの明確化や記録・データ類の管理を適切に行なった。要員教育においては、特性値決定要員による新人の分析訓練を実施し、湿式法による化学分析手法の技術維持と特性値決定における不確かさの評価手法の理解・適応を目指させた。なお、業務を適切に遂行させるために、各要員間のコミュニケーションを十分に取るよう留意した。

[キーワード] 国際標準、標準物質、地球化学、岩石、土壤、化学組成

[テーマ題目 35] 海洋地質データ頒布（成果普及品自己財源）

[研究代表者] 井上 卓彦（海洋地質研究グループ）

[研究担当者] 井上 卓彦、荒井 晃作、三澤 文慶、石野 沙季、有元 純、佐藤 太一、高下 裕章、片山 肇、佐藤 侑里、新井 和乃（常勤職員 7 名、他 3 名）

[研究内容]

地質調査総合センターでは、旧地質調査所時代の 1970 年代からの海洋地質図作成のための調査データが蓄積されている。近年の海域利用やデータ利活用の社会要請の高まりに対応し、既存の海洋地質図作成 1 次データを集約、統合的な管理を実施したうえで、外部機関への提供を行っている。

現在は、これまでに海洋地質図調査で取得された表層地層探査 (SBP) 断面および堆積物試料データのデジタル化を継続的に実施し、これらのデジタル化した SBP 断面データ、底質の粒度情報や写真、柱状図データ等といった堆積物データに加えて、反射法地震探査データを産総研内部データベースに順次登録している。本データベースは、全てのデータを統合的に管理・表示できるよう構築している。また、これらの海洋地質図 1 次データについては、産総研の手順に則って、民間企業の要望に応じて、データ頒布している。データ頒布は地質図幅区画ごとに、航走観測データ（反射法地震探査データ、SBP データ、地形等）と停船観測データ（堆積物の粒度、試料写真、海底写真、柱状記載等）とで個別に提供している。2024 年度は全 16 区画分のデータを頒布し、民間企業に利活用頂いた。またデータ提供に合わせて、複数の技術コンサルタント契約も締結している。

[キーワード] 海洋地質図、1 次データ頒布、データベース、日本周辺海域、海域利用、データ利活用、民間企業

4. 外部資金による研究

経済産業省 :

- 4.1 令和 6 年度 ISS 搭載型ハイパースペクトルセンサ等の研究開発 校正等に係る研究開発に関する再委託事業 : 2024 年度 HISUI の校正検証
- 4.2 令和 6 年度コバルトリッヂクラスト国際鉱区等における環境調査業務 (独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構)
- 4.3 令和 6 年度海底熱水鉱床における環境保全策検討業務 (エネルギー・金属鉱物資源機構)

文部科学省 :

- 4.4 重点的調査観測事業: 防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト: 海底堆積物を用いた地震・津波履歴情報の整備

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 :

- 4.5 海水と生体アミンを用いた CO₂ 鉱物化法の研究開発

環境省 :

- 4.6 環境研究総合推進費: 海洋流出マイクロプラスチックの物理・化学的特性に基づく汚染実態把握と生物影響評価

日本学術振興会科学研究費助成事業 :

- 4.7 複合微化石分析に基づく紀伊半島周辺における第四紀後期海水準変動の解明
- 4.8 マルチアレイ観測による深部低周波地震の発生メカニズムの解明
- 4.9 鐘乳石の高解像度磁気+化学分析による地磁気エクスカーション環境変動の連関性評価
- 4.10 極微量年代測定が実現するミクロネシアにおける放射性炭素海洋リザーバー効果の評価
- 4.11 大酸化イベントに関する研究 : モリブデン同位体は酸化的風化の指標なのか?
- 4.12 カンボジア、インドチャイナ地塊からのプロト日本の探求
- 4.13 ナマコ類による底質の蓄積型栄養塩除去と細菌叢改变がサンゴの生育に及ぼす影響の解明
- 4.14 中新世西南日本の時間的・空間的高分解能の応力史の構築
- 4.15 島弧の形成過程において鍵となる下部地殻の物質変遷プロセスの解明
- 4.16 磁の残留磁化分析による東京低地地下河川成磁層の堆積年代決定
- 4.17 島嶼地域の稻に耐暑性を与え収量を増加させるための廃ガラス肥料の開発
- 4.18 サンゴ礁の隠蔽空間と隠蔽生物群集の解明
- 4.19 マルチオミクス解析を駆使した髓膜腫悪性化機序の

解明

- 4.20 コラリコリッドはサンゴの高温耐性を高めるか?
- 4.21 琉球列島の洞窟水圏環境における生物多様性の解明
- 4.22 環境適合型サンゴの養殖・移植技術の確立
- 4.23 統合層序・年代モデル構築に基づく日本海溝の過去数万年間の地震履歴の解明
- 4.24 +1~2°Cの温暖期に西南極氷床は急速に融解する臨界点に到達するのか?
- 4.25 革新的デジタル技術で拓く新生代の低次生態系多様性進化
- 4.26 南極深海サンゴによる産業革命以降の周極深層水変動の復元
- 4.27 共生微生物から探るサンゴの分布拡大メカニズム
- 4.28 極小微動アレイ探査を用いた沖積低地の微高地種別判別技術の開発
- 4.29 ゲノム比較で解明するミドリイシ属サンゴの産卵時期決定の遺伝的基盤
- 4.30 サンゴ礁の隠蔽空間と隠蔽生物群集の解明
- 4.31 機械学習で拓くイクチオリス微化石を用いた海洋生態系の変遷解読
- 4.32 2.5 億年前の大量絶滅期、古太平洋遠洋域の海洋最上部は無酸素化したか?
- 4.33 宇宙線生成核種の年間生成率決定: 地球磁場モデルの検証と新たな年代換算法の構築
- 4.34 機械学習による首都圏平野部におけるボーリングデータの地層対比手法の研究
- 4.35 地質構成に基づく谷底低地の類型化と地盤震動特性に関する研究
- 4.36 火山灰編年と生層序に基づく関東平野成立 300 万年間の発達史研究
- 4.37 近代建築物を彩った日本の石: 国産建築石材の標本探索と破壊・非破壊分析
- 4.38 更新世チバニアン期におけるイタヤガイ科二枚貝の絶滅とその古環境背景
- 4.39 アトムプローブトモグラフィーによる地球最古有機物質の原子構造解析
- 4.40 琉球層群礁性石灰岩の古地磁気・岩石磁気分析による高分解能地球磁場・気候変動の復元
- 4.41 地磁気年代推定法で解き明かす海溝型巨大地震の発生史
- 4.42 過去 600 万年間の太平洋溶存酸素濃度の復元: 海洋炭素貯留の理解にむけて
- 4.43 地震予測情報の発信のあり方に関する地震研究者とメディア関係者による協働的検証
- 4.44 地震学的アプローチによる地球外核深部の不均質に関する研究
- 4.45 日本周辺の堆積物・サンゴ試料を用いた高時間解像度の気候復元と社会への影響評価研究
- 4.46 将来の海洋酸化が全球の炭素循環に及ぼす影響の検証
- 4.47 サンゴ骨格を用いた蓄積型栄養塩評価の新展開

- 4.48 海洋域のカンラン岩を用いたマントルの強親鉄元素過剰の再検討
- 4.49 極めて健全な沿岸環境が保全された海域で生痕相を研究する
- 4.50 サンゴ礁海域保全に向けた遺伝子流動ネットワークの解明：海景遺伝学によるアプローチ
- 4.51 陸海堆積物の統合調査から紐解く有史以前のトカラ列島災害履歴
- 4.52 時間スケールの異なるデータに基づくプレート沈み込帶周辺ヒンジラインの成因解明
- 4.53 古生代におけるゴンドワナ北東縁の大陸分裂から解くアジア東縁の古地理変遷
- 4.54 地球内部物質循環解明のための塩素同位体標準物質の選定とハロゲンデータの蓄積
- 4.55 OSL 年代に基づく和歌山平野の地形発達と集落遺跡の進出過程の再構築
- 4.56 河川のアバルジョンに着目した氾濫原の形成過程の解明
- 4.57 陸上堆積物試料分析と GIA モデル解析の融合による間氷期の南極氷床融解史の解明
- 4.58 火星の地下氷分布推定に向けた地球アナロジの周氷河地形の地下構造探査と形成過程解明
- 4.59 新しい岩脈法による九州北西部の応力場変動史の解明
- 4.60 新生代石灰質ナノプランクトンの進化と古生物地理に基づく新たな年代指標の開発
- 4.61 火山灰編年と生層序に基づく関東平野成立 300 万年間の発達史研究
- 4.62 深成岩と接触変成岩から解明するマグマ溜まり形成史
- 4.63 東南極沖合の現場観測に基づく氷-海洋-海底システムの理解
- 4.64 日高地殻-マントル・マグマシステムの解明
- 4.65 海-陸シームレス地層掘削から探る南極氷床の大規模融解メカニズム
- 4.66 地磁気逆転現象が気候・生態系に対して与えた影響の検証
- 4.67 サンゴの高温適応を考慮した新たな将来予測の実現
- 4.68 サンゴ礁及び周辺生態系由来の環境酵素によるフェーズシフト抑制効果の検証
- 4.69 過去の温暖期における南極氷床・海洋実像の解明
- 4.70 過去の温暖期における南極氷床の大規模融解の実態解明：鉛同位体に着目した新たな解析
- 4.71 気候不安定化とティッピング・カスケード：気候危機の真打を検証する
- 4.72 北極海-大気-植生-凍土-河川系における水・物質循環の時空間変動
- 4.73 磁気顕微鏡による地球内核形成前後の地球磁場復元と地球生命史への影響の解明
- 4.74 マルチスケール宇宙線生成核種分析より紐解く地質時代の宇宙・地球現象と環境変動
- 4.75 沿岸浅海域の地理学研究：浅海底地形学の構築および海底景観の可視化と啓発
- 4.76 資源利用行動から探る新人社会の基盤形成史：レヴァント地方乾燥域の考古科学的研究
- 4.77 サピエンスによる海域アジアへの初期拡散と島嶼適応に関する学際的総合研究
- 4.78 サピエンス数理先史学 一新人拡散にともなう文化進化モデリング

経済産業省 :**4.1 令和 6 年度 ISS 搭載型ハイパースペクトルセンサ等の研究開発 校正等に係る研究開発に関する再委託事業 (テーマ名) : 2024 年度 HISUI の校正検証 (タイトル)**

[研究代表者] 山本 聰 (リモートセンシング研究グループ)

[研究担当者] 山本 聰、水落 裕樹、松岡 萌、池田 あやめ、土田 聰、堂山 友己子、浦井 稔、岩男 弘毅 (地質情報研究部門) (常勤職員 5 名、他 3 名)

[研究内容]

さまざまな地球観測センサの中でハイパースペクトルセンサは、高波長分解能のデータを取得することができるため、従来センサに比較し、より詳細な対象物の性質分析が可能となる。経済産業省では国際宇宙ステーション (ISS) に搭載したハイパースペクトルセンサ (以下、HISUI) を開発し、2020 年度より本格観測を開始した。得られたデータを活用するためには、校正・検証の技術開発や観測計画の立案が不可欠である。そこで、ハイパースペクトルデータの放射量・波長校正などの物理量精度向上のため、HISUI に必要な各種校正 (オンボード機器校正、波長校正、代替校正、相互校正研究開発、分光データライブラリなど) の研究開発および整備を継続し、「校正計画書」に反映させた。また、校正アーカイブシステム開発サーバ (CDAS) の開発・整備を進め、データインターフェースおよびアーカイブ機能部、ラジオメトリック DB において、更新・修正・整備を行い、これらの結果を「校正アーカイブシステムに係る文章」に反映させた。また、定期的かつ効率的に観測を継続することを目的とし、HISUI の運用シナリオに基づき、HISUI のスケジューラ運用が必要となる管理業務、運用支援、必要データ更新等を行い、さらに長期観測計画の検討も行った。

[キーワード] 衛星画像、校正・検証、ハイパースペクトルセンサ、ISS、HISUI

4.2 令和 6 年度コバルトリッヂクラスト国際鉱区等における環境調査業務 (独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構)

[研究代表者] 井口 亮 (海洋環境地質研究グループ)

[研究担当者] 井口 亮、鈴木 淳、山岡 香子、齋藤 直輝、長尾 正之、喜瀬 浩輝、清家 弘治、高橋 曜、宇都宮正志、西島 美由紀、池内 絵里、田中 裕一郎 (研究戦略部)、鈴村 昌弘 (環境創生研究部門)、塙崎 あゆみ (環境創生研究部門)、太田 雄貴 (環境創生研究部門) (常勤職員 12 名、他 3 名)

[研究内容]

コバルトリッヂクラストは、金属資源の枯渇・不足を解

消する重要な金属資源の供給元として注目を集めている。しかし、現状このような鉱石を安全かつ環境に配慮して採掘する技術は確立されていない。このような背景の下、将来のバルトリッヂクラスト資源開発域周辺の環境影響評価に貢献することを目指し、独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構の受託研究を実施した。コバルトリッヂクラスト国際鉱区において、国際海底機構の環境影響評価ガイドラインに準拠して環境ベースライン調査を実施し、基礎的な環境情報を取得した。

[キーワード] 環境影響評価、コバルトリッヂクラスト、遺伝子解析

4.3 令和 6 年度海底熱水鉱床における環境保全策検討業務 (エネルギー・金属鉱物資源機構)

[研究代表者] 井口 亮 (海洋環境地質研究グループ)

[研究担当者] 井口 亮、喜瀬 浩輝、儀武 涼大 (常勤職員 2 名、他 1 名)

[研究内容]

本研究の目的は、海底熱水鉱床周辺の生物群集及び環境特性や、かく乱試験・パイロット試験による環境影響モニタリング結果等をとりまとめて、環境影響評価手法のあり方を整理することである。2024 年度は、調査海域周辺で採取された底生生物の種内の遺伝的多様性及び連結性の把握を、次世代シーケンサーを用いた遺伝子解析によって進めて、取得されたデータの整理と概要把握に努めた。

[キーワード] 海底熱水鉱床 深海生物 遺伝子解析 次世代シーケンサー

文部科学省 :**4.4 重点的調査観測事業:防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト:海底堆積物を用いた地震・津波履歴情報の整備**

[研究代表者] 池原 研 (部門付)

[研究担当者] 池原 研、杉崎 彩子、金松 敏也 (海洋研究開発機構) (常勤職員 1 名、他 2 名)

[研究内容]

南海トラフ沿いで発生する巨大地震・津波に伴って形成されるイベント堆積物を海底堆積物中から認定し、その堆積間隔から地震発生履歴を推定するために御前崎沖から掘削された海底堆積物コアと紀伊半島沖から採取されたコアの分析を行った。前者では、地震性タービライトの堆積年代の決定精度を上げるために追加の年代測定を行い、平均的な堆積間隔が 200 年程度であることを確認した。後者については、一部のコアについて完新世のタービライトが確認できたが、歴史地震との対応など、さらに検討が必要と考えられた。

[キーワード] 南海トラフ、地震、タービライト、海底堆積物

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構：

4.5 海水と生体アミンを用いた CO₂ 鉱物化法の研究開発

[研究代表者] 井口 亮 (海洋環境地質研究グループ)

[研究担当者] 井口 亮、儀武 混大 (常勤職員 1 名、他 1 名)

[研究内容]

本研究では、海水をカルシウムイオン供給源として、炭酸カルシウム製造の工業化の可能性を検討し、海洋生物が創り出すような特殊な炭酸カルシウムをラボ内で再現する技術を利用して、高付加価値を有する炭酸カルシウムを製造することを目指している。産業技術総合研究所は、「廃海水が周辺環境に及ぼす影響評価」を担当し、人工アミンとポリアミンの毒性について、サンゴ幼生を用いた網羅的遺伝子発現解析を実施し、論文として取りまとめた。また、廃海水のアンプリコンシーケンス解析及びショットガンメタゲノム解析を実施し、海水中の細菌及び機能遺伝子組成の把握を行って、廃海水が微生物に及ぼす影響について評価した。

[キーワード] 海水、炭酸カルシウム、ポリアミン、遺伝子解析

環境省：

4.6 環境研究総合推進費: 海洋流出マイクロプラスチックの物理・化学的特性に基づく汚染実態把握と生物影響評価

[研究代表者] 板木 拓也 (地球変動史研究グループ)

[研究担当者] 板木 拓也、天野 敦子、飯塚 瞳、有元 純、清家 弘治、田村 亨、鈴木 克明、宮川 歩夢、齋藤 直樹、高下 裕章 (地質情報研究部門)、石塚 治 (活断層・火山研究部門) (常勤職員 10 名、他 2 名)

[研究内容]

本研究の目的は、海洋流出マイクロプラスチック (MP) の分布と物理・化学的特性の評価による汚染実態の解明、及びモデル生物による生物影響評価である。具体的には、我が国の 9 つの地域で河川水、河口堆積物、海岸・湖岸砂、海洋表層水を対象として、5 μm 以上 5 mm 未満の MP の採取・測定方法の開発、自動粒子摘出システムによる形態の数値化とサイズ別の分類、ポリマー同定などを実施して、物理・化学的特性を明らかにする。2024 年度は宮城、岩手、鹿児島、茨城で調査を実施するとともに、これまでに採取した試料の分析を進め、一部結果を学会発表として発表した。また、採取した堆積物を採泥器から分取する際の擾乱やコンタミネーションを軽減させる手法を開発し、論文 1 編を国際誌で公表した。

[キーワード] マイクロプラスチック、堆積物、海水、河川、沿岸海域

科学技術研究費基金 :

4.7 複合微化石分析に基づく紀伊半島周辺における第四紀後期海水準変動の解明

〔研究代表者/分担者〕入月 俊明（島根大学）、天野 敦子、辻本 彰（島根大学）、岩谷 北斗（山口大学）

〔 URL 〕 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K03564/>

4.8 マルチアレイ観測による深部低周波地震の発生メカニズムの解明

〔研究代表者/分担者〕本多 亮（神奈川県温泉地学研究所）、酒井 慎一（東京大学）、長 郁夫

〔 URL 〕 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20K04118/>

4.9 鍾乳石の高解像度磁気+化学分析による地磁気エクスカーション環境変動の連関性評価

〔研究代表者〕福與 直人

〔 URL 〕 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22KJ3182/>

4.10 極微量年代測定が実現するミクロネシアにおける放射性炭素海洋リザーバー効果の評価

〔研究代表者/分担者〕福與 直人

〔 URL 〕 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K16203/>

4.11 大酸化イベントに関する研究：モリブデン同位体は酸化的風化の指標なのか？

〔研究代表者/分担者〕後藤 孝介

〔 URL 〕 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K13209/>

4.12 カンボジア、インドチャイナ地塊からのプロト日本の探求

〔研究代表者/分担者〕原 英俊、栗原 敏之（新潟大学）、常盤 哲也（信州大学）、鈴木 敬介

〔 URL 〕 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24KK0079/>

4.13 ナマコ類による底質の蓄積型栄養塩除去と細菌叢変がサンゴの生育に及ぼす影響の解明

〔研究代表者/分担者〕濱本 耕平

〔 URL 〕 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23KJ2204/>

4.14 中新世西南日本の時間的・空間的高分解能の応力史の構築

〔研究代表者/分担者〕羽地 俊樹

〔 URL 〕 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K14129/>

4.15 島弧の形成過程において鍵となる下部地殻の物質変遷プロセスの解明

〔研究代表者/分担者〕針金 由美子

〔 URL 〕 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K07178/>

4.16 碓の残留磁化分析による東京低地地下河川成疊層の堆積年代決定

〔研究代表者/分担者〕羽田 裕貴

〔 URL 〕 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K14107/>

4.17 島嶼地域の稻に耐暑性を与え収量を増加させるための廃ガラス肥料の開発

〔研究代表者/分担者〕三宮 一宰（沖縄工業高等専門学校）、井口 亮

〔 URL 〕 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K05892/>

4.18 サンゴ礁の隠蔽空間と隠蔽生物群集の解明

〔研究代表者/分担者〕水山 克（名桜大学）、三澤 文慶、井口 亮、藤田 喜久（沖縄県立芸術大学）

〔 URL 〕 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K11518/>

4.19 マルチオミクス解析を駆使した髓膜腫悪性化機序の解明

〔研究代表者/分担者〕江口 盛一郎（東京女子医科大学）、財津 桂（近畿大学）、井口 亮

〔 URL 〕 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K08531/>

4.20 コラリコリッドはサンゴの高温耐性を高めるか？

〔研究代表者/分担者〕酒井 一彦（琉球大学）、高橋 俊一（琉球大学）、井口 亮、水山 克（名桜大学）

〔 URL 〕 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K05372/>

4.21 琉球列島の洞窟水圈環境における生物多様性の解明

〔研究代表者/分担者〕藤田 喜久（沖縄県立芸術大学）、下村 通誉（京都大学）、井口 亮、岡西 政典（広島修道大学）、角井 敬知（北海道大学）、斎藤 知己（高知大学）、藤井 琢磨（鹿児島大学）

〔 URL 〕 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K20305/>

4.22 環境適合型サンゴの養殖・移植技術の確立

〔研究代表者/分担者〕高橋 俊一（琉球大学）、井口 亮

〔 URL 〕 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K21334/>

4.23 統合層序・年代モデル構築に基づく日本海溝の過去
数万年間の地震履歴の解明

[研究代表者/分担者] 池原 研、長橋 良隆(福島大学)、
杉崎 彩子、板木 拓也、石澤 堯史(東北大学)、金松
敏也(国立研究開発法人海洋研究開発機構)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K22586/>

4.24 +1~2°Cの温暖期に西南極氷床は急速に融解する臨界
点に到達するのか?

[研究代表者] 飯塚 瞳

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K23933/>

4.25 革新的デジタル技術で拓く新生代の低次生態系多様
性進化

[研究代表者/分担者] 板木 拓也、齋藤 めぐみ(独立
行政法人国立科学博物館)、岩井 雅夫(高知大学)、松井
浩紀(秋田大学)、宮川 歩夢、見邨 和英、石野 沙季
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K00748/>

4.26 南極深海サンゴによる産業革命以降の周極深層水変
動の復元

[研究代表者/分担者] 徳田 悠希(公立鳥取環境大学)、
千徳 明日香(琉球大学)、板木 拓也、菅沼 悠介(國
立極地研究所)、藤井 昌和(國立極地研究所)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25954/>

4.27 共生微生物から探るサンゴの分布拡大メカニズム

[研究代表者] 喜瀬 浩輝

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23KJ2206/>

4.28 極小微動アレイ探査を用いた沖積低地の微高地種別
判別技術の開発

[研究代表者/分担者] 小松原 純子、長 郁夫、佐藤 善輝
納谷 友規

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K03515/>

4.29 ゲノム比較で解明するミドリイシ属サンゴの産卵時
期決定の遺伝的基盤

[研究代表者] 仮屋園 志帆

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22KJ3185/>

4.30 サンゴ礁の隠蔽空間と隠蔽生物群集の解明

[研究代表者] 水山 克(名桜大学)、三澤 文慶、井口

亮、藤田 喜久(沖縄県立芸術大学)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22KJ3185/>

4.31 機械学習で拓くイクチオリス微化石を用いた海洋生
態系の変遷解読

[研究代表者/分担者] 見邨 和英

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K13192/>

4.32 2.5 億年前の大量絶滅期、古太平洋遠洋域の海洋最
上部は無酸素化したか?

[研究代表者/分担者] 高橋 聰(名古屋大学) 朝比奈 健
太(地圈資源環境研究部門)、武藤 俊

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25983/>

4.33 宇宙線生成核種の年間生成率決定: 地球磁場モデル
の検証と新たな年代換算法の構築

[研究代表者] 中村 淳路

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21K14003/>

4.34 機械学習による首都圏平野部におけるボーリングデ
ータの地層対比手法の研究

[研究代表者/分担者] 野々垣 進

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K03745/>

4.35 地質構成に基づく谷底低地の類型化と地盤震動特性
に関する研究

[研究代表者/分担者] 中澤 努、長 郁夫、小松原 純
子

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K03517/>

4.36 火山灰編年と生層序に基づく関東平野成立 300 万年
間の発達史研究

[研究代表者/分担者] 鈴木 肇彦(東京都立大学)、宇都
宮 正志、中澤 努、納谷 友規

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25423/>

4.37 近代建築物を彩った日本の石: 国産建築石材の標本
探索と破壊・非破壊分析

[研究代表者/分担者] 乾 瞳子(林睦子)(国士館大学)、
中澤 努、西本 昌司(愛知大学)、平賀 あまな(東京
工業大学)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K22944/>

4.38 更新世チバニアン期におけるイタヤガイ科二枚貝の絶滅とその古環境背景

[研究代表者/分担者] 近藤 康生 (高知大学)、栗原 行人 (三重大学)、西尾 嘉朗 (高知大学)、池原 実 (高知大学)、納谷 友規

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K07201/>

4.39 アトムプローブトモグラフィーによる地球最古有機物質の原子構造解析

[研究代表者/分担者] Madhusoodhan SatishKumar (M Satish - Kumar) (新潟大学)、中村 佳博、大藤 弘明 (東北大学)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20KK0081/>

4.40 琉球層群礁性石灰岩の古地磁気・岩石磁気分析による高分解能地球磁場・気候変動の復元

[研究代表者/分担者] 小田 啓邦、穴井 千里 (高知大学)、伊藤 孝 (茨城大学)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20KK0082/>

4.41 地磁気年代推定法で解き明かす海溝型巨大地震の発生史

[研究代表者/分担者] 山本 裕二 (高知大学)、馬場 章 (昭和大学)、Hsiung Kanhs (国立研究開発法人海洋研究開発機構)、金松 敏也 (国立研究開発法人海洋研究開発機構)、小田 啓邦

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K00720/>

4.42 過去 600 万年間の太平洋溶存酸素濃度の復元：海洋炭素貯留の理解にむけて

[研究代表者/分担者] 山本 正伸 (北海道大学)、臼井 朗 (高知大学)、柏原 輝彦 (国立研究開発法人海洋研究開発機構)、長谷川 精 (高知大学)、小田 啓邦

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K21556/>

4.43 地震予測情報の発信のあり方に関する地震研究者とメディア関係者による協働的検証

[研究代表者/分担者] 大谷 竜、兵藤 守 (国立研究開発法人海洋研究開発機構)、橋本 学 (京都大学)、隈本 邦彦 (江戸川大学)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-19K04961/>

4.44 南極深海サンゴによる産業革命以降の周極深層水変動の復元

[研究代表者/分担者] 地震学的アプローチによる地球外

核深部の不均質に関する研究

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21K03709/>

4.45 日本周辺の堆積物・サンゴ試料を用いた高時間解像度の気候復元と社会への影響評価研究

[研究代表者/分担者] 川幡 穂高 (東京大学)、井上 麻夕里 (岡山大学)、鈴木 淳、吉田 明弘 (鹿児島大学)、大石 龍太 (東京大学)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K20242/>

4.46 将来の海洋酸性化が全球の炭素循環に及ぼす影響の検証

[研究代表者/分担者] 黒柳 あずみ (東北大学)、鈴木 淳、吉村 寿紘 (国立研究開発法人海洋研究開発機構)、木下 峻一 (独立行政法人国立科学博物館)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25980/>

4.47 サンゴ骨格を用いた蓄積型栄養塩評価の新展開

[研究代表者/分担者] 鈴木 淳、井口 亮、安元 剛 (北里大学)、高橋 俊一 (琉球大学)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K03136/>

4.48 海洋域のカンラン岩を用いたマントルの強親鉄元素過剰の再検討

[研究代表者/分担者] 小木曾 哲 (京都大学)、秋澤 紀克 (東京大学)、石川 晃 (東京工業大学)、下田 玄

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K00733/>

4.49 極めて健全な沿岸環境が保全された海域で生痕相を研究する

[研究代表者] 清家 弘治

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20KK0314/>

4.50 サンゴ礁海域保全に向けた遺伝子流動ネットワークの解明：海景遺伝学によるアプローチ

[研究代表者/分担者] 斎藤 直輝、喜瀬 浩輝

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K08961/>

4.51 陸海堆積物の統合調査から紐解く有史以前のトカラ列島災害履歴

[研究代表者/分担者] 鈴木 克明

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K13180/>

4.52 時間スケールの異なるデータに基づくプレート沈み

込帶周辺ヒンジラインの成因解明

[研究代表者/分担者] 道家 涼介 (弘前大学)、倉橋 奨 (愛知工業大学)、佐藤 善輝

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K07163/>

4.53 古生代におけるゴンドワナ北東縁の大陸分裂から解くアジア東縁の古地理変遷

[研究代表者/分担者] 鈴木 敬介

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23KJ2202/>

4.54 地球内部物質循環解明のための塩素同位体標準物質の選定とハロゲンデータの蓄積

[研究代表者] 遠山 知亜紀

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21K03708/>

4.55 OSL 年代に基づく和歌山平野の地形発達と集落遺跡の進出過程の再構築

[研究代表者/分担者] 趙 哲済 (一般財団法人大阪市文化財協会)、田村 亨

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K01010/>

4.56 河川のアバルジョンに着目した氾濫原の形成過程の解明

[研究代表者/分担者] 堀 和明 (東北大学)、田村 亨、中西 利典 (ふじのくに地球環境史ミュージアム)、石井 祐次 (活断層・火山研究部門)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25418/>

4.57 陸上堆積物試料分析と GIA モデル解析の融合による間氷期の南極氷床融解史の解明

[研究代表者/分担者] 石輪 健樹 (国立極地研究所)、奥野 淳一 (国立極地研究所)、田村 亨

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K20887/>

4.58 火星の地下水分布推定に向けた地球アナログの周氷河地形の地下構造探査と形成過程解明

[研究代表者/分担者] 長谷川 精 (高知大学)、小松 吾郎 (千葉工業大学)、関根 康人 (東京工業大学)、宮本 英昭 (東京大学)、福士 圭介 (金沢大学)、田村 亨

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K25928/>

4.59 新しい岩脈法による九州北西部の応力場変動史の解明

[研究代表者] 牛丸 健太郎

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23KJ1210/>

4.60 新生代石灰質ナノプランクトンの進化と古生物地理に基づく新たな年代指標の開発

[研究代表者/分担者] 宇都宮 正志

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21KK0248/>

4.61 深成岩と接触変成岩から解明するマグマ溜まり形成史

[研究代表者] 山岡 健

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K19076/>

4.62 東南極沖合の現場観測に基づく氷-海洋-海底システムの理解

[研究代表者/分担者] 藤井 昌和 (国立極地研究所)、山下 幹也、草原 和弥 (国立研究開発法人海洋研究開発機構)、佐藤 暢 (専修大学)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K22608/>

4.63 日高地殻-マントル・マグマシステムの解明

[研究代表者/分担者] 山崎 徹、下田 玄

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K03764/>

科学技術研究費補助金 :

4.64 海-陸シームレス地層掘削から探る南極氷床の大規模融解メカニズム

[研究代表者/分担者] 菅沼 悠介 (国立極地研究所)、石輪 健樹 (国立極地研究所)、香月 興太 (島根大学)、天野 敦子、草原 和弥 (国立研究開発法人海洋研究開発機構)、閔 宰 (北海道大学)、小長谷 貴志 (国立研究開発法人海洋研究開発機構)、久保田 好美 (独立行政法人国立科学博物館)、鄭 建 (国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24H00026/>

4.65 地磁気逆転現象が気候・生態系に対して与えた影響の検証

[研究代表者/分担者] 岡田 誠 (茨城大学)、亀尾 浩司 (千葉大学)、前田 歩 (東京大学)、梶田 展人 (弘前大学)、井口 亮、羽田 裕貴、菅沼 悠介 (国立極地研究所)、安藤 寿男 (福井県立大学)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24H00016/>

4.66 サンゴの高温適応を考慮した新たな将来予測の実現

[研究代表者/分担者] 高橋 俊一 (琉球大学)、熊谷 直喜 (国立研究開発法人国立環境研究所)、野澤 洋耕 (琉球大学)、井口 亮

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23H00535/>

4.67 サンゴ礁及び周辺生態系由来の環境酵素によるフェーズシフト抑制効果の検証

[研究代表者/分担者] 井口 亮、水山 克 (名桜大学)、田邊 俊朗 (沖縄工業高等専門学校)、高橋 俊一 (琉球大学)、石田 純 (沖縄工業高等専門学校)、谷村 文 (株式会社 Seed Bank)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24H00784/>

4.68 過去の温暖期における南極氷床・海洋実像の解明

[研究代表者/分担者] 関 宰 (北海道大学)、尾張 聰子 (東京海洋大学)、石野 沙季、菅沼 悠介 (国立極地研究所)、池原 実 (高知大学)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PLANNED-24H02344/>

**4.69 過去の温暖期における南極氷床の大規模融解の実態
解明 : 鉛同位体に着目した新たな解析**

[研究代表者/分担者] 堀川 恵司 (富山大学)、淺原 良浩 (名古屋大学)、板木 拓也、岩井 雅夫 (高知大学)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H04924/>

4.70 気候不安定化とティッピング・カスケード : 気候危機の真打を検証する

[研究代表者/分担者] 関 宰 (北海道大学)、板木 拓也、山本 正伸 (北海道大学)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24H00074/>

科学技術研究費補助金 :**4.71 北極海一大気一植生一凍土一河川系における水・物質循環の時空間変動**

[研究代表者/分担者] 檜山 哲哉 (名古屋大学)、立花 義裕 (三重大学)、佐藤 友徳 (北海道大学)、朴 昊澤 (国立研究開発法人海洋研究開発機構)、水落 裕樹、市井 和仁 (千葉大学)、石川 守 (北海道大学)、植山 雅仁 (大阪公立大学)、伊藤 昭彦 (東京大学)、飯島 慶裕 (三重大学)、小谷 亜由美 (名古屋大学)、鈴木 和良 (国立研究開発法人海洋研究開発機構)、近藤 雅征 (広島大学)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-19H05668/>

4.72 磁気顕微鏡による地球内核形成前後の地球磁場復元**と地球生命史への影響の解明**

[研究代表者/分担者] 小田 啓邦、岡田 誠 (茨城大学)、山本 裕二 (高知大学)、穴井 千里 (高知大学)、横山 祐典 (東京大学)、中西 利典 (ふじのくに地球環境史ミュージアム)、河合 淳 (金沢工業大学)、香月 興太 (島根大学)、長谷部 徳子 (金沢大学)、長谷川 精 (高知大学)、奈良 正和 (高知大学)、七山 太 (ふじのくに地球環境史ミュージアム)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H04523/>

4.73 マルチスケール宇宙線生成核種分析より紐解く地質時代の宇宙・地球現象と環境変動

[研究代表者/分担者] 堀内 一穂 (弘前大学)、宮原 ひろ子 (沖縄科学技術大学院大学)、三宅 芙沙 (名古屋大学)、川村 賢二 (国立極地研究所)、大藪 幾美 (国立極地研究所)、山崎 俊嗣 (東京大学)、小田 啓邦、笹 公和 (筑波大学)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23H00135/>

4.74 沿岸浅海域の地理学研究 : 浅海底地形学の構築および海底景観の可視化と啓発

[研究代表者/分担者] 菅 浩伸 (九州大学)、後藤 和久 (東京大学)、藤田 和彦 (琉球大学)、横山 祐典 (東京大学)、渡部 真史 (中央大学)、後藤 秀昭 (広島大学)、島津 弘 (立正大学)、清野 聰子 (九州大学)、長谷川 均 (国士館大学)、堀 信行 (奈良大学)、今里 悟之 (名古屋大学)、小野 林太郎 (国立民族学博物館)、高橋 そよ (琉球大学)、伊藤 幸司 (九州大学)、鈴木 淳、井上 麻夕里 (岡山大学)、藤田 喜久 (沖縄県立芸術大学)、平林 頌子 (東京大学)、木村 淳 (東海大学)、中西 裕見子 (九州大学)、片桐 千亜紀 (九州大学)、山船 晃太郎 (九州大学)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H04379/>

4.75 資源利用行動から探る新人社会の基盤形成史 : レヴァント地方乾燥域の考古科学研究

[研究代表者/分担者] 門脇 誠二 (名古屋大学)、池谷 和信 (国立民族学博物館)、田村 亨、山本 鋼志 (名古屋大学)、東田 和弘 (名古屋大学)、長谷川 精 (高知大学)、近藤 康久 (総合地球環境学研究所)

[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20H00026/>

4.76 サピエンスによる海域アジアへの初期拡散と島嶼適応に関する学際的総合研究

[研究代表者/分担者] 小野 林太郎 (国立民族学博物館)、田村 亨、海部 陽介 (東京大学)、菅 浩伸 (九州大学)、山岡 拓也 (静岡大学)、藤田 祐樹 (独立行政法人国立

科学博物館)、竹中 正巳(鹿児島女子短期大学)、片桐 千
亜紀(九州大学)、石原 与四郎(福岡大学)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H04368/>

4.77 サピエンス数理先史学－新人拡散にともなう文化
進化モデリング

[研究代表者/分担者] 西秋 良宏(東京大学)、門脇 誠
二(名古屋大学)、野林 厚志(国立民族学博物館)、若野
友一郎(明治大学)、田村 亨、田村 光平(東北大学)
[URL] <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24H00001/>

5. 業績

5.1 地質図類

名 称	編 簡	備 考	発表年月
海洋地質図 95「熊野灘海底地質図」	岡村 行信、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>斎藤 真</u>	海洋地質図	2025.02.
付図(熊野灘地磁気漸次力異常図、フリーエ ア異常図、ブーゲー重力異常図)	<u>高下 裕章</u> 、 <u>佐藤 太一</u> 、 <u>山下 幹也</u>	海洋地質図	2025.02.
大河原地域の地質	<u>中村 佳博</u> 、 <u>山崎 徹</u> 、 <u>宮崎 一博</u> 、 <u>高橋 浩</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.
第 1 章 地形	<u>中村 佳博</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.
第 2 章 地質概説	<u>中村 佳博</u> 、 <u>山崎 徹</u> 、 <u>宮崎 一博</u> 、 <u>高橋 浩</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.
第 3 章 秩父付加コンプレックス	<u>中村 佳博</u> 、 <u>宮崎 一博</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.
第 4 章 下部白亜系	<u>中村 佳博</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.
第 5 章 三波川変成コンプレックス	<u>宮崎 一博</u> 、 <u>中村 佳博</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.
第 6 章 四十万付加コンプレックス	<u>中村 佳博</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.
第 7 章 領家深成変成コンプレックス	<u>山崎 徹</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.
第 8 章 第四系	<u>中村 佳博</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.
第 9 章 地質構造	<u>中村 佳博</u> 、 <u>高橋 浩</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.
第 10 章 応用地質	<u>中村 佳博</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.
門地域の地質	<u>武藤 俊</u> 、 <u>野田 篤</u> 、 <u>西岡 芳晴</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.
第 1 章 地形	<u>武藤 俊</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.
第 2 章 地質概説	<u>武藤 俊</u> 、 <u>野田 篤</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.
第 3 章 ジュラ紀付加体	<u>武藤 俊</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.
第 4 章 前期白亜紀火成岩(北上花崗岩類、 岩脈類)	<u>武藤 俊</u> 、 <u>西岡芳晴</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.
第 5 章 上部白亜系～古第三系	<u>野田 篤</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.
第 6 章 古第三紀火山岩類	<u>武藤 俊</u> 、 <u>西岡 芳晴</u>	地域地質研究報告(5 万分 の 1 地質図幅)	2025.02.

第 7 章 第四系	<u>武藤 俊</u>	地域地質研究報告(5 万分の 1 地質図幅)	2025.02.
第 8 章 地質構造	<u>武藤 俊</u>	地域地質研究報告(5 万分の 1 地質図幅)	2025.02.
第 9 章 資源地質	<u>武藤 俊</u> 、 <u>野田 篤</u>	地域地質研究報告(5 万分の 1 地質図幅)	2025.02.
高見山地域の地質	<u>竹内 誠</u> 、 <u>常磐 哲也</u> 、 <u>森 宏</u> 、 <u>志村侑亮</u>	地域地質研究報告(5 万分の 1 地質図幅)	2025.02.
第 1 章 地形	<u>竹内 誠</u>	地域地質研究報告(5 万分の 1 地質図幅)	2025.02.
第 2 章 地質概説	<u>竹内 誠</u> 、 <u>常磐 哲也</u> 、 <u>森 宏</u> 、 <u>志村 侑亮</u>	地域地質研究報告(5 万分の 1 地質図幅)	2025.02.
第 3 章 秩父付加コンプレックス	<u>常磐 哲也</u>	地域地質研究報告(5 万分の 1 地質図幅)	2025.02.
第 4 章 三波川-四万十變成付加コンプレックス	<u>森 宏</u> 、 <u>常磐 哲也</u> 、 <u>志村 侑亮</u>	地域地質研究報告(5 万分の 1 地質図幅)	2025.02.
第 5 章 領家變成コンプレックス及び領家深成岩類	<u>竹内 誠</u>	地域地質研究報告(5 万分の 1 地質図幅)	2025.02.
第 6 章 和泉層群	<u>竹内 誠</u>	地域地質研究報告(5 万分の 1 地質図幅)	2025.02.
第 7 章 中新統	<u>竹内 誠</u> 、 <u>常磐 哲也</u>	地域地質研究報告(5 万分の 1 地質図幅)	2025.02.
第 8 章 第四系	<u>竹内 誠</u>	地域地質研究報告(5 万分の 1 地質図幅)	2025.02.
第 9 章 地質構造	<u>竹内 誠</u> 、 <u>常磐 哲也</u> 、 <u>森 宏</u> 、 <u>志村 侑亮</u>	地域地質研究報告(5 万分の 1 地質図幅)	2025.02.
第 10 章 応用地質	<u>竹内 誠</u>	地域地質研究報告(5 万分の 1 地質図幅)	2025.02.
都市域の地質地盤図「埼玉県南東部」	<u>米岡 佳弥</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、 <u>小松原 純子</u> 、 <u>尾崎 正紀</u> 、 <u>中里 裕臣</u> 、 <u>中澤 努</u> 、 <u>八戸 昭一</u>	都市域の地質地盤図	2025.03.
第 2 章 地質概説	<u>中澤 努</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、 <u>小松原 純子</u> 、 <u>尾崎 正紀</u> 、 <u>中里 裕臣</u> 、 <u>八戸 昭一</u>	都市域の地質地盤図	2025.03.
第 3 章 下総層群	<u>米岡 佳弥</u> 、 <u>中澤 努</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、 <u>中里 裕臣</u>	都市域の地質地盤図	2025.03.
第 4 章 新期段丘堆積物及び関東ローム層	<u>中澤 努</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>中里 裕臣</u> 、 <u>尾崎 正紀</u>	都市域の地質地盤図	2025.03.
第 5 章 沖積層	<u>小松原 純子</u>	都市域の地質地盤図	2025.03.
第 6 章 3D 地質モデリング	<u>野々垣 進</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>中澤 努</u> 、 <u>小松原 純子</u> 、 <u>尾崎 正紀</u>	都市域の地質地盤図	2025.03.
海陸シームレス地質情報集「伊勢湾、三河湾沿岸域」	<u>板木 拓也</u> 、 <u>佐藤 智之</u> 、 <u>佐藤 善輝</u> 、 <u>小松原 琢</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、 <u>大熊 茂雄</u> 、 <u>駒澤 正夫</u> 、 <u>住田 達哉</u> 、 <u>杉野 由樹</u> 、 <u>天野 敦子</u> 、 <u>田村 亨</u> 、 <u>大上 隆史</u> 、 <u>入月 俊明</u> 、 <u>中島 礼</u> 、 <u>清家 弘治</u> 、 <u>本郷 美佐緒</u> 、 <u>羽佐田 紘大</u> 、	海陸シームレス地質図	2025.03.

堀 和明、須貝 俊彦、納谷 友規、水野 清秀、阿部 朋弥、長 郁夫、伊藤 忍、木下 佐和子、山口 和雄

(1) 10万分の1伊勢湾、三河湾沿岸域地質図及び説明書	<u>佐藤 智之</u> 、 <u>佐藤 善輝</u> 、小松原 琢	海陸シームレス地質図	2025.03.
(2) 10万分の1伊勢湾、三河湾沿岸域重力図(ブーゲー異常)及び説明書	<u>宮川 歩夢</u> 、 <u>大熊 茂雄</u> 、駒澤 正夫、 <u>住田 達哉</u> 、杉野 由樹	海陸シームレス地質図	2025.03.
(4) 伊勢湾、三河湾沿岸域 10万分の1海底地質図及び説明書	<u>佐藤 智之</u>	海陸シームレス地質図	2025.03.
(5) ポーリング試料を用いた更新世以降の伊勢湾層序と白子一野間断層の活動度推定	<u>天野 敦子</u> 、 <u>田村 亨</u> 、大上 隆史、 <u>佐藤 善輝</u> 、入月 俊明、 <u>中島 礼</u> 、小松原 琢	海陸シームレス地質図	2025.03.
(6) 伊勢湾、三河湾における海底堆積物と海洋環境	<u>天野 敦子</u> 、 <u>清家 弘治</u>	海陸シームレス地質図	2025.03.
(7) 陸域地質解説—伊勢湾及び三河湾沿岸陸域の第四系上部の層序、変位基準及び第四紀後半期の地質構造—	小松原 琢、 <u>佐藤 善輝</u>	海陸シームレス地質図	2025.03.
(8) 伊勢平野中～南部地域における第四系地下地質	<u>佐藤 善輝</u> 、 <u>中島 礼</u>	海陸シームレス地質図	2025.03.
(10) 伊勢丘陵の最高位段丘構成層、見当山層の古地磁気極性及び花粉組成	小松原 琢、本郷 美佐緒、 <u>佐藤 善輝</u>	海陸シームレス地質図	2025.03.
(13) 名古屋港におけるポーリングコアの解析と地下地質構造	<u>中島 礼</u> 、本郷 美佐緒、 <u>納谷 友規</u> 、 <u>水野 清秀</u> 、 <u>阿部 朋弥</u>	海陸シームレス地質図	2025.03.
(15) 矢作川下流低地における沖積層の基底地形と層序	<u>阿部 朋弥</u> 、 <u>中島 礼</u>	海陸シームレス地質図	2025.03.
(16) 西三河平野中～南部における更新統の地下層序	<u>阿部 朋弥</u> 、 <u>納谷 友規</u> 、 <u>水野 清秀</u> 、 <u>中島 礼</u>	海陸シームレス地質図	2025.03.
(17) 愛知県西尾市周辺における微動アレイ探査	<u>長 郁夫</u>	海陸シームレス地質図	2025.03.
(18) 三重県北部における反射法地震探査—千里断層の地下構造と連続性—	<u>伊藤 忍</u> 、 <u>木下 佐和子</u> 、山口 和雄	海陸シームレス地質図	2025.03.
(19) 高浜撓曲と横須賀断層の間の断層空白域における反射法地震探査	<u>伊藤 忍</u> 、 <u>木下 佐和子</u>	海陸シームレス地質図	2025.03.
(20) 反射法地震探査による西三河平野南西部の浅部地下構造	<u>木下 佐和子</u> 、 <u>伊藤 忍</u> 、山口 和雄	海陸シームレス地質図	2025.03.

5.2 データベース・ソフトウェア

名 称	作成者	公開日
点群 PNG タイル生成プログラム	<u>西岡 芳晴</u>	2024.04.25
20 万分の1日本火山図	宝田 晋治、川邊 穎久、石塚 吉浩、中野 俊、 古川 竜太、及川 輝樹、 <u>工藤 崇</u> 、山元 孝広、 石塚 治、伊藤 順一	2024.05.10
標高タイル 3D ビューアー	<u>西岡 芳晴</u>	2024.05.17
タウンシームレス	<u>西岡 芳晴</u>	2024.09.19
20 万分の1 日本シームレス地質図 V2 2024(宮津修正版)	<u>坂野 靖行</u> 、 <u>井川 敏恵</u> 、 <u>中江 訓</u> 、 <u>辻野 匠</u>	2024.09.25
GeoCino for iPhone	<u>川畑 大作</u> 、 <u>巖谷 敏光</u>	2025.01.09
埼玉県南東部の地質地盤図	<u>野々垣 進</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>中澤 努</u> 、 <u>小松原 純子</u>	2025.03.25

特許

発明の名称	出願人	特許日	出願国
CLASSIFICATION DEVICE, CLASSIFICATION METHOD, AND RECORDING MEDIUM(分類装置、分類方法および記録媒体)	Naoki Kuwamori, Yousuke Taira, <u>Takuya Itaki</u> , Toshinori Maebayashi, Satoshi Takeshima, Kenji Toya	2024.05.14	米国

5.3 誌上発表

発表題目	発表者	掲載誌, 卷(号), ページ	発表年月
地質情報研究部門			
Fossil Benthic Foraminifera in the Nakdong River Delta (Southeast Korea) and off Fukuoka (Southwestern Japan) during the Early Holocene -Responses of the Neritic Faunas Under the Holocene Rapid Sea-Level Rise-	高田 裕之、Hyoun Soo Lim、Jeongwon Kang、Han Jun Woo、西田 尚央、 <u>池原 研</u> 、Khim Boo-Keun、Daekyo Cheong、Sangmin Hyun	PALEONTOLOGICAL RESEARCH, 28(2), 148-165	2024.04.
CEATEC 2023 参加報告	<u>小松原 純子</u> 、 <u>宍倉 正展</u> 、 <u>金子 翔平</u> 、 <u>荒井 晃作</u> 、 <u>三澤 文慶</u> 、 <u>新井 和乃</u> 、 <u>野々垣 進</u> 、 <u>長 郁夫</u> 、 <u>中澤 努</u>	GSJ 地質ニュース, 13(4), 85-86	2024.04.
Paired Metamorphism of SW Japan and Implications for Tectonics of Convergent Margins	Wallis Simon、Takatomo Okudaira、 <u>宮崎 一博</u>	Elements, 20, 71-76	2024.04.
Thermal Modeling of the Sanbagawa and Ryoke Belts	<u>宮崎 一博</u> 、Simon R. Wallis、Kazuhiro Ishii、Catherine Annen	Elements, 20, 110-116	2024.04.
斜面災害リスク評価のための地質情報集その3: NDVI, 磁気異常及び微動データ	<u>宮地 良典</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>松岡 茗</u> 、 <u>水落 裕樹</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、 <u>大熊 茂雄</u> 、 <u>長 郁夫</u> 、 <u>米岡 佳弥</u>	地質調査総合センター研究資料集, (754), 1-3	2024.06.
広島湾におけるアサリ浮遊幼生輸送の季節変動	<u>高橋 晓</u>	地質調査研究報告, 75(3), 83-91	2024.09.
令和5年度「防災・減災のための高精度デジタル地質情報の整備事業」の概要	<u>藤原 治</u> 、 <u>宮下 由香里</u> 、 <u>古川 竜太</u> 、 <u>宮地 良典</u> 、 <u>井上 卓彦</u> 、 <u>内藤 一樹</u> 、 <u>丸山 正</u> 、 <u>石塚 吉浩</u> 、 <u>田中 裕一郎</u>	地質調査総合センター速報, (86), 1-6	2024.10.
Facies variations within gravelly cyclic steps deposited from turbidity currents: Miocene fan delta front deposits compared with modern active fan delta, central Japan	中嶋 健、 <u>齋藤 文紀</u>	Depositional Record	2024.10.
IODP Expedition 386 discovers earthquake-enhanced carbon cycling in the ultra-deep-water Japan Trench	Charlotte Pizer、Mengfan Chu、 <u>實野 佳奈</u> 、Rui Bao、 <u>池原 研</u> 、Michael Strasser	Past Global Changes Magazine, 32(2), 66-146	2024.10.
Japan Trench Event Stratigraphy: First results from IODP giant piston coring in a deep-sea trench to advance subduction zone paleoseismology	Michael Strasser、 <u>池原 研</u> 、Charlotte Pizer、 <u>板木 拓也</u> 、 <u>里口 保文</u> 、 <u>喜岡 新</u> 、 <u>Cecilia McHuge</u> 、 <u>Jean Noel Proust</u> 、 <u>Derek Sawyer</u> 、IODP Expedition 386 Expedition Management Team、IODP Expedition 386 Science Party	MARINE GEOLOGY, 477, 107387	2024.11.
High temporal resolution paleoclimate reconstruction by the analysis of growth patterns and stable isotopes of fossil shells of the long-lived bivalve <i>Mercenaria stimpsoni</i> from MIS 5e, 7 and 9	三木 志緒乃、 <u>窪田 薫</u> 、 <u>中島 礼</u> 、 <u>棚部 一成</u> 、Cornelia Brosset、Bernd R. Schone、 <u>山口 飛鳥</u> 、 <u>白井 厚太朗</u>	PALAEOGEOGRAPHY PALAEOCЛИMATOLOGY PALAEOCOLOGY, 656(112537),	2024.11.
小浜低地の地下地質	堀 和明、 <u>岡田 篤正</u> 、 <u>中西 利典</u> 、Wan HONG、 <u>中島 礼</u>	季刊地理学, 76(4), 181-189	2024.12.

Silicoflagellate assemblages in the North Pacific surface sediments: an application of the modern analog method to reconstruct the glacial sea surface temperature in the Japan Sea	岡崎 裕典、小野寺 丈尚太郎、Kyohei Tanizaki、Fumiaki Nishizono、Kazuki Egashira、Asuka Tomokawa、佐川 拓也、堀川 恵司、 <u>池原 研</u>	Progress in Earth and Planetary Science, 11, 62	2024.12.
Reconstruction of bottom water ventilation changes in the West Philippine Sea during the last glacial-interglacial period	Wei-Cheng Hsiung、Yuan-Pin Chang、Horng-Sheng Mii、 <u>池原 研</u> 、金松 敏也、Hui-Ling Lin	Progress in Earth and Planetary Science, 12, 4	2025.01.
Removal of dissolved organic carbon in the West Pacific hadal zones	Mengfan Chu、Rui Bao、Michael Strasser、 <u>池原 研</u> 、Yang Ding、Kejian Liu、Mingzhi Liu、Li Xu、Yonghong Wang、Piero Bellanova、Troy Rasbury、Martin Kolling、Natascha Riedinger、Min Luo、Christian Marz、實野佳奈、Zhirong Cai、Cecilia McHuge、Ellen Druffel	Nature Communications, 16, 733	2025.01.
Strontium-isotope mapping of the Kyushu islands, southwestern Japan, using stream sediments	太田 充恒、後藤 晶子、若木 重行、南 雅代	GEOCHEMICAL JOURNAL, 59(1), 9–25	2025.02.
Bioturbation in the hadal zone	Jussi Hovikoski、Joonas Virtasalo、Andreas Wetzel、Mishelle Muthre、Michael Strasser、Jean Noel Proust、 <u>池原 研</u> 、Natascha Riedinger	Nature Communications, 16, 1401	2025.02.

地質情報研究部門 平野地質研究グループ

平塚市土屋に露出する下末吉海進期吉沢層の露頭(“土屋の崖”)–特に”泥炭層”について–	間嶋 隆一、瀬戸 大暉、野崎 篤、宮坂 慎太郎、 <u>中谷 是崇</u> 、大和田 正人、齋藤 めぐみ、河渕 俊吾	神奈川地学, 86, 3–29	2024.04.
電気伝導度分析から見出された徳島平野における中期～後期更新世の海成層の酸素同位体比層序編年	<u>佐藤 善輝</u>	第四紀研究, 63(2), 147–157	2024.05.
地形環境史研究－地理学と考古学・歴史学の接点－	小野 映介、 <u>佐藤 善輝</u>	地形環境史研究－地理学と考古学・歴史学の接点－, 1–200	2024.05.
Evolution and controlling factors of natural levees during the past 4500 years derived from lowland archaeological ruins in central Kanto Plain, Japan	<u>田邊 晋</u>	Quaternary Environments and Humans, 2, 100012–100012	2024.06.
2023 年度産総研一般公開での岩石およびボーリングコア収蔵庫説明を担当して	柳澤 教雄、 <u>納谷 友規</u> 、角井 朝昭、山崎 瞳	GSJ 地質ニュース, 13(6), 140–145	2024.06.
茨城県常陸大宮市の瓜連丘陵に分布する更新統引田層から産出した2分類群の <i>Lindavia</i> 属珪藻化石	<u>納谷 友規</u> 、団子田 香織	Diatom, 40, 1–6	2024.08.
Coastal dynamics and sea-level change at 4 ka: A case study from the Wakayama Plain, Japan	<u>田邊 晋</u> 、小林 哉太、入月 俊明、辻本 彰、 <u>中島 礼</u> 、 <u>羽田 裕貴</u> 、石原 与四郎	SEDIMENTARY GEOLOGY, 476, 106807	2025.02.
Seasonal Sea Surface Temperature Variations at the Northern Limit of the Kuroshio Current in Marine Isotope Stage 20–18	梶田 展人、菅沼 悠介、 <u>羽田 裕貴</u> 、岡田 誠、山本 正伸、関 宰、大河内 直彦	Geophysical Research Letters	2025.02.
太田・黒田遺跡第 97 次発掘調査報告書(放射性炭素年代測定)	<u>田邊 晋</u>	太田・黒田遺跡第 97 次発掘調査報告書, 99–101	2025.03.

徳島平野南東部沿岸地域における地下更新統
年代層序

羽田 裕貴、本郷 美佐緒、水野 清秀、
納谷 友規、中谷 是崇、中島 礼、西山
賢一

地質学雑誌, (131), 11-31

2025.03.

地質情報研究部門 層序構造地質研究グループ

Record of the Indosinian Orogeny provided by
conglomerates and detrital zircon U-Pb ages
from the western Indochina Block, central
Thailand

原 英俊、Thasinee Charoentitrat、常盤
哲也、栗原 敏之、鈴木 敬介、Apsorn
Sardsud

Gondwana Research, 128, 368-
389

2024.04.

Descriptive Classification of Closed
Nassellarians: Proposal of Non-taxonomic
Names of Jurassic-Cretaceous Radiolarian
Fossils for Practical Age Index

伊藤 剛、松岡 篤

FORMA, 39(1), S11-S14

2024.04.

Evaluation of the Effect of Outreach Activities
on Publicizing Radiolarians in Japan Based on
the Analysis of Google Trends of “Radiolaria”
in 2012-2022

伊藤 剛、松岡 篤、横山 隼、川嶋 隆
義、寒竹 孝子、富田 雄太、前畠 典子

FORMA, 39(1), S15-S23

2024.04.

Evolutionary change of crystallographic
orientation and coccolith morphology: Neogene-
Quaternary Umbilicosphaera
(Prymnesiophyceae) lineage

宇都宮 正志、小暮 敏博

MARINE

MICROPALEONTOLOGY, 190, 102370
2024.06.

Late Carboniferous age confirmed for the
oceanic plate of Panthalassa preserved in the
Kadoma Unit of the Jurassic accretionary
complex in Northeast Japan

武藤 俊、伊藤 剛、大関 仁智

OFIOLITI, 49(2), 107-123

2024.07.

Guadalupian and Lopingian (middle and late
Permian) radiolarians from chert blocks within
conglomerate of the Mino Belt, Southwest Japan

伊藤 剛、宮川 歩夢、松岡 篤

OFIOLITI, 49(2), 89-96

2024.07.

地質標本館 講演会「手に取れる！？ミクロな化石
一時代を決める放散虫のかたちー」開催報
告

伊藤 剛、横山 隼、兼子 尚知、板木 拓
也、武井 勇二郎、常木 俊宏、中川 圭
子、福田 和幸、瀬口 寛樹、都井 美穂、
森田 澄人

GSJ 地質ニュース, 13(10), 269-
274

2024.10.

Guadalupian-Lopingian (Middle-Late Permian)
radiolarians from clastic rocks and zircon U-Pb
ages of intercalated tuff and tuffaceous
sandstone on Sado Island, central Japan

栗原 敏之、鈴木 敬介、伊藤 剛、
ISHIDA Hirotaka、植田 勇人、松岡 篤

REVUE DE

MICROPALEONTOLOGIE, 85, 100750
2024.12.

Preliminary report on Permian radiolarians from
the Numakuma peninsula in Japan:
Paleontological evidence for the presence of the
Ultra-Tamba Belt

伊藤 剛、佐藤 大介

REVUE DE

MICROPALEONTOLOGIE, 85, 100751
2024.12.

Orbital Scale Kuroshio Current Variations of
the Northwestern Pacific Ocean in the Early
Pleistocene (Marine Isotope Stage 40-36) Based
on Calcareous Nannofossil Records

桑野 太輔、亀尾 浩司、久保田 好美、
宇都宮 正志、万徳 佳菜子、岡田 誠
英俊、大槻 丈瑛、植田 勇人

Paleoceanography and
Paleoclimatology, 40(2),
e2024PA004921

2025.02.

Detrital Zircons From Lower Palaeozoic
Metamorphic Complexes and Silurian-Devonian
Strata in the South Kitakami Belt, Northeast

鈴木 敬介、石川 賢一、栗原 敏之、原
英俊、大槻 丈瑛、植田 勇人

Geological Journal, 60(2), 336-
358

2025.02.

Japan: Implications for the Northern Extension of the Terra Australis Orogen in Northeast Gondwana

Formation of Miocene Authigenic Carbonates within the Shimanto Accretionary Complex, Southwest Japan

Conglomerates in the Shimanto Accretionary Complex, SW Japan: Origin, deposition, and the influence of subduction of the Izanagi-Pacific spreading-ridge

Detrital zircon U-Pb geochronology of the trench-fill sandstone on the Cretaceous Shimanto accretionary complex in SW Japan: Implications for provenance and igneous activity in the eastern edge of East Asia

ペルム紀 Albaillaria にみられる二形性についての諸考察

追悼:ペルム紀放散虫研究の礎を築いた石賀裕明教授

原 英俊、宇都宮 正志、藤内 智士、松元 日向子、Satish-Kumar M

GEOCHEMISTRY

GEOPHYSICS GEOSYSTEMS, 2025.02. 26(2)

志村 侑亮、原 英俊、常盤 哲也、中村 佳博、浅原 良浩

TECTONICS, 44(3), e2024TC008497

2025.02.

常盤 哲也、志村 侑亮、森 宏

CRETACEOUS RESEARCH, 2025.02. 166, 106012

伊藤 剛

大阪微化石研究会誌特別号, 2025.03. (18), 57-68

伊藤 剛

大阪微化石研究会誌特別号, 2025.03. (18), 159-166

地質情報研究部門 地殻岩石研究グループ

Linking Pacific Plate Motions to Metamorphism and Magmatism in Japan During Cretaceous to Paleogene Times

An automatic peak deconvolution code for Raman spectra of carbonaceous material and a revised geothermometer for intermediate- to moderately high-grade metamorphism

Serravallian-Tortonian (Miocene) folding in the Amakusa region, northern Ryukyu arc: Possible subduction resumption of the Philippine Sea Plate

兵庫-鳥取県境海岸部の下部中新統火山岩類の分布と岩脈の方向

Newly identified small vulcanian eruptions during the caldera-forming stage of Towada Volcano, Northeast Japan

天草の姫浦層群は暁新統を含むのか?

2024 年度第 1 回地質調査研修(地質図作成未経験者向け)実施報告

鳥取県東部、金峯山の中新統の年代制約: 旗下火山灰堆積物のジルコンのウラン-鉛年代

花崗岩類にみられるマグマ混合の産状: 野外・鏡下での特徴

Jonny Wu、Jeremy Tsung-Jui Wu、山岡 健

Elements, 20(2), 103-109

2024.04.

金木 俊也、纒織 佑衣、青矢 瞳月、中村 佳博、Wallis Simon、志村 侑亮、山岡 健

Progress in Earth and Planetary Science, 11(35), 1-14

2024.06.

牛丸 健太郎、山路 敦、石川 尚人

ISLAND ARC, 33(1), e12528

2024.06.

羽地 俊樹、松原 典孝、郡山 鈴夏

地質学雑誌, 130(1), 189-198

2024.06.

工藤 崇

JOURNAL OF VOLCANOLOGY AND GEOTHERMAL RESEARCH, 2024.07. 452, 108134

牛丸 健太郎、山路 敦

地質学雑誌, 130(1), 371-378

2024.09.

利光 誠一、羽地 俊樹、住田 達哉

GSJ 地質ニュース, 13(11), 300-303

2024.11.

羽地 俊樹、仁木 創太、平田 岳史

地質学雑誌, 130(1), 401-408

2024.12.

山崎 徹

GSJ 地質ニュース, 14(1), 3-9

2025.01.

鳥取県北東部、羽尾鼻に分布する下部鮮新統
大羽尾溶岩

羽地 俊樹、工藤 崇、菅森 義晃、金山
恭子

地質学雑誌, 131(1), 39-44

2025.03.

地質情報研究部門 シームレス地質情報研究グループ

Google ストリートビューによる地質学習素材と理
科授業での活用

川村 寿郎、内野 隆之、斎藤 智弥、鈴
木 芳行、西川 洋平

宮城教育大学紀要, 58, 221-
231

2024.04.

Geological origin of divine white and black
pebbles paved around the main palace of Ise
Shrine, central Japan

内野 隆之

Geoheritage, 16(60)

2024.05.

5 万分の 1 地質図幅「外山」の出版

内野 隆之

月刊測量, 74(6), 45-45

2024.06.

Constraint on the duration of Carboniferous
volcanisms in the South Kitakami Belt by zircon
U-Pb dating

川村 寿郎、内野 隆之

地質調査研究報告, 75(2), 62-
72

2024.06.

阿蘇 3 火碎流堆積物分布図 一隠れた巨大噴
火の全体像が明らかにー

星住 英夫、宝田 晋治、宮縁 育夫、宮
城 磯治、山崎 雅、金田 泰明、下司 信
夫

GSJ 地質ニュース, 13(8), 194-
198

2024.08.

三重県竹原鉱山産ゼノタイムの化学組成と
CHIME 年代

坂野 靖行

岩石鉱物科学, 53(1), 論文
ID240510a 1-論文 ID240510a 7

2024.08.

山形地域の地質

細井 淳、阿部 朋弥

研究関連普及出版物, (267), 2-

2024.09.

5 万分の 1 地質図幅「外山」の紹介

内野 隆之

GSJ 地質ニュース, 13(9), 217-
223

2024.09.

噴火口図及び火口位置データベースの作成を
通じた火山地質情報の整備

古川 竜太、及川 輝樹、川邊 穎久、山
崎 誠子、谷内 元、Conway Edward
Christopher、宝田 晋治、岩橋 くるみ、
東宮 昭彦、石塚 吉浩、石塚 治、山元
孝広、星住 英夫、伊藤 順一、工藤 崇、
井上 卓彦、有元 純、中野 俊

地質調査総合センター速報,
(86), 53-57

2024.10.

流れ盤・受け盤マップ作成のための地形面と地
層面の関係の表現手法について

巖谷 敏光、川畑 大作、宮地 良典

地質調査総合センター速報,
(86), 75-80

2024.10.

飴物肉眼鑑定研修報告(2019 年～2024 年実施
分)

坂野 靖行

GSJ 地質ニュース, 13(12), 322-
326

2024.12.

阿蘇火山と火碎流

星住 英夫

2024 年度熊本城復旧シンポジウム
「熊本城と地形・地質」, 5-9

2024.12.

霧島火山、御池テフラ層中の炭化物の 14C 年
代

木尾 竜也、下司 信夫、成尾 英仁、西
原 歩

火山, 70(1), 45-50

2025.03.

地質情報研究部門 情報地質研究グループ

国會議事堂に使用された岡山県新見市産大理
石石材「黒柿」:マイクロコディウム組織を持つ石
灰岩

中澤 努、上野 勝美、西本 昌司、乾 瞳
子

GSJ 地質ニュース, 13, 89-90

2024.05.

Shallow microtremor array survey using
miniature and small arrays: Strategy for efficient
and feasible dense survey

長 郁夫、中澤 努

Earth and Space Science, 11,
e2023EA003472

2024.07.

下総台地北西部の地下に分布する中部更新統
下総層群清川層の層相・物性の側方変化

米岡 佳弥、坂田 健太郎、本郷 美佐
緒、中里 裕臣、中澤 努

地質学雑誌, 130(1), 223-238

2024.07.

3次元地質モデリングにより明らかになった茨城県つくば市および周辺地域の更新統下総層群の地質構造

GSJ 新人自己紹介

斜面災害リスク評価のための浅部微動アレイ探査:阿蘇カルデラから東部の火碎流堆積域における S 波速度及び地盤共振周波数の空間分布

関東平野中央部における更新統下総層群の岩石層序区分とテフラの斜交

産技連 知的基盤部会 地質地盤情報分科会
令和 5 年度講演会「ハザードマップ作成における地質地盤情報の利活用」

3D urban geological information development for resilient society

都市平野部における 3 次元地質地盤図の整備と利活用

大阪市中央公会堂の内装に使用される大理石石材:赤坂石灰岩産「美濃霞」と秋吉石灰岩産「長州霞」の比較

坂田 健太郎、野々垣 進、尾崎 正紀、
中澤 努

地質学雑誌, 130, 239-246

2024.07.

藪田 桜子

GSJ 地質ニュース

2024.08.

長 郁夫、米岡 佳弥、川畑 大作、宮地 良典、星住 英夫、下司 信夫、山田 雅行

地質調査総合センター速報,
(86), 115-133

2024.10.

米岡 佳弥、坂田 健太郎、中里 裕臣、
中澤 努

地質学雑誌, 130(1), 409-417

2024.12.

野々垣 進、小松原 純子、納谷 友規、
宮地 良典

GSJ 地質ニュース, 14(1), 26-28

2025.01.

野々垣 進

Proceedings of GIS-IDEAS
2024, (12), 108-114

2025.02.

野々垣 進、中澤 努

応用地質, 65(6), 259-266

2025.02.

中澤 努、西本 昌司、平賀 あまな、乾 瞳子

GSJ 地質ニュース, 14, 33-34

2025.03.

地質情報研究部門 リモートセンシング研究グループ

Comparison of optical spectra between asteroids Ryugu and Bennu: I. Cross calibration between Hayabusa2/ONC-T and OSIRIS-REx/MapCam

湯本 航生、巽 瑛理、神山 徹、Dathon Golish、長 勇一郎、諸田 智克、亀田 真吾、佐藤 広幸、Bashar Rizk、Dani DellaGiustina、横田 康弘、鈴木 秀彦、Julia de Leon、Humberto Campins、Javier Licandro、Popescu Marcel、Juan Luis Rizos Garcia、本田 理恵、山田 学、坂谷 尚哉、本田 親寿、松岡 萌、早川 雅彦、澤田 弘崇、小川 和律、山本 幸生、杉田 精司、Dante Lauretta

ICARUS

2024.05.

リュウグウの岩石試料が始原的な隕石より黒いわけ
地球に飛来した隕石は大気と反応し「上書き保存」されて明るく変化した

太陽系の歴史を紐解く「はやぶさ2」リュウグウ試料分析のこれまでとこれから

産総研一般公開 2023 におけるラボツアー、産業技術「ジオ」研究所の開催報告

Tarda and Tagish Lake: Samples from the same outer Solar System asteroid and implications for D- and P-type asteroids

天野 香菜、中村 智樹、松岡 萌、橘 省吾

GSJ 地質ニュース, 13(5), 91-94

2024.05.

松岡 萌

環境と測定技術, 51(6), 21-26

2024.06.

森田 澄人、井川 恵欧、松岡 萌、羽田 裕貴、針金 由美子、嶋田 侑真、金子 翔平、三木 綾佑子、上綱 大輝

GSJ 地質ニュース, 13(6), 146-

149

Devin L. Schrader、Edward A. Cloutis、
Daniel M. Applin、Jemma Davidson、
Zachary A. Torrano、Dionysis Foustoukos、Conel M. O'D. Alexander、
Kenneth J. Domanik、中村 智樹、松岡 萌、Thomas J. Zega、Gregory A. Brennecke、Jan H. Render

GEOCHIMICA ET
COSMOCHIMICA ACTA

2024.07.

新人自己紹介

First cross- and inter-band calibrations of the Hyperspectral Imager Suite using off-nadir quasi-simultaneous overpass counterparts

Preliminary Radiometric Performance Evaluation of ISS Hisui Using Satellite-Based and Ground-Based Data

Comparison of optical spectra between asteroids Ryugu and Bennu: II. High-precision analysis for space weathering trends

衛星による観測で斜面災害リスク地域を抽出

北部九州斜面災害リスク評価のためのマルチスケールの衛星データ解析

衛星による観測で斜面災害リスク地域を抽出

Terra CEMs による ASTER VNIR における代替校正実験および大気補正への影響に関する研究

Investigation of spectral variations in different solar photovoltaic modules using spaceborne and in-situ hyperspectral data

Global distribution and geological features of ilmenite-rich sites on the lunar surface

池田 あやめ

水落 裕樹、土田 聰、山本 聰、浦井 稔、松岡 萌、池田 あやめ、岩男 弘毅

山本 浩万、土田 聰

湯本 航生、巽 瑛理、神山 徹、Dathon Golish、亀田 真吾、佐藤 広幸、Bashar Rizk、Dani DellaGiustina、横田 康弘、鈴木 秀彦、Julia de Leon、Humberto Campins、Javier Licandro、Popescu Marcel、Juan Luis Rizos Garcia、本田 理恵、山田 学、諸田 智克、坂谷 尚哉、長勇一郎、本田 親寿、松岡 萌、早川 雅彦、澤田 弘崇、小川 和律、山本 幸生、杉田 精司、Dante Lauretta

水落 裕樹

水落 裕樹、松岡 萌、山本 聰、岩男 弘毅、阿部 朋弥、川畑 大作、阪口 圭一、高橋 美紀、星住 英夫、宮崎 一博、宮地 良典

水落 裕樹

山本 浩万、土田 聰、Jeffrey Czapla-Myers、Louis Gonzalez

島田 将貴、水落 裕樹、竹内 涉

山本 聰、松岡 萌、長岡 央、大竹 真紀子、池田 あやめ

GSJ 地質ニュース, 13(7), 184-184

2024.07.

IEEE TRANSACTIONS ON GEOSCIENCE AND REMOTE SENSING, 62(5527517), 1-17

2024.08.

IGARSS 2024 – 2024 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium, 2996-2999

2024.09.

ICARUS, 420

2024.09.

月刊「測量」, 74(10), 44-44

2024.10.

地質調査総合センター速報, 86, 91-96

2024.10.

GSJ 地質ニュース, 13(10), 256-259

2024.10.

学術講演会論文集(日本リモートセンシング学会), 47-48

2024.11.

IEEE Journal of Selected Topics in Applied Earth Observations and Remote Sensing, 18, 9701-9707

2025.03.

JOURNAL OF GEOPHYSICAL RESEARCH-PLANETS, 130(3), e2024JE008663

2025.03.

地質情報研究部門 海洋地質研究グループ

2024 年(令和6年)能登半島地震 一想定と想定外一

技術で未来拓く 一産総研の挑戦- 326 海洋地質図

伊豆大島陸海シームレス赤色立体地図

2022 年度海域地質図航海で行ったトカラ列島北方海域における反射法音波探査及びドレッジ概要

岡村 行信、井上 卓彦、佐藤 智之、大上 隆史、有元 純

科学

2024.06.

三澤 文慶

日刊工業新聞

2024.08.

石塚 治、及川 輝樹、川邊 勝久、井上 卓彦、有元 純

地質調査総合センター速報, 86, 65-69

2024.10.

石野 沙季、石塚 治、針金 由美子、有元 純、三澤 文慶、井上 卓彦

地質調査研究報告, 75(5/6), 167-196

2024.12.

GS22 航海での高分解能サブボトムプロファイラ
ー探査に基づくトカラ列島周辺海域の海底下浅
部構造

GB22-1, GB22-2 及び KH23-1 航海においてト
カラ列島周辺海域で採取された堆積岩の石灰
質微化石に基づく堆積年代

トカラ列島西方海域及び屋久島南方海域の底
質分布とその制御要因

三澤 文慶、古山 精史朗、高下 裕章、
有元 純、石野 沙季、鈴木 克明

地質調査研究報告, 75(5/6),
197-208

2024.12.

有元 純、田中 裕一郎

地質調査研究報告, 75(5/6),
209-222

2024.12.

井上 卓彦、野田 篤、鈴木 克明、岩谷
北斗、板木 拓也、針金 由美子、石塚
治、池内 絵里、片山 肇、兼子 尚知、鈴
木 淳、齋藤 直輝、松井 浩紀、山崎
誠、有元 純、井口 亮、徳田 悠希、千徳
明日香、清家 弘治

地質調査研究報告, 75(5/6),
223-248

2024.12.

地質情報研究部門 地球変動史研究グループ

Living together in dead coral rocks:

Macrosymbiotic communities associated with
Bonellia echиuran worms (Annelida:
Thalassematidae: Bonelliinae), involving a new
commensal bivalve and amphipod species

Multiproxy approach to characterize the
sedimentary process of Cape Darnley Bottom
Water flow through the Wild Canyon, East
Antarctica

人工知能を用いた微化石自動分類・ピッキング
システム

沿岸域の海陸シームレス地質図:海岸線をまた
いでみえるもの

Integration of New Zircon U-Pb Ages with
Biostratigraphy to Establish a High-Precision
Age Model of the Miocene Nakayama Formation
on Sado Island in Central Japan

Delta sustainability 1 from the Holocene to the
Anthropocene and envisioning the future

Late Pleistocene sea-level constraints across
Antarctica

小郡断層海域延長部における海上ボーリング調
査

後藤 龍太郎、平林 熱、清家 弘治、山
下 桃、下村 通誉

ZOOLOGICAL JOURNAL OF
THE LINNEAN SOCIETY, 200,
915-939

2024.04.

竹原 景子、池原 実、浦本 豪一郎、西
田 尚央、大森 貴之、天野 敦子、管沼
悠介、板木 拓也

MARINE GEOLOGY, 470

2024.04.

板木 拓也

化石, (115), 33-42

2024.06.

佐藤 智之

海洋調査技術, 36(1), 19-20

2024.08.

吉岡 純平、松崎 賢治、仁木 創太、黒
田 潤一郎、平田 岳史

Progress in Earth and Planetary
Science, 11(46), 1-26

2024.09.

Edward Anthony、Jaia Syvitski、Florin
Zainescu、Robert J. Nichols、Kim M.
Cohen、齋藤 文紀、John Day、Philip S.J.
Minderhoud、Alessandro Amorosi、
Zhongyuan Chen、Christophe Morhange、
田村 亨、Alfred Vespremeanu-Stroe、
Manon Basset、Francois Sabatier、David
Kaniewski、Vittorio Maselli

Nature Sustainability

2024.10.

Alexander R. Simms、石輪 健樹、
Dominic A. Hodgson、田村 亨、Regina
DeWitt

Quaternary Science Reviews,
341, 108879

2024.10.

大上 隆史、佐藤 智之、太田 耕輔、根
本 夏林、丸山 正、宮下 由香里、納谷
友規、入月 俊明、田中 裕一郎、藤原
治

地質調査総合センター速報,
(86), 35-45

2024.10.

周防灘で実施した反射法音波探査機材 「Innomar compact SBP」の導入と結果概要	佐藤 智之、太田 耕輔、古山 精史朗、 大上 隆史、宮下 由香里	地質調査総合センター速報, (86), 1-9	2024.10.
Advancement in scanning magnetic microscopy utilizing high-sensitivity room-temperature TMR sensors for geological applications	小田 啓邦、熊谷 静似、藤原 耕輔、松 崎 齊、我妻 宏、大兼 幹彦、久保田 均、福興 直人、谷元 瞭太	EARTH PLANETS AND SPACE, 76, 169-169	2024.12.
AUV MBES 画像からの新たな海底熱水活動の 高精度検出手法の開発	玄田 貴之、見郵 和英、中村 謙太郎、 中谷 武志、北田 数也、安川 和孝、加 藤 泰浩	物理探査学会学術講演会講演 論文集, 151, 48-51	2024.12.
Assessing benthic ecosystems using geological techniques: examples of the opheliid polychaete and the ghost crab living in beach sediments	清家 弘治、Thomas Oliver、田村 亨	COASTAL ENGINEERING JOURNAL, 67(1), 53-62	2025.02.
Contrasting consequences of seabed liquefaction on juvenile and adult bivalves during a mega earthquake sequence	清家 弘治、佐々真志、Soonbo Yang	Estuarine, Coastal and Shelf Science, 313, 109105	2025.02.
Accurate sampling of undisturbed top sediment from grab sampler collected using aluminum tube and stainless-steel containers for shallow and deep-sea applications	飯塚 瞳、天野 敦子、板木 拓也	MethodsX, 14, 103213	2025.02.
Millennial and contemporary dynamics of the barrier estuary entrance at Moruya, SE Australia	Thomas Oliver、Andrew D Short、田村 亨	COASTAL ENGINEERING JOURNAL, 67(1), 12-29	2025.02.
「地質情報展 2024 やまと応援プロジェクト」開 催報告	見郵 和英、宍倉 正展、利光 誠一、川 邊 権久、須田 好、板木 拓也、瀬戸 大 暉	GSJ 地質ニュース, 14, 59-62	2025.03.
深層学習によるウォーターカラム画像からの海 底熱水活動シグナルの自動検出	見郵 和英、玄田 貴之、中村 謙太郎、 中谷 武志、北田 数也	第 31 回海洋工学シンポジウム 論文集, OES31-A0020	2025.03.
Development shifts on the emerging Jarve coast (Estonia) in Late Holocene	Katre Luik、Hannes Toniisson、Reimo Rivis、Kadri Vilumaa、Tilt Vaasma、Egert Vandel、Ulo Suursaar、田村 亨	MARINE GEOLOGY	2025.03.
Classifying microfossil radiolarians on fractal pre-trained vision transformers	見郵 和英、板木 拓也、片岡 裕雄、宮 川 歩夢	Scientific Reports, 15, 7189	2025.03.
和歌山平野における貝塚の形成年代について: 鳴神貝塚・禪宜貝塚・岡崎縄文遺跡・狛口石岩 陰遺跡	大木 要、菊井 佳弥、前田 敬彦、田邊 晋	和歌山市立博物館研究紀要	2025.03.

地質情報研究部門 資源テクニクス研究グループ

Origin of Philippine Sea basins during subduction initiation in the Western Pacific	石塚 治、谷 健一郎、Rex N Taylor、海 野 進、坂本 泉、Yuka Yokoyama、Itaru Ogitsu、下田 玄、針金 由美子、佐藤 太一、小原 泰彦、Conway Edward Christopher、Americus Perez、Masakazu Fujii、草野 有紀、Masatoshi Yagi、 Yoshihiko Tamura、Shun Sekimoto	GEOCHEMISTRY GEOPHYSICS GEOSYSTEMS, 25, e2023GC011291	2024.05.
Determination of 87Sr/86Sr Ratios in Food Grains Characterized by Low Concentration Sr Using MC-ICP-MS	有賀 智子、三浦 勉、後藤 孝介、下田 玄	Atomic Spectroscopy, 2024, 45(4) : 276-289	2024.07.

技術で未来拓く—産総研の挑戦—348 地震や
断層運動の過程再現

SBP を表示しよう；白鳳丸 Bathy2010 編

Inception of ridge-ridge-ridge triple junctions:
Morphostructural analysis and dynamics in the
early back-arc extension of the northern
Okinawa Trough

高下 裕章

日刊工業新聞

2025.02.

高下 裕章、村上 文敏、大塚 宏徳、中
西 謙、三澤 文慶

地質学雑誌, 131(1), 1-9

2025.03.

高下 裕章、佐藤 太一、有元 純、大坪
誠、石野 沙季、鈴木 克明、石塚 治、針
金 由美子、三澤 文慶、井上 卓彦、山
下 幹也、古山 精史朗、横山 由香、佐
藤 悠介、森 尚仁、南 宏樹、田村 千織

GEOLOGY, 53(5), 269-273

2025.03.

地質情報研究部門 海洋環境地質研究グループ

Variation in species and functional composition
of octocorals and zoantharians across a tropical
to temperate environmental gradient in the
Indo-Pacific

Nori Otis、James Davis Reimer、河村 伊
織、喜瀬 浩輝、水山 克、小渕 正美、
Brigitte Sommer、Catherine S.
McFadden、Maria Beger

CORAL REEFS, 43, 613-626

2024.04.

Anthropocene North Western Pacific
Oceanography Recorded as Seasonal-resolution
Radiocarbon in Coral from Kikai Island, Japan

Yuning Zeng、横山 祐典、平林 頌子、宮
入 陽介、鈴木 淳、阿瀬 貴博、川久保
友太

GLOBAL BIOGEOCHEMICAL
CYCLES

2024.04.

海洋保護区安永海山の岩場で新種の ウミエラ
類を発見 —北西太平洋から初報告—

櫛田 優花、喜瀬 浩輝、井口 亮、藤原
義弘、土田 真二

GSJ 地質ニュース, 13(5), 95-
100

2024.05.

Population structure and genetic connectivity of
the big blue octopus Octopus cyanea in the
Ryukyu Archipelago, Japan

喜瀬 浩輝、齋藤 直輝、儀武 混大、安
里 聖貴、北 朋紘、松崎 遣大、井口 亮

AQUATIC CONSERVATION-
MARINE AND FRESHWATER
ECOSYSTEMS, 34(5), e4153

2024.05.

Transgenerational acclimation to acidified
seawater and gene expression patterns in a sea
urchin

井口 亮、儀武 混大、依藤 実樹子、西
島 美由紀、鈴木 淳、小塙 恒夫、松本
有記雄、井上 麻夕里、藤井 賢彦、村岡
大祐、藤田 大和、高見 秀輝

Science of The Total
Environment, 930, 172616

2024.06.

Observation and modeling of flow in a deep-sea
seamount for environmental assessment of
cobalt-rich crusts mining

齋藤 直輝、矢野 真一郎、長尾 正之、
鈴木 淳、鴨志田 紗子

Proceedings of the Annual
International Offshore and Polar
Engineering Conference, 402-
405

2024.06.

Intraspecific variation in response to elevated
pCO₂ and temperature in the branching reef
coral Acropora digitifera from different habitats

Cristiana Manullang、Ariyo Imanuel
Tarigan、井口 亮、中村 崇

CORAL REEFS

2024.06.

Asymmetric genetic population structures at the
range edges of a mangrove whelk

濱本 耕平、井口 亮、儀武 混大、小澤
宏之、小島 まり、水野 沙希、善岡 祐
輝、齋藤 直輝、藤田 喜久

Science of The Total
Environment, 934, 173248

2024.07.

海水を溶媒とした上向流カラム通水試験における
カシラン石の各種元素の溶出挙動

西方 美羽、保高 徹生、TUM
Sereyroith、鈴木 淳、山岡 香子、塚崎
あゆみ、藤井 和美

第 59 回地盤工学研究発表会
予稿集

2024.07.

Diversity, Composition and Potential Roles of
Sedimentary Microbial Communities in Different
Coastal Substrates Around Subtropical Okinawa
Island, Japan

濱本 耕平、水山 克、西島 美由紀、前
田 歩、儀武 混大、Angelo POLISENO、
井口 亮、James Davis Reimer

Environmental Microbiome

2024.07.

たった一つのサンゴポリプで代謝物解析が可能
に—サンゴを調べる新たな評価手法の確立に成
功—

井口 亮、飯島 真理子、水澤 奈々美、
大野 良和、安元 剛、鈴木 淳、菅 駿
一、田中 健、財津 桂

GSJ 地質ニュース, 13(8), 199-
202

2024.08.

Museum collections as untapped sources of undescribed diversity of sponge–zoantharian associations with the description of six new species of *Ummayanthus* (Zoantharia: Parazoanthidae) from Western Australia and eastern Indonesia

Live imaging of center of calcification formation during septum development in primary polyps of *Acropora digitifera*

ラボ間比較試験による環境水中のリン酸分析の妥当性検証

Polyamine impact on physiology of early stages of reef-building corals–insights from rearing experiments and RNA-Seq analysis

トカラ列島周辺海域における CTD 観測および海洋大循環モデルに基づく海洋環境

The Role of Polyamines in pH Regulation in the Extracellular Calcifying Medium of Scleractinian Coral Spots

Subtropical specialists dominate a coral range expansion front

Parazoanthidae (Cnidaria, Zoantharia) associated with glass sponges on the Nishi-Shichito Ridge, northwestern Pacific Ocean, with the description of a new species

Identification of deposits from modern and ancient large tsunamis by means of environmental DNA

Adverse effects of total phosphate load from the environment on the skeletal formation of coral juveniles

Comparison of phyletic composition of endosymbiotic dinoflagellates of a coral, *Acropora digitifera* among coral reefs with different seawater temperatures at Okinawa Island, Japan.

Javier Montenegro, Jane Fromont, Zoe T. Richards, 喜瀬 浩輝, Oliver Gomez, Bert W. Hoeksema, James Davis Reimer

CONTRIBUTIONS TO
ZOOLOGY, 93(5), 466–522

2024.08.

大野 良和、高橋 有南、堤 元佐、窪田 梓、井口 亮、飯島 真理子、水澤 奈々美、中村 崇、鈴木 淳、鈴木 道生、安元 純、渡部 終五、酒井 一彦、根本 知己、安元 剛

チヨン 千香子、大畑 昌輝、荒岡 大輔、飯島 真理子、塚崎 あゆみ、町田 功、山内 喜通、鈴村 昌弘、山岡 香子、青木 伸行

儀武 淩大、水澤 奈々美、飯島 真理子、大野 良和、安元 純、安元 剛、井口 亮

齋藤 直輝、鈴木 克明、板木 拓也、鈴木 淳

窪田 梓、大野 良和、安元 純、飯島 真理子、鈴木 道生、井口 亮、安元 加奈未、廣瀬(安元) 美奈、坂田 剛、末弘 孝明、中前 華帆、水澤 奈々美、神保 充、渡部 終五、安元 剛

Fiona Chong, SOONG GIUNYEE, Agus A Hakim, Camille Burke, Stephane De Palmas, Fabian Goesser, Wan-chien Victoria Hsiao, 喜瀬 浩輝、西島 美由紀、井口 亮、Brigitte Sommer, Domino Joyce, Maria Beger, James Davis Reimer

喜瀬 浩輝、James Reimer、井口 亮、伊勢 優史、土田 真二、藤原 義弘

篠崎 鉄哉、井口 亮、西島 美由紀、後藤 和久、藤野 滋弘

飯島 真理子、安元 剛、安元 純、井口 亮、廣瀬(安元) 美奈、安元 加奈未、水澤 奈々美、神保 充、酒井 一彦、鈴木 淳、渡部 終五

儀武 淩大、鈴木 淳、水山 克、酒井 一彦、井口 亮、広松 采夏

Frontiers in Marine Science, 11 2024.08.

分析化学, 73(9), 553–559 2024.09.

Scientific Reports, 14: 23465 2024.10.

地質調査研究報告, 75(5/6), 279–297 2024.12.

ENVIRONMENTAL SCIENCE & TECHNOLOGY, 58(51), 22635–22645 2024.12.

CORAL REEFS 2024.12.

ZooKeys, 1221, 343–362 2024.12.

Scientific Reports 2025.01.

Marine Pollution Bulletin, 211, 117395 2025.02.

CORAL REEFS, 44, 345–351 2025.02.

Argon Ion: a Dominating Source for Space Charge Effects in Inductively Coupled Plasma Mass Spectrometry

朱 彦北、鹿籠 康行、中野かずみ、山岡 香子 ATOMIC SPECTROSCOPY, 46(1), 10-16 2025.02.

Significance of birth in the maintenance of quiescent neural stem cells

Koya Kawase、Yasuhisa Nakamura、Laura Wolbeck、Shoko Takemura、財津 桂、Takehiro Ando、Hideo Jinnou、Masato Sawada、Chikako Nakajima、Rasmus Rydbirk、Sakura Gokenya、Akira Ito、Hitomi Fujiyama、Akari Saito、井口 亮、Panagiotis Kratimenos、Nobuyuki Ishibashi、Vittorio Gallo、Osuke Iwata、Shinji Saitoh、Konstantin Khodosevich、Kazunobu Sawamoto Science Advances, 11, eadn6377 2025.01.

Bioinformatic approach to explain how Mg from seawater may be incorporated into coral skeletons

ベル 智子、大野 良和、井口 亮、酒井一彦、横山 祐典 Royal Society Open Science 2025.01.

Coral decline linked to exchangeable phosphate in seawater from coastal calcareous sediments, as evidenced in Sekisei lagoon, Japan

安元 純、飯島 真理子、井口 亮、中村 崇、高田 遼吾、廣瀬 美奈、岩崎 雄一、保高 徹生、安元 加奈未、新城 竜一、Aris Yamazaki、水澤 奈々美、大野 良和、鈴木 淳、渡部 終五、安元 剛 MARINE BIOTECHNOLOGY 2025.03.

メタンハイドレート賦存域海底における好気・嫌気メタン酸化の共存 -メタン動態と生物群集へのインパクト-

堀 知行、太田 雄貴、宮嶋 佑典、井口 亮、塚崎 あゆみ、鈴木 淳、鈴村 昌弘、青柳 智、吉岡 秀佳 日本微生物生態学会誌, 40(1) 2025.03.

日本海における深海性ヨコエビ(フトヒゲソコエビ類)の捕獲、飼育および生物影響実験の試み

鈴木 淳、石田 洋、向井 稔、池内 紘里、喜瀬 浩輝、西島 美由紀、井口 亮、鈴木 淳、鈴村 昌弘 海の研究, 34(2), 37-53 2025.03.

地質情報研究部門 地球化学研究グループ

Chemical Osmosis-Driven Thermodynamically Coupled Processes: Mechanistic Insights into Oil Recovery from Core-Scale Experiments

竹田 幹郎、間中 光雄、後藤 彩恵 2024 SPE Improved Oil Recovery Conference 2024.04.

Corrigendum to “Contribution of carbonatite and recycled oceanic crust to petit-spot lavas on the western Pacific Plate” published in Solid Earth, 15, 167-196, 2024

三國 和音、平野 直人、町田 翠樹、角野 浩史、秋澤 紀克、田村 明弘、森下 知晃、加藤 泰浩 Solid Earth, 15(2), 167-196 2024.05.

A Lake at the Mt. Fuji (Lake Motosu) Recording Prolonged Negative Arctic Oscillation as Reduction of Aeolian Dust Due To Westerly Pathways During the Holocene

根本 夏林、横山 祐典、Stephen P. Obrochta、宮入 陽介、藤原 治、山本 真也、中村 淳路、Aurelia Hubert-Ferrari、Vanessa Heyvaert、Marc De Batist Paleoceanography and Paleoclimatology, 39(9), e2023PA004805 2024.09.

トカラ列島周辺海域(GB22-1 および 22-2 航海)で採取された海底堆積物の化学組成

久保田 蘭、立花 好子、板木 拓也、片山 肇、鈴木 克明、間中 光雄 地質調査研究報告, 75(5/6), 265-278 2025.01.

Influence of cathode materials on BeO currents in cosmogenic ^{10}Be measurements using a SNICS ion source and accelerator mass spectrometry

中村 淳路、山形 武靖、松崎 浩之 NUCLEAR INSTRUMENTS & METHODS IN PHYSICS RESEARCH SECTION B-BEAM INTERACTIONS WITH 2025.01.

Intact Pacific oceanic crust captured as mafic xenoliths in a petit-spot volcano

三國 和音、平野 直人、町田 嗣樹、秋澤 紀克、米田 成一、田村 明弘、水上 知行、加藤 泰浩、森下 知晃

MATERIALS AND ATOMS,
558, 165562-

MARINE GEOLOGY,
483(107497) 2025.02.

地質情報研究部門 地球物理研究グループ

地質粒子画像分類を支援する深層学習を活用したソフトウェア

宮川 歩夢、松本 恵子、板木 拓也、下司 信夫

地質調査総合センター研究資料集, 750 2024.04.

研究者連携システム AAO その設計・実装・将来展望

城 真範、宮川 歩夢、藤田 司、大知 正直、岩崎 雄一、保高 徹生

地質調査研究報告, 75(2), 73-81 2024.06.

松代における絶対重力測定との比較による超伝導重力計 CT #036 および iGrav #028 の感度検定

今西 祐一、西山 竜一、本多 亮、丸藤 大樹、名和 一成

測地学会誌, 70, 13-25 2024.06.

Geosciences Montpellier(モンペリエ, フランス)での在外研究—フランスで藪漕ぎ—

宮川 歩夢

GSJ 地質ニュース, 13(7), 153-156 2024.07.

Primary Pressure Scale of KCl B2 Phase to the Core-Mantle Boundary

Ning Ma、住田 達哉、Motohiko Murakami

JOURNAL OF GEOPHYSICAL RESEARCH-SOLID EARTH, 129(7), e2024JB028819 2024.07.

第 15 編 最新の物理探査技術, 第 3 章 ドローン物理探査

上田 匠、光畑 裕司、大熊 茂雄、笠谷 貴史

物理探査ハンドブック 第三版, 1161-1192 2024.07.

第 9 編磁気探査、2. 基礎事項 2.1 地磁気と岩石磁性

大熊 茂雄

物理探査ハンドブック 第三版, 599-603 2024.07.

第 9 編磁気探査、4. データ解釈技術

大熊 茂雄、中塚 正

物理探査ハンドブック 第三版, 634-644 2024.07.

第 9 編磁気探査、5. 最近の技術動向

大熊 茂雄、中塚 正

物理探査ハンドブック 第三版, 645-647 2024.07.

P 波反射法測線に加えた 3 成分地震計 1 個での S 波速度の簡易推定
—埼玉県鴻巣市での探査例—

大滝 壽樹

地質調査研究報告, 75(3), 93-101 2024.09.

斜面災害リスク評価を目的とした九州北部地域の極磁力異常図および磁化強度分布図の編集集

大熊 茂雄、宮川 歩夢、星住 英夫、阪口 圭一、米岡 佳弥、阿部 朋弥、川畑 大作、宮地 良典

地質調査総合センター速報, (86), 97-106 2024.10.

阿蘇カルデラ西部より採取した粘土鉱物に富んだ地すべり土の摩擦挙動

高橋 美紀、宮川 歩夢、阪口 圭一、星住 英夫、阿部 朋弥、大熊 茂雄、川畑 大作、宮地 良典

地質調査総合センター速報 2024.10.

20 万分の 1「甲府—静岡地域重力図(ブーゲー異常)」の発行

大熊 茂雄

月刊測量, 74(11), 54 2024.11.

Deep plutonic bodies over low-frequency earthquakes revealed from receiver-side Green's functions

佐脇 泰典、伊藤 喜宏、Emmanuel Soliman M. Garcia、宮川 歩夢、濵谷 拓郎

TECTONOPHYSICS, 230536 2024.12.

Seismological structure of the Earth's lowermost outer core (F layer) beneath the east-central Pacific

大滝 壽樹、金嶋 聰、土屋 卓久

JOURNAL OF GEOPHYSICAL RESEARCH-SOLID EARTH 2025.03.

2024 年 8 月の南海トラフ地震臨時情報の効果—1 年前のアンケート調査結果との比較—

大谷 竜、林 能成

社会安全学研究, 15, 105-118 2025.03.

20万分の1「甲府-静岡地域重力図(ブーゲー
異常)」の概要と重力調査の紹介

大熊 茂雄、伊藤 忍、江戸 将寿

地質ニュース, 14(23), 38-46

2025.03.

5.4 口頭発表

発表題目	発表者	学会名	発表年月日
地質情報研究部門			
Stratigraphy and correlation of intercalated tephra layers in sediment cores from the Japan Trench off Tohoku	長橋 良隆、里口 保文、 <u>池原 研</u>	IODP Expedition 386 Stratigraphy Meeting	2024.04.13
Holocene to late Pleistocene radiolarian bioevents in IODP Exp 386 Japan Trench cores	板木 拓也、 <u>池原 研</u>	IODP Expedition 386 Stratigraphy Meeting	2024.04.13
Preliminary result on sedimentation rates and chronology of IODP Exp 386 pilot trigger cores from northern to central Japan Trench	<u>池原 研</u>	IODP Expedition 386 Stratigraphy Meeting	2024.04.13
Chemical-based event-stratigraphic correlation along the Japan Trench by XRF-CS chemical fingerprint and multivariate statistics	Jun-Ting Lin, Jyh-Jaan Steven Huang, <u>池原 研</u> 、Michael Strasser, Ta-Wei Hsu, Chih-Chieh Su, Yu-Hsun Shao, Yen-Hsi Wu、天野 敦子	2024 European Geoscience Union General Assembly	2024.04.16
混濁流による礫質サイクリックステップの堆積相多様性: 富山県八尾地域中新統ファンデルタフロント堆積物と黒部川扇状地の比較から	中嶋 健、 <u>齋藤 文紀</u>	日本堆積学会 2024 年熊本大会	2024.04.20
別府湾別府市沖沿岸の海底地すべりとその冲合への流動形態の変化	<u>池原 研</u> 、加 三千宣、山田 圭太郎、原口 強、一井 直宏、竹村 恵二、別府湾コア研究グループ	日本堆積学会 2024 年熊本大会	2024.04.21
Deciphering event deposit provenance and mechanisms along the Japan Trench with chemical event-stratigraphic correlation	Jun-Ting Lin, <u>池原 研</u> 、Michael Strasser, Ta-Wei Hsu, Chih-Chieh Su, Jyh-Jaan Steven Huang	2024 Annual Conference of Geological Society located in Taipei & Chinese Taipei Geophysical Society	2024.05.07
地質・衛星情報を用いた斜面災害リスクの検討	<u>宮地 良典</u>	長崎県山地防災ヘルパー研修会	2024.05.24
地球の鼓動を理解する～地質学という学問と地質情報の整備～	<u>荒井 晃作</u>	山梨県高等学校教育研究会理科部会記念講演	2024.05.27
海底堆積物から海溝型地震はどこまで読解できるか?: 西部南海トラフにおける試み	小澤 紗、岩井 雅夫、 <u>池原 研</u> 、金松 敏也、芦 寿一郎、浅田 美穂	JpGU2024	2024.05.28
御前崎沖掘削コア中の地震性タービダイツの特徴へのバックグラウンド環境変動の影響	<u>池原 研</u> 、石澤 堯史、金松 敏也	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.28
Ventilation changes in the northwestern Pacific during the glacial period: Evidence in the core YK15-01 PC13	Wei-Cheng Hsiung, Hui-Ling Lin, Horng-Sheng Mii, <u>池原 研</u> 、 <u>板木 拓也</u> 、Yuan-Pin Chang	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.29
Application of paleomagnetic secular variation for high-resolution chronology of deep-sea event deposits: IODP Expedition 386 Japan Trench paleoseismology	金松 敏也、山本 裕二、Hsiung Kan-Hsi、Yonghong Wang、 <u>池原 研</u> 、Michael Strasser	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.29

日本海溝底海溝充填堆積物中に過去の slip-to-the trench の痕跡は残されているか? : IODP 1010-APL2 JTRACK-Deep-time Paleoseismology

17 世紀に北海道沖で起きた巨大地震の海底堆積物中の記録: 千島海溝沿いの海底古地震記録

當時微動データを用いて微高地を判別する試み: 埼玉県大宮台地北部～加須低地の例

産総研における斜面災害リスク評価のための地質情報整備

Benthic adaptation of extant brachiopods off Tokai region, central Japan

Ocean current-induced sand accumulation and transport to deep-sea through submarine canyons during the Holocene at offshore of south Kyushu, Japan

Diagnostic criteria using high-resolution sedimentary facies and their spatial patterns

Utilizing XRF-core scanning-based chemostratigraphy: Insights from XRF-based mineralogy of IODP Expedition 386

Chemical-based event-stratigraphic correlation in the central Japan Trench by XRF-CS chemical fingerprint and multivariate statistics

Game of plumes: styles of mobile fluid flow in the Japan Trench

Tephra correlations between the sites under the Japan Trench

IODP386: Geological evidence for past slip to the trench

Historical earthquake records along the northern Japan Trench in surface sediment cores of IODP Expedition 386

池原 研、Michael Strasser、Troy Rasbury、中村 恭之、IODP 1010-APL2 提案者グループ

金松 敏也、Hsiung Kan-Hsi、中西 谒、窪田 薫、池原 研、Chang Yu-Chun、富士原 敏也

小松原 純子、長 郁夫、納谷 友規、佐藤 善輝、先名 重樹

宮地 良典、川畑 大作、阿部 朋弥、岩男 弘毅、巖谷 敏光、大熊 茂雄、下司 信夫、斎藤 眞、阪口 圭一、高橋 美紀、長 郁夫、土田 聰、星住 英夫、松岡 萌、水落 裕樹、宮川 歩夢、宮崎 一博、山本 聰、米岡 佳弥

椎野 勇太、Kota Sato、Chinatsu Sasaki、Takuya Shiratsuka、Yoshino Ishizuka、Souma Kaneko、延原 尊美、池原 研

池原 研、金松 敏也

Mishelle Muthre、Jean Noel Proust、Jyh-Jaan Steven Huang、Jun-Ting Lin、Charlotte Pizer、池原 研、Michael Strasser

Jyh-Jaan Steven Huang、Jun-Ting Lin、池原 研、Michael Strasser、Ta-Wei Hsu、Chih-Chieh Su

Jun-Ting Lin、Jyh-Jaan Steven Huang、池原 研、Michael Strasser、Ta-Wei Hsu、Chih-Chieh Su

Myra Keep、Derek Sawyer、Charlotte Pizer、Michael Strasser、池原 研、Troy Rasbury

里口 保文、長橋 良隆、池原 研

Charlotte Pizer、Myra Keep、中村 恭之、Jasper Moernaut、喜岡 新、池原 研、小平 秀一、Michael Strasser

池原 研、Jun-Ting Lin、Jyh-Jaan Steven Huang、Charlotte Pizer、Michael Strasser

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.29

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.29

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.30

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.31

9th International Brachiopod Congress

2024.06.24

37th International Meeting of Sedimentology

2024.06.27

IODP Expedition 386 2nd Post-Cruise Meeting

2024.07.08

From IODP Expedition 386 to IODP3
Expedition 503 "Hadal Trench Slip History"
Next Challenge of Japan Trench drilling

元素で見る日本列島—日本の地球化学図
—

日本海溝堆積物に記録された過去の海溝
型巨大地震

近畿地方北部の超丹波帯付加複合体にお
ける層序型の層厚変化

Sedimentary basins analysis through Multi-
Channel Seismic(MCS) profiles of the
Eastern Nankai Trough landward slope,
Japan.

地震性混濁流の発生におけるバックグラウ
ンド環境変動の影響:御前崎沖と中部日本
海溝の例から

沖縄島周辺の海底地質

御前崎沖掘削コア中のタービダイトが示す
地震と完新世におけるその堆積間隔

日本の土壤地球化学図 一物質の起源・産
地推定へ向けた新たな指標—

海底のイベント堆積物を用いた地震履歴研
究の現状と今後のチャレンジ: 日本周辺海
域の研究から

ランタノイド LIII 吸収端 XANES スペクトルの
半值全幅(FWHM)を用いた化学形態分析
の可能性

別府湾コアのイベント層の区分と堆積の周
期性

海域データのお話 Marine Geology Data

奄美群島周辺海域の海洋地質

Marine geology around Japan – Use of basic
marine geological data from the Geological
Survey of Japan for the construction of
floating offshore wind farms in Japan's
exclusive economic zone

Enhanced iron and manganese oxide
accumulation in Japan Trench sediments

池原 研、Michael Strasser、中村 恭
之、IODP 1010-APL2 proponent group

太田 充恒

池原 研、板木 拓也、長橋 良隆、里
口 保文、石澤 堯史、金松 敏也、
Michael Strasser

中江 訓

*Philomene Vanessa EYANGONDO、
荒井 晃作、三澤 文慶、横山 由香、
坂本 泉

池原 研、石澤 堯史、金松 敏也、長
橋 良隆、里口 保文、板木 拓也

荒井 晃作

池原 研、金松 敏也、Hsiung Kan-
Hsi、石澤 堯史、里口 保文、長橋 良
隆

太田 充恒

池原 研

太田 充恒、田中 万也

池原 研

荒井 晃作

荒井 晃作

荒井 晃作

Natascha Riedinger、Lauren Haygood、
Olivia Galvez、Christian Marz、Joel
Johnson、Piero Bellanova、Troy

IODP Expedition 386 2nd Post-
Cruise Meeting

人文科学と材料科学が紡ぐ新知創
造学際領域の形成

日本第四紀学会 2014 年大会

日本地質学会第 131 年学術大会

日本地質学会大 131 学術大会

日本地質学会第 131 年学術大会

日本地質学会第 131 年学術大会

日本地質学会第 131 年学術大会

分析化学会第 73 年会

日本地質学会第 132 年学術大会

日本地球化学会 第 71 回年会

別府湾堆積物研究会勉強会

IT とエレクトロニクスの国際展示会
2024

2024 年度 亜熱帯 Kuroshio 研究
教育拠点の形成と展開事業・市民
参加による海洋総合知創出手法
構築プロジェクト合同シンポジウム

Japan–Norway Floating Offshore
Wind Seminar

アメリカ地球物理学連合 2024 秋季
大会

2024.07.09

2024.07.12

2024.08.31

2024.09.08

2024.09.09

2024.09.09

2024.09.09

2024.09.09

2024.09.15

2024.09.20

2024.10.13

2024.10.17

2024.11.15

2024.12.03

2024.12.11

and its relevance for sedimentary trace metal distribution	Rasbury, Martin Kolling, Rui Bao, Min Luo, Susanne Straub, Joonas Virtasalo, Michael Strasser, <u>池原 研</u> , Jeremy Everest, IODP Expedition 386 Science Party	
Newly identified mud diapirism and surface eruption along the central Japan Trench axis: results from Exp. 386 Japan Trench paleoseismology	Myra Keep, Derek Sawyer, Charlotte Pizer, Michael Strasser, <u>池原 研</u> , Troy Rasbury, 中村 恭之	アメリカ地球物理学連合 2024 秋季大会 2024.12.13
産総研における斜面災害研究とその意義	<u>宮地 良典</u>	第 43 回 地質調査総合センターシンポジウム 2024.12.20
Marine geohazard study can co-exist with paleoceanographic study in a core: a consideration from off Tokai example	<u>池原 研</u>	Taiwan-Japan Ocean Sciences Workshop on the NW Pacific and Kuroshio Areas 2024.12.20
斜面災害防災のための地質情報の利用	<u>宮地 良典</u>	福井地質調査業協会講演会 2025.02.14
承認者の変更ができるかテスト	<u>太田 充恒</u>	テスト学会 2025.03.07
海底堆積物を使った千島海溝沿いの地震記録復元: 地震発生帯で採取された海底堆積物の概要	金松 敏也, Kan-Hsi Hsiung, 崔田 薫, 中西 諒, 浦本 豪一郎, 石澤 堯史, Yu-Chun Chang, 上原 諒, 与謝野 勤, 壽 隆海大, 富士原 敏也, <u>池原 研</u> , 池田 尚史, 山本 裕二, 永澤 純子, 金子 幸司朗, Yen-Hsi Wu, Yao-Ming Liu, Yang Zhao, Jyh-Jaan Steven Huang	海と地球のシンポジウム 2024 2025.03.13

地質情報研究部門 平野地質研究グループ

Pliocene-Pleistocene magnetostratigraphy and geomagnetic reversal structure from marine, terrestrial, and coastal successions in Japan	<u>羽田 裕貴</u>	日本地球惑星科学連合 2024 年大会 2024.05.29
Placenzian oxygen isotope-magnetostratigraphy constrained by U-Pb dating of tephra beds from a marine succession in central Japan	<u>羽田 裕貴</u>	日本地球惑星科学連合 2024 年大会 2024.05.29
大分県姫島に分布する更新統から産出した Aulacoseira 属珪藻化石	<u>納谷 友規</u> , <u>水野 清秀</u> , <u>堀内 悠</u>	日本珪藻学会第 45 回大会 2024.06.23
多摩川低地の沖積層アトラスの紹介	<u>田邊 晋</u>	神奈川県地質調査業協会講演会 2024.07.02
関東平野中央部の沖積低地における地形・遺跡情報の統合による過去 4 千年間の洪水履歴の解明	<u>田邊 晋</u>	令和 5 年度河川基金研究成果発表会 2024.08.23
掛川層群における鮮新-更新世境界付近のテフラ層序と広域対比	<u>中谷 是崇</u> , <u>水野 清秀</u> , <u>羽田 裕貴</u>	日本地質学会第 131 年学術大会 2024.09.09
大分県姫島の更新統唐戸層の堆積年代と姫島火山群との層序関係	<u>納谷 友規</u> , <u>水野 清秀</u> , <u>本郷 美佐緒</u> , <u>羽田 裕貴</u> , <u>堀内 悠</u>	日本地質学会第 131 年学術大会 2024.09.10

古琵琶湖層群上野層におけるギルバートーガウス地磁気逆転境界

沖積低地における地形と遺跡の編纂に基づいた過去4千年間の洪水の履歴と規模、要因の解明

東京低地における沖積基底礫層の粘性残留磁化年代

Progress in research on Holocene coastal sediments in Japan over the past 20 years

Viscous remanent magnetization dating of the subsurface late Pleistocene fluvial gravel beds beneath the Tokyo Lowland, central Japan

珪藻化石から見た沿岸珪藻群集の成立時期

京都盆地南部・巨椋池干拓地におけるボーリング調査

羽田 裕貴、里口 保文、菅沼 悠介

田邊 晋

羽田 裕貴、田邊 晋、小田 啓邦

田邊 晋

羽田 裕貴、田邊 晋、小田 啓邦

納谷 友規

佐藤 善輝、小野 映介

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.10

2023 年度学術研究助成研究結果報告会

2024.10.29

第 10 回 地球環境史学会年会

2024.11.30

ユトレヒト大学地球科学部講演会

2024.12.06

AGU Annual Meeting 2024

2024.12.11

2025 年日本プランクトン学会春季シンポジウム

2025.03.16

日本地理学会 2025 春季学術大会

2025.03.19

地質情報研究部門 層序構造地質研究グループ

紀伊半島四万十帯と関東三波川帯の鉱物脈中の流体包有物に記録される塩濃度と形成圧力

沈み込み帯におけるプレート境界断層と変形帯の幅: 紀伊半島に分布する四万十帯白亜系花園層の例

美濃帯中部三畳系層状チャートにおける放散虫・コノドント化石層序及び化学層序

房総半島中部, 5 万分の 1 地質図幅「大多喜」における前弧海盆堆積物の層序と構造

Evolutionary change of crystallographic orientation and coccolith morphology: Case studies from Cenozoic coccolithophorids

Lithology and radiolarian fossils from Ie Island, Okinawa: Division of the Chichibu Belt around the northwestern Okinawa Island, Japan

ジルコン U-Pb 年代およびマンガンノジュール中の放散虫化石による北部北上帯の付加年代制約

佐渡島におけるペルム系碎屑岩層の碎屑性ジルコン U-Pb 年代と全岩化学組成

紀伊半島中央部の白亜紀四万十付加体に含まれる蛇紋岩の起源と交代作用

田中 冬馬、川本 竜彦、吉田 壱星、志村 侑亮、平内 健一

志村 侑亮、常盤 哲也、水戸 創也、菖蒲 一歩、竹内 誠

塩原 拓真、尾上 哲治、富松 由希

宇都宮 正志、小松原 琢、徳橋 秀一、中嶋 輝允

宇都宮 正志、小暮 敏博

伊藤 剛

武藤 俊、伊藤 剛、大関 仁智

鈴木 敬介、栗原 敏之、石田 大昂、植田 勇人

志村 侑亮、遠藤 俊祐、淺原 良浩

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.27

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.27

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.29

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.30

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.30

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.31

日本地球惑星連合 2024 年大会

2024.05.31

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.08

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.08

南部北上帯西縁の前期古生代変成岩類からの碎屑性ジルコン U-Pb 年代とその古地理学的意義	鈴木 敬介、栗原 敏之、原 英俊、石川 賢一、大槻 丈瑛、植田 勇人	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.09
室戸半島、四十萬帶古第三系室戸半島層群のテクトニクス再考	原 英俊、松元 日向子、藤内 智士	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.09
美濃帯および北部北上帯の中部三疊系層状チャートにおける放散虫・コドント化石層序と化学層序	塩原 拓真、尾上 哲治、武藤 俊	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.10
日本列島ジュラ紀付加体中の古生界遠洋深海堆積岩層序	武藤 俊	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.10
Evolutionary change in crystallographic orientation and morphology of Cenozoic coccoliths: insights from <i>Toweius</i> , <i>Reticulofenestra</i> , and <i>Umbilicosphaera</i>	宇都宮 正志、小暮 敏博、萩野 恭子、Jean M. Self-Trail	International Nannoplankton Association Meeting (INA19)	2024.09.12
Paleocene-Eocene calcareous nannofossil biostratigraphy of the Surprise Hill core from Virginia, USA	宇都宮 正志、Jean M. Self-Trail, D. Clay Kelly, Xiaodong Zhang	International Nannoplankton Association Meeting (INA19)	2024.09.12
Metasomatism between serpentinite and subducted materials in the seismogenic zone: Example of the Shimanto Accretionary Complex	志村 侑亮、遠藤 俊祐、淺原 良浩	International Joint Workshop on Slow-to-Fast Earthquakes 2024	2024.09.17
Detrital zircon U-Pb geochronology revealing an early formation of proto-Japan: Reconstruction of Ordovician arc along the Terra Australis Orogen of northeastern Gondwana	鈴木 敬介、栗原 敏之、原 英俊、石川 賢一、大槻 丈瑛、植田 勇人	The 2024 Annual Convention of the International Association for Gondwana Research (IAGR) and 21st International Conference on Gondwana to Asia	2024.11.18
かつて深海だった頃の南関東～房総半島での地質図づくりから見えてきたこと～	宇都宮 正志	千葉県私立高等学校理科研修会	2024.11.19
Indosinian Orogeny recorded in sedimentary rocks of the Indochina Block, central Thailand	原 英俊、Thasinee Charoentitirat、常盤 哲也、栗原 敏之、鈴木 敬介、Apsorn Sardsud	The 2024 Annual Convention of the International Association for Gondwana Research (IAGR) and 21st International Conference on Gondwana to Asia	2024.11.19
Calcareous nannofossil biostratigraphy and species response to environmental changes recorded in the Pliocene Yorktown Formation, southeastern Virginia, USA	宇都宮 正志、Harry J. Dowsett	AGU24 Annual Meeting	2024.12.10
『転石』という用語について	伊藤 剛	第 16 回放散虫研究集会	2025.02.15
美濃帯の遠洋域深海堆積岩に記録された中期三疊紀ラディニアの湿潤化イベント	武藤 俊、尾上哲治、塩原 拓真	日本地質学会西日本支部令和 6 年度総会・第 175 回例会	2025.03.01

地質情報研究部門 地殻岩石研究グループ

Bimodal Miocene magmatism at the northeastern end of the Eurasian margin in response to horizontal propagating tear of	山崎 徹、Allen Schaen, Mauricio Ibanez-Mejia, Blair Schoene, 前田 仁一郎	EGU General Assembly 2024	2024.04.18
--	---	---------------------------	------------

slabs due to the simultaneous opening of the Japan and Kuril basins

A field geological study of the granite emplacement history: Example of the Kinpusan pluton, Kanto Mountains, central Japan

糸魚川-静岡構造線周辺に分布する深成岩類の角閃石圧力計による圧力推定と断層運動前の地質分布復元の検証

九州北西部の始新世～中新世テクトニクス：炭田古第三系の再検討の必要性

中新統三崎層群の小断層からみる四国南西端の中新世以降の地質構造発達史

碎屑性ジルコンの U-Pb 年代測定による下部～中部中新統田辺層群の堆積年代の制約

栃木県鹿沼市北西部、古第三紀カルデラ埋積堆積物の再検討

野外観察から制約される花崗岩体の成長過程と冷却履歴：金峰山岩体の例

広域变成岩と接触变成岩を対象とした岩石試料内の石墨化度不均質性と炭質物ラマン温度計における必要測定数

炭質物ラマンスペクトルから岩石の最高被熱温度を推定するための自動ピーク分離コードの紹介と使用者への実践的な助言

領家コンプレックスにおけるざくろ石累帯構造とパルス的変成作用の進行

Use of contact metamorphic aureoles to estimate magma flux

西南日本における白亜紀フレアアップの発生要因

Conjunction of sub-oceanic and sub-arc mantle peridotites: Revisiting the Uenzaru peridotite complex in the northern Hidaka metamorphic belt, Hokkaido, Japan

十和田火山八戸噴火のマグマプロセス

Cooling history of pluton with evident multiple internal contacts constrained by field anatomy of the Kinpusan pluton, central Japan

Petrological characteristics of lower crust-upper mantle rocks; The reality and

村上 大知、山岡 健、森 宏

Japan Geoscience Union Meeting
2024

2024.05.30

延原 香穂、上野 真杜、森 宏、山岡 健、常盤 哲也、永治 方敬

Japan Geoscience Union Meeting
2024

2024.05.31

牛丸 健太郎

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.08

羽地 俊樹、安邊 啓明

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.09

安邊 啓明、星 幸、羽地 俊樹、佐藤 活志、仁木 創太、平田 岳史、岩野 英樹、檀原 徹

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.09

佐藤 大介

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.09

山岡 健、村上 大知、森 宏、諸星 晓之

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.09

森 宏、土肥 陽菜、山岡 健、小澤 和浩、常盤 哲也

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.09

金木 俊也、纒纒 佑衣、青矢 瞳月、中村 佳博、Wallis Simon、志村 侑亮、山岡 健

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.10

宮崎 一博、林 里沙、池田 剛、中村 佳博、長田 充弘

日本地質学会第 130 年学術大会

2024.09.10

山岡 健、ウォリス サイモン、三宅 明、Catherine Annen

一般社団法人日本鉱物科学会

2024 年年会

山岡 健、諸星 晓之、佐藤 大介、三國 和音

一般社団法人日本鉱物科学会

2024 年年会

山崎 徹、下田 玄

7th Orogenic Lherzolite Meeting

2024.10.02

伊藤 ひなた、栗谷 豪、工藤 崇

日本火山学会 2024 年度秋季大会

2024.10.17

山岡 健、村上 大知、森 宏、諸星 晓之、延原 香穂

AGU 2024

2024.12.10

山崎 徹

Natural Hydrogen Workshop in Japan

2025.02.14

distribution of geologic hydrogen sources in Japan

鳥取層群中に新たに見つかった魚類化石産出層のジルコン U-Pb 年代(予報)

Ignimbrite flare-up in Late Cretaceous to Paleocene Japan driven by hot mantle inflow

菅森 義晃、田邊 佳紀、羽地 俊樹

山岡 健、諸星 曜之、佐藤 大介、三國 和音

日本地質学会西南日本支部令和 6 年度総会・第 175 回例会

2025.03.01

変成岩などシンポジウム

2025.03.12

地質情報研究部門 シームレス地質情報研究グループ

東北日本ペルム紀-前期白亜紀付加体碎屑性ジルコンの複合化学分析による花崗岩バソリス形成・消滅史の解明

GIS-based cataclinal and anaclinal mapping for slope hazard risk assessment

Landslide Susceptibility Analysis and Mapping in Northern Kyushu Area Using Slope Hazard History and Geological Information

地質区分と斜面傾斜方向に基づく 2024 年能登半島地震で発生した斜面崩壊の解析

静岡県北西部渋川地域の御荷鉢超苦鉄質岩体と三波川帯泥質片岩の構造関係

2024 年能登半島地震における斜面崩壊と流れ盤・受け盤との関係

Landslide Susceptibility Analysis and Mapping in Northern Kyushu Area Using Slope Hazard History and Geological Information

Geological investigation of slope failures in northern Kyushu induced by heavy rainfall in June 2023

中部九州阿蘇火砕流台地上の未固結火山灰被覆層の層厚分布と特性—未固結火山灰堆積物の斜面崩壊リスク評価のための指標—

鉱物の肉眼鑑定

根田茂帶綱取ユニットにおける碎屑性ジルコン複合化学分析にもとづく付加体形成史と前期-中期古生代アジア大陸東縁部火成活動の解明

三重県志摩半島の黒瀬川帯における後期ペルム紀付加体の認定

地すべりの要因の一つとしての粘土質土壤の摩擦特性

馬場 日和子、青木 翔吾、福山 蘭子、昆 慶明、内野 隆之

川畠 大作、巖谷 敏光

川畠 大作、宮地 良典、阿部 朋弥、斎藤 真、宮川 歩夢、水落 裕樹、井柳 卓也、小林 央宜、大石 博之、内村 公大

阿部 朋弥、細井 淳、阪口 圭一、川畠 大作

片桐 星来

川畠 大作、阿部 朋弥、巖谷 敏光、宮地 良典

川畠 大作、宮地 良典、阿部 朋弥、斎藤 真、井柳 卓也、小林 央宜、大石 博之、内村 公大、水落 裕樹、宮川 歩夢

阿部 朋弥、斎藤 真、星住 英夫、宮地 良典、川畠 大作、村岡 やよい、阪口 圭一、土志田 正二、楠本 岳志

下司 信夫、星住 英夫、宮縁 育夫、川畠 大作

坂野 靖行

青木 翔吾、中野 竜、内野 隆之、福山 蘭子

内野 隆之

大森 涼生、高橋 美紀、星住 英夫、宮川 歩夢、阪口 圭一、阿部 朋弥、大熊 茂雄、川畠 大作、宮地 良典、上原 真一

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.26

日本地球惑星科学連合

2024.05.27

日本地球惑星科学連合

2024.05.27

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.28

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.30

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.05.31

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.09.08

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.08

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.08

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.09

東北日本 ペルム紀-ジュラ紀付加体における碎屑性ジルコン U-Pb 年代・微量元素測定によるアジア大陸東縁部花崗岩バシリス形成・消滅史の検討

EPMA によるゼノタイムの定量分析

鉱物の肉眼鑑定

阿蘇火山中岳南麓斜面でのテフラ層序(序報)

噴出物層序と物質科学的特徴に基づく桜島薩摩噴火の推移

霧島火山、御池軽石噴火の推移に着目した地質学的研究

2023 年 7 月の梅雨前線豪雨に伴う大分県日田市の新第三紀火山岩地域の斜面崩壊

斜面災害リスク評価のための地質情報整備への取り組み

地すべりハザードマッピングにつながる地質情報

阿蘇火山と火碎流

中部九州阿蘇火碎流台地上の未固結火山灰被覆層の層厚分布と特性 -未固結火山灰堆積物の斜面崩壊リスク評価のための指標-

馬場 日和子、福山 薫子、青木 翔吾、内野 隆之、昆 慶明

坂野 靖行

坂野 靖行

星住 英夫、下司 信夫、宮縁 育夫

木尾 竜也、下司 信夫、西原 歩、成尾 英仁、宮縁 育夫

木尾 竜也、下司 信夫、成尾 英仁、西原 歩、宮縁 育夫

佐伯 拓馬、宮縁 育夫、木戸 道男、星住 英夫

川畠 大作、宮地 良典

川畠 大作

星住 英夫

下司 信夫、星住 英夫、宮縁 育夫、川畠 大作

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.10

一般社団法人日本鉱物科学会

2024.09.14

ジオ・スクール「第 6 回 鉱物肉眼鑑定研修」

2024.10.02

日本火山学会

2024.10.16

日本火山学会 2024 年度秋季大会

2024.10.16

日本火山学会 2024 年度秋季大会

2024.10.16

日本火山学会

2024.10.17

第 41 回地質調査総合センターシンポジウム

2024.10.25

第 41 回地質調査総合センターシンポジウム

2024.10.25

熊本城復興シンポジウム「熊本城と地形・地質」

2024.12.15

第 43 回 地質調査総合センターシンポジウム

2024.12.20

地質情報研究部門 情報地質研究グループ

Microtremor array method with small arrays for shallow-and-dense survey

長 郁夫

6th Asia Pacific meeting on NSGE

2024.05.12

首都圏の台地を構成する地層の層相変化に伴う地盤震動特性の変化

中澤 努、長 郁夫、野々垣 進

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.30

3 次元地質モデルを用いた都市域の地質情報整備

野々垣 進

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.30

Shallow microtremor array survey for landslide risk assessment (Part 2): Dense survey on the region with pyroclastic flow deposits to the east of the Aso caldera

長 郁夫、米岡 佳弥、川畠 大作、宮地 良典、星住 英夫、下司 信夫、山田 雅行

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.31

千葉県中北部、八街 B-1 コアにおける下総層群敷層の指標テフラ Yb1 と Kkt

中里 裕臣

日本第四紀学会 2024 大会

2024.08.30

ボーリングデータの地層対比処理の自動化に向けた機械学習アルゴリズムの検討

野々垣 進、根本 達也

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.09

ボーリングデータを用いた埼玉県南東部の 3 次元地質地盤図整備

野々垣 進、米岡 佳弥、中澤 努、小松原 純子

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.09

首都圏の台地を構成する MIS 5e-5a 堆積物の層相変化に伴う地盤震動特性の変化

都市域の3次元地質地盤図:埼玉県南東部における更新統下総層群の層序と地質構造

関東平野中央部 GS2012-OMY 孔コアの中・後期更新世テフラ層序

中新統北設亜層群に貫入する砂岩岩脈の産状と碎屑性ジルコン U-Pb 年代に基づく砂岩岩脈の供給砂岩層の解明

国産建築石材のカタログ作成に向けた黄色系石灰岩石材の組織観察と非破壊化学分析

ハンドヘルド蛍光X線分析(XRF)による国産斑レイ岩石材の非破壊同定の可能性

小アレイを用いた浅部地盤の微動アレイ探査:九州地域における硬質地盤の事例

3D urban geological information development for resilient society

小アレイを用いた浅部地盤の微動アレイ探査—九州地域における硬質地盤の事例—

中澤 努、長 郁夫、野々垣 進

米岡 佳弥、中澤 努、野々垣 進、坂田 健太郎、中里 裕臣

中里 裕臣、米岡 佳弥、坂田 健太郎、中澤 努、吉見 雅行

藪田 桜子、竹内 誠、淺原 良浩、李琪

乾 瞳子、中澤 努、西本 昌司、平賀 あまな

西本 昌司、乾 瞳子、中澤 努、平賀 あまな、山下 浩之

長 郁夫、米岡 佳弥、川畑 大作、宮地 良典

野々垣 進

長 郁夫、米岡 佳弥、川畑 大作、宮地 良典

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.09

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.09

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.09

日本地質学会 第 131 年学術大会

2024.09.09

日本地質学会第 131 年学術大会

2024.09.09

日本地質学会 第 131 年学術大会

2024.09.10

日本地震学会 2024 年度秋季大会

2024.10.22

GIS-IDEAS 2024

2024.12.11

第 43 回地質調査総合センター・シ・ンポジウム

2024.12.20

地質情報研究部門 リモートセンシング研究グループ

HAYABUSA2 THRUSTER PLUME DISTURBANCES ON RYUGU: IMPLICATION FOR OSIRIS-APEX

Spectral characterization of solar PVs in hyper-spectral data and the prospect of differentiating PV materials in satellite imagery

Fresh materials from a CI chondrite parent body illuminate terrestrial weathering of reflectance spectra of meteorites

地球近傍小惑星リュウグウ表面岩塊サイズ分布の時間進化

月のクレータ内壁斜面における岩塊密集領域の形成モデル

月面上の火碎堆積物領域におけるチタン鉄鉱及びガラスに富む物質の層序関係

坂谷 尚哉、亀田 真吾、K. Kitsunai、菊地 紘、菊地 翔太、武井 悠人、三井 裕也、神山 徹、諸田 智克、澤田 弘崇、本田 理恵、長 勇一郎、早川 雅彦、本田 親寿、松岡 萌、他 15 名

Apophis T-5 Years

2024.04.22

島田 将貴、竹内 渉、水落 裕樹

International Symposium on Remote Sensing 2024

2024.04.25

天野 香菜、中村 智樹、松岡 萌

Earth and Planets Origin and Evolution Workshops 2024

2024.05.16

愛敬 雄太、諸田 智克、杉田 精司、長 勇一郎、道上 達弘、本田 理恵、巽 瑛理、坂谷 尚哉、亀田真吾、山田 学、横田 康弘、松岡 萌、本田 親寿、神山 徹、鈴木 秀彦、早川 雅彦、吉岡 和夫、小川 和律、澤田 弘崇

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.26

池田 あやめ、熊谷 博之

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.27

山本 聰、松岡 萌、長岡 央、大竹 真紀子

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.27

月表層におけるイルメナイト分布解明に向けたイルメナイトの室内反射分光分析

構造化地質図データを用いた地すべり発生の統計力学的予測

Spectral evolutions of primitive asteroids inferred from remote sensing and sample analyses of Ryugu and Bennu

TERRAIN MAP OF ASTEROID RYUGU BY MOSAIC COMPOSITING

斜面災害リスク評価のためのスペクトルデータによる露頭変成鉱物・粘土鉱物の分布把握手法研究への取り組み

Slope disaster detection and triggering factor analysis via integrated use of time-series optical and SAR satellite data in Kyushu Island, Japan

ハイペーススペクトルデータを活用した太陽光パネル種類判別

DEVELOPMENT OF ASSURED INFORMATION EXTRACTION METHOD USING LOWER APPROXIMATION OF ROUGH SET

PRELIMINARY RADIOMETRIC PERFORMANCE EVALUATION OF ISS HISUI USING SATELLITE-BASED AND GROUND-BASED DATA

IR SPECTRA OF RYUGU'S ANHYDROUS INGREDIENTS COMPARED WITH PRIMITIVE DUST FROM THE OUTER SOLAR SYSTEM (series I)

NON-DESTRUCTIVE ADVANCED CURATION OF PARTICLES AND AGGREGATES: CASE STUDY OF TARDÀ AND TAGISH LAKE METEORITES

Investigating the spectral variations in four solar photovoltaic types using spaceborne and in-situ hyperspectral data

松岡 萌、山本 聰

宮崎 一博、水落 裕樹

湯本 航生、神山 徹、Dathon Golish, Bashar Rizk, Daniella DellaGiustina, Julia de Leon, Humberto Campins, Javier Licandro, Marcel Popescu, Juan Rizos、松岡 萌、Dante Lauretta、他 26 名

本田 和広、巽 瑛理、横田 康弘、神山 徹、松岡 萌、他 17 名

山本 聰、水落 裕樹、松岡 萌、阪口 圭一、土田 聰、池田 あやめ

水落 裕樹、松岡 萌、山本 聰、宮崎 一博、阿部 朋弥、星住 英夫、川畑 大作、岩男 弘毅、宮地 良典

島田 将貴、竹内 渉、水落 裕樹

石井 順恵、須崎 純一、木下 嗣基、岩男 弘毅

山本 浩万、土田 聰

Rosario Brunetto、中村 智樹、Cateline Lantz、福田 佳乃、Alice Aleon-Toppani、Z. Dionnet、D. Baklouti、F. Borondics、Z. Djouadi、Stefano Rubino、天野 香菜、松岡 萌、松本 恵、藤岡 悠理、森田 朋代、菊入 瑞葉、加川 瑛一、Ralph Milliken、塙本 尚義、野口 高明、岡崎 隆司、薮田 ひかる、奈良岡 浩、坂本 佳奈子、橘 省吾、渡邊 誠一郎、津田 雄一

深井 稔汰、石崎 拓也、金丸 礼、榎戸 祐馬、松岡 萌、小野寺 圭祐、川村 太一、田中 智、矢田 透、岡田 達明、安部 正真、臼井 寛裕

島田 将貴、水落 裕樹、竹内 渉

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

日本惑星科学連合 2024 年大会

日本リモートセンシング学会 第 76 回(令和 6 年度春季)学術講演会開催

2024 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium

2024 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium

Annual Meetings of the Meteoritical Society

the 86th annual meeting of The Meteoritical Society

ASTER Sience Team Meeting

2024.05.27

2024.05.27

2024.05.28

2024.05.31

2024.05.31

2024.05.31

2024.06.05

2024.07.07

2024.07.08

2024.07.30

2024.08.02

2024.09.10

Recent geological disaster monitoring activities in AIST, GSJ using multiple time-series satellite data	<u>水落 裕樹</u> 、 <u>松岡 萌</u>	ASTER Science Team Meeting	2024.09.10
Onboard Calibration Status 2024	<u>山本 聰</u>	53rd ASTER Science Team Meeting	2024.09.10
Investigating reflectance spectra to link remote-sensed data with lab-measured data: cases of asteroid (162173) Ryugu and the Moon	<u>松岡 萌</u>	Europalet Science Congress 2024	2024.09.12
LINKING LABORATORY AND REMOTE SENSING INVESTIGATIONS: GRAIN SIZE AND MINERAL MIXING STUDIES AS PIVOTAL TOOLS TO INTERPRET SOLAR SYSTEM EXPLORATION	Giovanni Poggiali, Antonin Wargnier, L. Fossi, S. Iannini Lelarge, J. Beccarelli, John Brucato, Antonella Barucci, M. Pajola, M. Masotta, <u>松岡 萌</u> , Pierre Beck, 中村 智樹, Merlin Frederic, Sonia Fornasier, Alain Doressoundiram, T. Goutier, G. David	Europalet Science Congress 2024	2024.09.12
Study on the possibility of comet observation using ONC-W2 camera during the cruising phase of Hayabusa2#	横田 康弘, 神山 徹, 諸田 智克, 坂谷 尚哉, 杉田 精司, 山田 学, 異 瑛理, <u>松岡 萌</u> , 早川 雅彦, 湯本 航生, 河北 秀世, 新中 善晴, 本田 理恵, 本田 親寿, 長 勇一郎, 亀田 真吾, 鈴木 秀彦, 吉岡 和夫, 澤田 弘崇, 小川 和律	Europalet Science Congress 2024	2024.09.13
はやぶさ2# 広角カメラ ONC-W2 による彗星 C/2023 A3 の観測速報	横田 康弘, 神山 徹, 諸田 智克, 坂谷 尚哉, 杉田 精司, 山田 学, 異 瑛理, <u>松岡 萌</u> , 早川 雅彦, 湯本 航生, 河北 秀世, 新中 善晴, 本田 親寿, 長 勇一郎, 亀田 真吾, 鈴木 秀彦, 吉岡 和夫, 澤田 弘崇, 小川 和律	日本惑星科学会秋季講演会	2024.09.24
小惑星リュウグウにおける岩塊表面の小クレーター解析にもとづく岩塊の衝突破壊強度の推定	愛敬 雄太, 諸田 智克, 杉田 精司, 長 勇一郎, 道上 達弘, 本田 理恵, 異 瑛理, 坂谷 尚哉, 亀田 真吾, 山田 学, 横田 康弘, <u>松岡 萌</u> , 本田 親寿, 神山 徹, 鈴木 秀彦, 早川 雅彦, 吉岡 和夫, 小川 和律, 澤田 弘崇	日本惑星科学会秋季講演会	2024.09.24
月クレータにおける岩塊分布と組成の関係	<u>池田 あやめ</u> 、 <u>山本 聰</u>	日本惑星科学会 2024 年秋季大会	2024.09.25
北部九州地域における時系列衛星画像を用いた斜面災害観測と素因・誘因分析	<u>水落 裕樹</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、 <u>山本 聰</u> 、 <u>宮崎 一博</u> 、 <u>阿部 朋弥</u> 、 <u>星住 英夫</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>岩男 弘毅</u> 、 <u>宮地 良典</u>	第 41 回 GSJ シンポジウム	2024.10.25
火星衛星探査計画 MMX のミッション運用検討状況	池田 人, 中村 智樹, 竹尾 洋介, 松本 晃治, 神山 徹, Eric Sawyer, 千秋博紀, 大木 優介, 菊地 翔太, Nancy Chabot, David Lawrence, 三橋 政次, 小郷 原一智, Simon Tardivel, Antonella Barucci, <u>松岡 萌</u> , Patrick	第 68 回宇宙科学技術連合講演会	2024.11.07

Spectral evolution of Ryugu and Bennu inferred from variations in visible spectra of returned samples	Peplowski, Stephan Ulamec, Patrick Michel, Sonia Fornasier, 他 23 名 湯本 航生、坂谷 尚哉、巽 瑛理、横田 康弘、長 勇一郎、諸田 智克、神山 徹、亀田 真吾、鈴木 秀彦、山田学、本田 親寿、 <u>松岡 萌</u> 、早川 雅彦、澤田 弘崇、小川 和律、山本 幸生、杉田 精司、他 18 名	はやぶさ 2024 シンポジウム	2024.11.13
Terra CEMs による ASTER VNIR における代替校正実験および大気補正への影響に関する研究	<u>山本 浩万</u> 、 <u>土田 聰</u> 、Jeffrey Czapla-Myers, Louis Gonzalez	一般社団法人日本リモートセンシング学会	2024.11.26
北部九州地域における時系列衛星画像を用いた斜面災害観測と素因・誘因分析	<u>水落 裕樹</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、 <u>山本 聰</u> 、 <u>宮崎 一博</u> 、 <u>阿部 朋弥</u> 、 <u>星住 英夫</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>岩男 弘毅</u> 、 <u>宮地 良典</u>	第 43 回地質調査総合センターシンポジウム	2024.12.20
北部九州地域における時系列衛星画像を用いた斜面災害発生前後におけるNDVI 解析	<u>松岡 萌</u> 、 <u>水落 裕樹</u> 、 <u>山本 聰</u> 、 <u>池田 あやめ</u>	第 43 回 地質調査総合センターシンポジウム	2024.12.20
北部九州地域における時系列衛星画像を用いた斜面災害観測と素因・誘因分析	<u>水落 裕樹</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、 <u>山本 聰</u> 、 <u>宮崎 一博</u> 、 <u>阿部 朋弥</u> 、 <u>星住 英夫</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>岩男 弘毅</u> 、 <u>宮地 良典</u>	第 43 回 GSJ シンポジウム	2024.12.20
Japanese sample return missions to explore small bodies	<u>松岡 萌</u>	Itokawa and the Dawn of Asteroidal Sample Return Workshop	2025.01.28
Feasibility study toward creation of InSAR-derived VML map in Japan	<u>水落 裕樹</u> 、 <u>田村 亨</u>	Workshop on the GNS-GSJ collaboration for sea-level databases	2025.02.25
Analysis of the Relationship Between Composition and Morphology of Boulders on the Moon Using Remote Sensing Data	<u>池田 あやめ</u> 、 <u>山本 聰</u>	The 56th Lunar and Planetary Science Conference	2025.03.11
ORIGIN OF OLIVINE BEARING ROCK OBSERVED AT THE SLIM LANDING SITE ON THE MOON	大竹 真紀子、佐伯 和人、仲内 悠祐、長岡 央、宮崎 理沙、西野 真木、 <u>山本 聰</u> 、佐藤 広幸、本田 親寿、石原 吉明、西谷 隆介、梶谷 伊織、横田 康弘	The 56th Lunar Planetary Science Conference	2025.03.12
衛星データを用いた九州南部の植生変化と斜面災害リスクについての検討	<u>中村 涼</u> 、 <u>水落 裕樹</u> 、 <u>松岡 萌</u>	日本森林学会	2025.03.20
月周回衛星画像から探る表層進化過程	<u>池田 あやめ</u>	第 16 回月地殻研究会	2025.03.26
月のマントル物質 リモートセンシングデータからの理解	<u>山本 聰</u>	第 16 回月地殻研究会	2025.03.27
地質情報研究部門 海洋地質研究グループ			
能登半島周辺海域における活断層分布	<u>井上 卓彦</u> 、岡村 行信、 <u>佐藤 智之</u> 、 <u>大上 隆史</u>	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.25
沖縄トラフ南部での海洋地球科学総合観測:白鳳丸 KH-23-11 航海速報	大坪 誠、木下 正高、 <u>三澤 文慶</u> 、 <u>高下 裕章</u> 、山本 朱音、西本 ミシェル桃子、KH-23-11 乗船研究者一同	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.26

August 2021 eruption of Fukutoku-Oka-no-Ba Volcano, Izu-Bonin Arc: Understanding the eruption and tephra dispersal mechanisms from rapid response seafloor surveys	Kenichiro Tani, Takashi Sano, 石塚治、及川輝樹、鈴木克明、片山肇、Hiroki Minami, Masashi NAGAI, Taketo Shimano, Michihiko Nakamura, Taisei Ukita, Fukashi Maeno, Tatsuki Mizuno, Naoto Jimi, Iona McIntosh, Fumihiro Ikegami	Jpgu2024	2024.05.26
能登半島沿岸における海水中の音響異常	大塚 宏徳、野 徹雄、三澤 文慶、小野 誠太郎、田村 千織、鈴木 由布、山川 登、鹿児島 渉悟、張 効、千手智春、山口 飛鳥、高下 裕章、朴 進午	日本地球惑星科学連合大会	2024.05.28
Spatial variations in rift structure and associated seismicity in the southern Okinawa Trough	新井 隆太、三澤 文慶、大坪 誠、山本 朱音	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.29
沖縄トラフ南西部の熱流量分布(速報)	木下 正高、大坪 誠、三澤 文慶	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.29
琉球弧北部トカラ列島東方海域の音響層序及び海底地質構造	石野 沙季、石塚 治、針金 由美子、三澤 文慶、有元 純、井上 卓彦、高下 裕章、谷 健一郎	日本地球 惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.29
Submarine geological structures in the southern part of the Okinawa Trough: Preliminary results of the KH-23-11 cruise	三澤 文慶、新井 隆太、山本 朱音、亀尾 桂、戸田 亮二、井和丸 光、大坪 誠	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.29
August 2021 eruption of Fukutoku-Oka-no-Ba Volcano, Izu-Bonin Arc: Understanding the eruption and tephra dispersal mechanisms from rapid response seafloor surveys	谷 健一郎、佐野 貴司、石塚 治、及川 輝樹、鈴木 克明、片山 肇、南 宏樹、長井 雅史、嶋野 岳人、中村 美千彦、浮田 泰成、前野 深、水野 樹、自見 直人、McIntosh Iona、池上 郁彦	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.31
2024 年能登半島地震に関わる海域断層の分布と変位	井上 卓彦	令和6年能登半島地震 7ヶ月報告会	2024.07.30
2024 年能登半島地震に関わる海域断層の分布と変位	井上 卓彦	令和6年能登半島地震 7ヶ月報告会	2024.07.30
伊豆・小笠原弧福徳岡ノ場火山 2021 年 8 月噴火に伴う噴出物の運搬・堆積機構	谷 健一郎、佐野 貴司、石塚 治、及川 輝樹、鈴木 克明、片山 肇、南 宏樹、長井 雅史、嶋野 岳人、中村 美千彦、浮田 泰成、前野 深、水野 樹、マツキントッシュ アイオナ、自見 直人	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.09
地震波探査から見た沖縄トラフの地殻構造と地震活動	新井 隆太、大坪 誠、三澤 文慶、木下 正高、石野 沙季、山本 朱音、KH-21-3 および KH23-11 乗船研究者	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.09
音響層序に基づくトカラ列島東方海域の地質構造発達史	石野 沙季、石塚 治、針金 由美子、三澤 文慶、有元 純、井上 卓彦、高下 裕章、谷 健一郎	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.09
沖縄トラフ南部、八重山海底地溝・与那国海底地溝での地質構造および地震活動	山本 朱音、大坪 誠、三澤 文慶、新井 隆太	日本地質学会大 131 学術大会	2024.09.09

沖縄トラフ南部・石垣グラーべンでの潜航調査 -新青丸 KS24-1 航海結果(速報)-	三澤 文慶、石塚 治、南 宏樹、木下 正高、古山 精史郎、森 光貴、松永 都和、石垣 秀雄、井和丸 光、 <u>高下 裕章</u>	日本地質学会大 131 学術大会	2024.09.09
伊豆大島火山沿岸域の火山活動と噴出物	石塚 治、 <u>井上 卓彦</u> 、 <u>有元 純</u> 、川邊 穎久、及川 輝樹、前野 深	日本地質学会年会	2024.09.09
Distribution and activities of submarine active faults along the northern coast of Noto Peninsula	<u>井上 卓彦</u> 、岡村 行信、 <u>佐藤 智之</u> 、大上 隆史、 <u>有元 純</u>	The 14th Joint Meeting of the UJNR Panel on Earthquake Research	2024.09.25
能登半島東方沖での反射法地震探査データから確認された海水中の強反射面	野 徹雄、大塚 宏徳、八田 真理子、千手 智晴、 <u>三澤 文慶</u> 、孫 岳、山川 登、呂 玉琪、朴 進午	日本地震学会 2024 年度秋季大会	2024.10.21
海洋地質データの利活用を促進するためのデータデジタル化と統合管理・表示システムの構築	<u>井上 卓彦</u> 、 <u>三澤 文慶</u> 、 <u>新井 和乃</u> 、 <u>片山 肇</u> 、 <u>佐藤 侑里</u> 、 <u>荒井 晃作</u>	第 41 回地質調査総合センターシンポジウム	2024.10.25
Activity Report 2023 of Geological Survey of Japan, AIST	<u>井上 卓彦</u> 、 <u>板木 拓也</u> 、森田 澄人	UJNR (United States and Japan Conference on the Development and Utilization of Natural Resources)	2025.01.15
2024 年能登半島地震震源域東部付近における Seismic oceanography 研究	野 徹雄、大塚 宏徳、 <u>八田 真理子</u> 、金子 仁、千手 智晴、 <u>三澤 文慶</u> 、孫 岳、山川 登、呂 玉琪、朴 進午	海と地球のシンポジウム 2024	2025.03.12
沖縄トラフ南部・石垣グラーべンでの潜航調査 - 新青丸 KS-24-1 航海結果(速報) -	<u>三澤 文慶</u> 、石塚 治、南 宏樹、木下 正高、古山 精史郎、森 光貴、松永 都和、石垣 秀雄、井和丸 光、 <u>高下 裕章</u>	海と地球のシンポジウム 2024	2025.03.12
珪藻化石カウントにおける物体検出技術の有用性:化石の保存状態と形態的多様性が検出精度に与える影響	石野 沙季、 <u>板木 拓也</u> 、福田 素久	2024 年度 MRC 研究発表会	2025.03.14

地質情報研究部門 地球変動史研究グループ

Neoichnology on marine deposits – beaches, shorefaces, and deep-sea floors	<u>清家 弘治</u>	ICHNIA 2024	2024.04.17
堆積構造と 210Pb・137Cs 年代による伊勢湾・三河湾の過去 100 年間の海底環境変遷	<u>天野 敦子</u> 、 <u>清家 弘治</u>	日本堆積学会 2024 年熊本大会	2024.04.20
デジタルロックモデルを用いた弱固結砂層の性状評価および粒子形状の影響	飯嶋 耕崇、高林 克百、荷福 洋、綿貫 峻介、小林 佑輝、 <u>天野 敦子</u> 、 <u>田村 亨</u> 、伊藤 慎	日本堆積学会 2024 年熊本大会	2024.04.21
Establishment of standard methods for evaluation of microplastics in coastal to deep-sea sediments around Japan	<u>天野 敦子</u>	First Research Coordination Meeting on Optimizing Nuclear Techniques to Assess Microplastic Pollution in Coastal Areas	2024.05.06
地球史における地磁気変動と宇宙線と生命活動	<u>小田 啓邦</u>	【研究会】「宇宙線学」の共創: 宇宙線でつなぐ天体と生命の共進化の多角的研究	2024.05.10

小郡断層海域延長部における活断層調査	大上 隆史、佐藤 智之、太田 耕輔、根本 夏林、Lloyd Sabrina、横山 由香、古山 精史朗、武田 伸勝、高橋恭平、佐藤 誉司、細矢 卓志、中瀬千遙、丸山 正、宮下 由香里、藤原治	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.26
深海熱水鉱床サイト周辺における海底堆積物中の生物活動評価	清家 弘治、山岡 香子、井口 亮、田中 美菜子、福 原達雄、加藤 広大、山本 祐也、石田 眥之	JpGU2024 年大会	2024.05.26
礁性石灰岩を構成する生物種の堆積プロセスと磁気特性	福興 直人、小田 啓邦、穴井 千里、藤田 和彥、John A Tarduno	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.27
福岡県博多湾の海底表層堆積物中のマイクロプラスチックの分布と特性	天野 敦子、板木 拓也、宇智田 奈津代、田中 厚資、鈴木 剛	日本地球惑星連合 2024 年大会	2024.05.27
磁気顕微鏡による古地磁気学・岩石磁気学の展開と将来	小田 啓邦、河合 淳、福興 直人、谷元 瞭太、与謝野 勲、河端 美樹	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.27
SQUID 顕微鏡による微小領域磁気分析を利用した二次磁化キャリア推定の試み	谷元 瞭太、小田 啓邦、岡田 誠	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.27
三軸試験機への直接剪断機構の導入:珪質堆積物の slide-hold-slide テストの例	奥田 花也、吉岡 純平	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.27
Preliminary Analysis of the Tongatapu Island Groundwater System Using Radiocarbon Dating and Hydro-chemical Data	福興 直人、横山 祐典、Geoffrey Clark	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.28
Sea Level and Paleoenvironmental Reconstruction of the Last 3000 Years in the Kingdom of Tonga, South Pacific	福興 直人、横山 祐典、Geoffrey Clark	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.28
Ventilation Changes in the Northwestern Pacific During the Glacial Period: Preliminary Results of the Core MR23-05 Leg 2 SMK3-PC	Wei-Cheng Hsiung、Yusuke Okazaki、Kana Nagashima、Takuya Sagawa、Takuto Kasuya、天野 敦子、Takayuki Uchida	日本地球惑星連合 2024 年大会	2024.05.28
Preliminary XRF scanning results of three marine sediment cores off Shimokita in the northwest Pacific from MR23-05 Leg 2	Takuto Kasuya、Kana Nagashima、Yusuke Okazaki、Takuya Sagawa、Wei-Cheng Hsiung、Takayuki Uchida、天野 敦子	日本地球惑星連合 2024 年大会	2024.05.28
Environmental changes during the Holocene based on element properties measured by XRF core scanner off the mouth of Kinokawa River in Kiisuido Strait, Southwest Japan.	天野 敦子	日本地球惑星連合 2024 年大会	2024.05.28
2024 年能登半島地震により形成された海底地震断層の水中ドローンによる観察	山口 飛鳥、福地 里菜、小野 誠太郎、大塚 宏徳、吉岡 純平、田村 千織、亀尾 桂、沖野 郷子、朴 進午	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.28
堆積物からみる富山深海長谷沿いの令和 6 年能登半島地震と過去の大規模地震の記録の可能性	福地 里菜、山口 飛鳥、大塚 進平、張 効、臼井 洋一、松岡 篤、吉岡 純平、佐川 拓也、村山 雅史、田村 千	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.28

織、小野 誠太郎、沖野 郷子、朴 進 午、第 KH-24-E1 次航海乗船者一同 朴 進午、山口 飛鳥、亀尾 桂、田村 千織、石垣 秀雄、孫 岳、呂 玉琪、山 川 登、吉岡 純平、小野 誠太郎、 Zeng Yuning、三澤 文慶、野 徹雄、楠 本 聰、大塚 宏徳、松岡 篤、福地 里 菜、佐川 拓也、臼井 洋一、有川 太 郎、鹿児島 渉悟、張 劲、大塚 進平、 Haryanto Michael Julian、土岐 知弘、 前倉 昂尚、Zandvakili Zahra、小林 祐 大、千手 智晴、酒井 秋絵、堀内 穎 希、井和丸 光、佐藤 悠介、鈴木 由 布	日本地球惑星科学連合 2024 年大 会	2024.05.28
学術研究船「白鳳丸」による 2024 年能登半 島地震 (M7.6) の海洋地球科学総合調査		
リポジトリコア再解析プログラム (ReCoRD) : 中新世日本海の古気候と古海洋 (ReC23- 03)	関 有沙、多田 隆治、入野 智久、松 崎 賢治、吉岡 純平	日本地球惑星科学連合 2024 年大 会
Evidence for impact magnetization of young lunar glass	TARDUNO A. JOHN、Tinghong Zhou、 Cottrell Danielle Rory、小田 啓邦	日本地球惑星科学連合 2024 年大 会
日本地球惑星科学連合における学術出 版:PEPS 誌創刊前夜からの歩みと 将来の 可能性	小田 啓邦	日本地球惑星科学連合 2024 年大 会
中新世のケイ素循環における orbital スケ ール変動	吉岡 純平、黒田 潤一郎、板井 啓明	日本地球惑星科学連合 2024 年大 会
温室地球で形成された海底レアアース資 源:深層学習を用いた微化石観察からの示 唆	見邨 和英、北澤 堯大、中村 謙太 郎、安川 和孝、桑原 佑典、大田 隼 一郎、加藤 泰浩	Japan Geoscience Union Meeting 2024
海岸砂丘の発達が津波浸水へ与える影響 一高知県南国市を例に	谷川 晃一朗、田村 亨、小森 康太 郎、根来 湧輝	日本地球惑星科学連合 2024 年大 会
Changes in the ice sheet of the Wilkes subglacial basin and the high-latitude Southern Ocean during the Last Interglacial	飯塚 瞳	日本地球惑星科学連合
Anthropocene environmental change in the Singapore Strait: Insights from offshore sediments and benthic foraminifera	Yu Ting YAN、Abang M.S. Nugraha、澤 井 祐紀、嶋田 侑眞、田村 亨、 Benjamin P. Horton、Adam D. Switzer	AOGS 2024 21st Annual Meeting
南鳥島東方沖から採取された Mn 団塊の記 載および Os 同位体層序年代	野崎 達生、見邨 和英	資源地質学会第 73 回年会
福岡県博多湾における表層堆積物中のマ イクロプラスチックの空間分布	天野 敦子、板木 拓也、宇智田 奈津 代、田中 厚資、鈴木 剛	第 3 回環境化学物質合同大会
Radiolarian biostratigraphy of IODP 386	板木 拓也	IODP 386 post cruise meeting
Marine inundation by extreme waves during the last 3000 years at a coastal lake on the Pacific coast of central Japan	嶋田 侑眞、澤井 祐紀、松本 弹、谷 川 晃一朗、伊藤 一充、田村 亨、行 谷 佑一、宍倉 正展、藤野 滋弘	9th Global Energy and Water EXchanges Open Science Conference
房総にあるスゴイ地層「チバニアン」ってな に?	板木 拓也	日本技術士会 茨城県支部創立1 0周年記念大会

阿武隈川河口部に分布する放棄河道の堆積物とその形成年代	前田 優樹、堀 和明、 <u>田村 亨</u> 、石井 祐次、 <u>清家 弘治</u> 、中西 利典、洪 完	日本第四紀学会 2024 年大会	2024.08.30
石英および珪質堆積物の摩擦強度回復特性の解明に向けた直接剪断型摩擦実験機構の構築	奥田 花也、 <u>吉岡 純平</u>	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.08
令和 6 年能登半島地震により形成された海底地震断層露頭	山口 飛鳥、福地 里菜、小野 誠太郎、大塚 宏徳、 <u>吉岡 純平</u> 、田村 千織、亀尾 桂、沖野 郷子、朴 進午	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.09
新潟県佐渡島中新統中山層から復元された orbital スケールケイ素循環変動	吉岡 純平、黒田 潤一郎、板井 啓明	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.10
伊勢湾における後期更新世と完新世の内湾貝形虫化石群集に基づく古環境と古生物地理	入月 俊明、 <u>天野 敦子</u>	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.10
紀伊水道における表層堆積物中のメソ・マクロプラスチック分布と堆積物特性との関係	<u>天野 敦子</u> 、児玉 信介、 <u>宮川 歩夢</u> 、 <u>板木 拓也</u>	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.10
深層学習を用いた AUV MBES データからの海底熱水シグナルの高精度検出手法の開発	玄田 貴之、 <u>見邨 和英</u> 、中村 謙太郎、中谷 武志、北田 数也、安川 和孝、加藤 泰浩	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.10
画像解析技術を用いたレアアース泥の粒度組成定量分析法の開発	伊地知 遼行、安川 和孝、中村 謙太郎、 <u>見邨 和英</u> 、大田 隼一郎、加藤 泰浩	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.10
南鳥島周辺海域の深海堆積物に見られる厚いレアアース濃集層の形成メカニズム	<u>見邨 和英</u> 、北澤 堯大、中村 謙太郎、安川 和孝、大田 隼一郎、桑原 佑典、加藤 泰浩	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.10
南大洋高緯度域における周極深層水 (CDW) の流入変動の指標開発と最終間氷期における CDW 流入変動の復元	<u>飯塚 瞳</u> 、 <u>板木 拓也</u> 、 <u>関 宰</u>	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.10
岩石磁力計:これまでと今後の展望	<u>小田 啓邦</u>	地磁気学・古地磁気学・岩石磁気夏の学校 2024	2024.09.13
珪藻分析を用いた北海道・春採湖の中世以降の津波にかかるる湖水環境の復元	<u>松野 佑香</u> 、香月 輝太、七山 太、中西 利典、深津 恵太、酒井 惠祐、 <u>福與 直人</u> 、 <u>小田 啓邦</u>	日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会 2024	2024.09.13
ケイ素安定同位体比およびゲルマニウム/ケイ素比の分析法整備と国内天然試料への応用	板井 啓明、 <u>吉岡 純平</u> 、田柳 紗英、古莊 翔基、周藤 俊雄、黒田 潤一郎	2024 年度 日本地球化学会 第 71 回年会	2024.09.18
地球惑星科学における磁気センシング技術:空中・海上・海中探査と微小領域分析の現状と将来可能性	<u>小田 啓邦</u>	日本磁気学会 第 48 回学術講演会	2024.09.27
A further source of Tokyo earthquakes and Pacific Ocean tsunamis inferred from an integrated data-model approach	Jessica Pilarczyk、澤井 祐紀、行谷 佑一、 <u>田村 亨</u> 、谷川 晃一朗、松本 弾、篠崎鉄哉、藤原 治、宍倉 正展、鳩田 侑眞、Tina Dura、Benjamin P. Horton、Andrew Parnell、Christopher H. Vane	IGCP 725 Forecasting Coastal Change Annual Meeting	2024.09.28
Residual luminescence signal and grain size of beach sand reveal longshore transport	<u>本間 海那</u> 、 <u>田村 亨</u> 、白井 正明	IGCP 725 "Forecasting Coastal Change" Second Annual Meeting	2024.09.29

beyond multiple headlands bounding pocket beaches

Sediment transport revealed by residual luminescence signals in the Kujukuri coast, eastern Japan

Architecture and chronology of beach-ridge deposits associated with seismic displacement along the Kuril Trench, northeastern Japan

Magnetostratigraphy, rock magnetic signatures and eolian dusts of reef limestones from Miyako-jima Island

Diatom-based lacustrine paleoenvironment reconstruction affected by tsunamis about the last 900 years in Lake Harutori, Hokkaido

Paleoenvironment and paleobiogeography based on fossil bay ostracods (minute Crustacea) from the Upper Pleistocene and Holocene sequences in Ise Bay, central Japan

Analysis of Tongatapu Island groundwater system using radiocarbon dating and hydrochemical data

地形と地下断面・粒度分布などの既存データを用いた広域な地質傾向を念頭に置いた局所リスク評価の必要性

令和 6 年能登半島地震による隆起と地下構造: 地震前後の反射断面から

Scanning SQUID microscope system for geological samples: Development of post-processing software on magnetic image data

ReCoRD: 「中新世日本海の古気候・古海洋」における XRF コアスキヤーデータの役割と可能性

スミアスライド画像を用いた岩相の自動判別技術の開発

最終間氷期における南極氷床変動

AUV MBES 画像からの新たな海底熱水活動の高精度検出手法の開発

Seafloor mineral resources for rare-earth elements formed in the early Eocene Hothouse ocean: Insights from deep

小森 康太郎、田村 亨、清家 弘治

根来 淳輝、田村 亨、澤井 祐紀、谷川 晃一朗、嶋田 侑眞、清家 弘治、小森 康太郎

小田 啓邦、穴井 千里、兼子 尚知、福興 直人、伊藤 孝

松野 佑香、香月 興太、七山 太、中西 利典、深津 恵太、酒井 恵祐、福興 直人、小田 啓邦

入月 俊明、天野 敦子

福興 直人、Geoffrey Clark、横山 祐典

佐藤 智之

佐藤 智之、岡村 行信、井上 卓彦、大上 隆史、有元 純

小田 啓邦、河合淳、河端 美樹、福興 直人、谷元 瞭太、与謝野 勲

関 有沙、多田 隆治、入野 智久、松崎 賢治、吉岡 純平

吉岡 純平、板木 拓也、見邨 和英、関 有沙

飯塚 瞳

玄田 貴之、見邨 和英、中村 謙太郎、中谷 武志、北田 数也、安川 和孝、加藤 泰浩

見邨 和英、北澤 堯大、中村 謙太郎、安川 和孝、桑原 佑典、大田 隼一郎、加藤 泰浩

IGCP 725 "Forecasting Coastal Change" Second Annual Meeting

2024.09.29

IGCP 725 "Forecasting Coastal Change" Second Annual Meeting

2024.09.30

THE 18th EAST EURASIA INTERNATIONAL WORKSHOP

2024.10.08

THE 18th EAST EURASIA INTERNATIONAL WORKSHOP

2024.10.08

The 18th East Eurasia International Workshop

2024.10.09

The 16th International Conference on Accelerator Mass Spectrometry

2024.10.23

海底地質災害と洋上風力発電

2024.11.14

海洋調査技術学会第 36 回研究成 果発表会

2024.11.20

地球電磁気・地球惑星圏学会 2024 年秋季年会

2024.11.25

第 10 回 地球環境史学会年会

2024.11.29

第 10 回 地球環境史学会年会

2024.11.29

地球環境史学会

2024.11.30

物理探査学会 第 151 回(2024 年度秋季)学術講演会

2024.12.04

AGU24 annual meeting

2024.12.12

learning-based microfossil fish teeth
observation

Active coupled carbon–silicon cycling in the sediments of the ocean’s deepest realm	Min Luo, Klaus Wallmann, Andrew Dale, Michael Strasser, Marta Torres, Natascha Riedinger, Christian Marz, Troy Rasbury, Rui Bao, <u>板木 拓也</u> , <u>池原 研</u> , Joel Johnson, Piero Bellanova, 中村 恒之, Duofu Chen	アメリカ地球物理学連合 2024 秋季大会	2024.12.13
IODP Expedition 403 で掘削された海洋堆積物コアから北極域の気候史を探る	<u>飯塚 瞳</u>	MRC (Micropaleontological Reference Center) 研究集会	2025.03.15
深層学習によるウォーターカラム画像からの海底熱水活動シグナルの自動検出	<u>見邨 和英</u> , 玄田 貴之, 中村 謙太郎, 中谷 武志, 北田 数也	第 31 回海洋工学シンポジウム	2025.03.18

地質情報研究部門 資源テクニクス研究グループ

Preliminary results of rock magnetic properties from oceanic core complexes in the Philippine Sea: Implication for magnetization structure of oceanic lithosphere	藤井 昌和, 小原 泰彦, <u>針金 由美子</u> , 山下 浩之, 沖野 郷子	Japan Geoscience Union Meeting 2024	2024.05.27
Propagation pattern of decollement in accretionary wedge with a weak layer: Insights from sandbox analogue experiments	<u>藤内 智士</u> , 橘 隆海, <u>高下 裕章</u>	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.28
能登半島での発震機構解を用いた間隙流体圧の時空間変化	山本 朱音, 大坪 誠, <u>高下 裕章</u> , 今西 和俊	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.28
Formation of spinifex-like textured olivine during antigorite dehydration: an experimental study at 200–700 MPa	中谷 貴之, <u>針金 由美子</u>	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.28
Propagation pattern of decollement in accretionary wedge with a weak layer: Insights from sandbox analogue experiments	<u>藤内 智士</u> , 橘 隆海, <u>高下 裕章</u>	日本地球惑星科学連合大会	2024.05.28
Deformation associated with compositional change of plagioclase in gabbroic rocks in Mado Megamullion, the Shikoku Basin, Philippine Sea	二村 康平, 道林 克禎, <u>針金 由美子</u> , 小原 泰彦	Japan Geoscience Union Meeting 2024	2024.05.28
フィリピン海四国海盆土佐メガマリオンカンラン岩の構造岩石学的特徴とその形成過程	井上 創, 道林 克禎, <u>針金 由美子</u> , 小原 泰彦	Japan Geoscience Union Meeting 2024	2024.05.28
Inception of Ridge–Ridge–Ridge Triple Junctions: Geomorphological Evidence and Tectonic Dynamics in the Early Back–Arc Extension of the Northern Okinawa Trough	<u>高下 裕章</u> , <u>佐藤 太一</u> , <u>有元 純</u> , 大坪 誠, <u>石塚 沙季</u> , <u>鈴木 克明</u> , 石塚治, <u>針金 由美子</u> , <u>三澤 文慶</u> , <u>井上 卓彦</u> , <u>山下 幹也</u> , 古山 精史朗, 横山由香, 南 宏樹, 田村 千織	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.29
Geophysical observations in the Southern Okinawa Trough: Preliminary reports from the Hakuho-maru KH-23-11 cruise	西本 桃子, <u>高下 裕章</u> , 田村 千織, 鈴木 由布, 大坪 誠, 木下 正高, KH-23-11 Shipboard Scientists	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.29
南大洋バルカントンスマーフーム断層における中央海嶺プロセスの変動- MOWALL-Vulcan	沖野 郷子, 石塚 治, 谷 健一郎, <u>針金 由美子</u> , <u>高下 裕章</u> , 周 錦煌	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.29

潮岬海底谷の潜航調査に基づく南海付加体発達史の更新と大地震セグメント境界の地質学的実態解明:「よこすか」YK23-10S 航海報告

Estimates of the temperature and melting conditions of the Conrad Rise upper mantle

Late Cretaceous triple junction trace and an extinct spreading ridge around Del Cano Rise, Conrad Rise, and Crozet Plateau in the southern Indian Ocean

The petrology and geochemistry of the high-Fo olivine-bearing mafic magma of the Conos de Licto, Northern Andean Volcanic Zone, Ecuador

The Fluctuation of Mid-Ocean Ridge Processes along the Vulcan Transform in the Southern Ocean – MOWALL–Vulcan

Geophysical observations in the Southern Okinawa Trough:Preliminary reports from the Hakuho–maru KH-23-11 cruise

潮岬海底谷の潜航調査に基づく南海付加体発達史の更新と大地震セグメント境界の地質学的実態解明:「よこすか」YK23-10S 航海報告

Inception of Ridge–Ridge–Ridge Triple Junctions: Geomorphological Evidence and Tectonic Dynamics in the Early Back–Arc Extension of the Northern Okinawa Trough

Preliminary report of KH-23-9 cruise: new datasets to understand the Southern Mariana region

Tectonics of the initial stage of the Shikoku Basin spreading

Olivine fabric development during ductile deformation of peridotite samples from the mid-Jurassic Vourinos ophiolite, Greece

山口 飛鳥、福地 里奈、濱田 洋平、
高下 裕章、川村 喜一郎、井尻 曜、
奥田 花也、浜橋 真理、照井 孝之
介、細川 貴弘、辰巳 寛二、芦 寿一
郎、笠谷 貴史、木下 正高、亀尾 浩
司、久保田 好美、辻 健、白石 和也、
木村 学

佐藤 暢、町田 嗣樹、Christine
MEYZEN、佐藤 太一、外田 智千、藤
井 昌和、野木 義史、Dan McKenzie

佐藤 太一、野木 義史、佐藤 暢、藤
井 昌和

Weller Derek、Conway Edward
Christopher、東宮 昭彦、岩橋 ぐるみ、
下司 信夫、針金 由美子

沖野 郷子、石塚 治、谷 健一郎、針
金 由美子、高下 裕章、Jinyu Zhou

西本 ミシェル 桃子、高下 裕章、田村
千織、鈴木 由布、大坪 誠、木下 正
高、KH-23-11 Shipboard Scientists

山口 飛鳥、福地 里奈、濱田 洋平、
高下 裕章、川村 喜一郎、井尻 曜、
奥田 花也、浜橋 真理、照井 孝之
介、細川 貴弘、辰巳 寛二、芦 寿一
郎、笠谷 貴史、木下 正高、亀尾 浩
司、久保田 好美、辻 健、白石 和也、
木村 学

高下 裕章、佐藤 太一、有元 純、大
坪 誠、石野 沙季、鈴木 克明、石塚
治、針金 由美子、三澤 文慶、井上
卓彦、山下 幹也、古山 精史朗、横山
由香、南 宏樹、田村 千織

小原 泰彦、針金 由美子、藤井 昌
和、秋澤 紀克、Basch Valentin、
Carlotta Ferrando、片山 郁夫、道林
克禎、小川 晟人、竹内 綾、竹内 誠、
田村 千織、富川 光、山下 浩之、渡
邊 傑

森口 堯明、沖野 郷子、小原 泰彦、
針金 由美子、股村 祐希

針金 由美子、森下 知晃、田村 明
弘、谷 健一郎、石塚 治、Annie
RASSIOS

日本地球惑星科学連合 2024 年
大会

2024.05.29

日本地球惑星科学連合 2024 年大
会

2024.05.29

日本地球惑星科学連合 2024 年大
会

2024.05.29

Japan Geoscience Union Meeting
2024

2024.05.29

Japan Geoscience Union Meeting
2024

2024.05.29

日本地球惑星科学連合大会

2024.05.29

日本地球惑星科学連合大会

2024.05.29

日本地球惑星科学連合大会

2024.05.29

Japan Geoscience Union Meeting
2024

2024.05.29

Japan Geoscience Union Meeting
2024

2024.05.29

Japan Geoscience Union Meeting
2024

2024.05.30

The birth of an oceanic island arc by subduction initiation	石塚 治、R.N. Taylor、海野 進、金山 恭子、谷 健一郎、 <u>針金 由美子</u> 、Conway Edward Christopher, M. Patriat, T. Falloon, L. Danyushevsky	Jpgu2024	2024.05.31
Development of short-lived, ferruginous conditions in the Western Interior Province of Wyoming under a highly oxygenated Carboniferous atmosphere	Alex Kovalick, Andy W Heard, Maria Prokopenko, Robert Gaines, Sune Gronlund Nielsen, <u>後藤 孝介</u> , Andrey Bekker	Goldschmidt 2024	2024.08.21
日本海溝におけるホルスト・グーベンの連続沈み込みとプレート境界断層の変形過程	<u>高下 裕章</u> 、野田 篤、宮川 歩夢、西本 桃子、大熊 祐一、橘 隆海、 <u>藤内 智士</u> 、兼子 尚知、大坪 誠	日本地質学会第131年学術大会	2024.09.09
Characterization of optimal lava flow textures for $^{40}\text{Ar}/^{39}\text{Ar}$ and K-Ar dating at Pleistocene volcanoes	Conway Christopher, 山崎 誠子、石塚 治、 <u>針金 由美子</u>	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.09
Petrological features from volcanic rocks around the Daisan-Miyako Knoll in the Central-Southern Ryukyu Arc	<u>針金 由美子</u> 、石塚 治、谷 健一郎、Murch Arran, Conway Edward Christopher, <u>下田 玄</u> 、 <u>佐藤 太一</u> 、南宏樹、青木 智、小原 泰彦、小川 晟人、松尾 拓己、山本 真生、田村 千織、中野 幸彦	日本地質学会第 131 年学術大会 (2024 山形大会)	2024.09.09
肥前鳥島北東域に露出する花崗岩類の五島列島との対比	青木 智、石塚 治、 <u>針金 由美子</u>	日本地質学会第 131 年学術大会 (2024 山形大会)	2024.09.09
Petrology and U-Pb zircon dating on poikilitic hornblende peridotite in the southern end of the Abukuma Mountains	Akira Wakazono, 福山 蘭子、板野 敬太、 <u>針金 由美子</u> 、田村 明弘、森下 知晃	日本地質学会第 131 年学術大会 (2024 山形大会)	2024.09.09
四国海盆土佐メガマリオンの超苦鉄質岩の構造岩石学的研究	井上 創、道林 克禎、 <u>針金 由美子</u> 、小原 泰彦	日本鉱物科学会 2024 年度年会	2024.09.12
伊豆・小笠原・マリアナ前弧域のマントル加水作用とマグマ形成史	山岡 璃音、秋澤 紀克、市山 祐司、森下 知晃、田村 明弘、山下 浩之、 <u>針金 由美子</u> 、小原 泰彦	日本鉱物科学会 2024 年度年会	2024.09.12
日本海、清風海山のかんらん岩捕獲岩:大陸縁背弧海盆の高枯渇度かんらん岩	田村 明弘、西尾 郁也、 <u>針金 由美子</u> 、荒井 章司、森下 知晃	2024 年度 日本地球化学会 第 71 回年会	2024.09.19
DEVELOPMENT OF SHORT-LIVED, FERRUGINOUS CONDITIONS IN THE WESTERN INTERIOR PROVINCE OF WYOMING UNDER A HIGHLY OXYGENATED CARBONIFEROUS ATMOSPHERE	Francis Kovalick, Andrew Heard, Sune G. Nielsen, Masha Prokopenko, Robert Gaines, <u>後藤 孝介</u> , Andrey Bekker	GSA Connects 2024 Annual Meeting	2024.09.22
Experimental study on the formation of spinifex-like textured olivine during antigorite dehydration at 200–700 MPa	中谷 貴之、 <u>針金 由美子</u>	5th Serpentinedays 2024	2024.09.24
Microstructures and crystal-fabrics of ultramafic rocks from the Tosa Megamylon, the Shikoku Basin, the Philippine Sea	井上 創、道林 克禎、 <u>針金 由美子</u> 、小原 泰彦	7th Organic Lherzolite Meeting	2024.10.02

更新世火山における $^{40}\text{Ar}/^{39}\text{Ar}$ 年代測定に 最適な溶岩流組織の特徴づけ	Conway Christopher、山崎 誠子、石塚 治、 <u>針金 由美子</u>	Volcanological Society of Japan Annual Meeting	2024.10.18
南鳥島近傍の堆積層分布から明らかになつ た高濃度レアース泥分布の特徴	金子 琉、中東 和夫、 <u>山下 幹也</u> 、飯 島 耕一	日本地震学会 2024 年秋季大会	2024.10.21
Recycling age of oceanic crust in source area of FOZO and HIMU: effect of Pb mass fractionation correction on estimated recycling ages	<u>下田 玄</u> 、小木曾 哲	American Geophysical Union Fall Meeting	2024.12.09
Spatio-temporal variation of pore fluid pressure from focal mechanism solutions around seismogenic zone of 2024 Noto Peninsula Earthquake, Japan	山本 朱音、大坪 誠、 <u>高下 裕章</u> 、今 西 和俊	AGU Fall Meeting 2024	2024.12.12
Origin of the oldest Philippine Sea ocean basins upon subduction initiation in the Western Pacific	石塚 治、谷 健一郎、Rex N Taylor、海 野 進、坂本 泉、Yuka Yokoyama、 Itaru Ogitsu、 <u>下田 玄</u> 、 <u>針金 由美子</u> 、 <u>佐藤 太一</u> 、小原 泰彦、Conway Edward Christopher、Americus Perez、 Masakazu Fujii、草野 有紀、Masatoshi Yagi、Yoshihiko Tamura、Shun Sekimoto	AGU fall meeting	2024.12.13
The petrology and geochemistry of the high-Fo olivine-bearing mafic magma of the Conos de Licto, Northern Andean Volcanic Zone, Ecuador	Weller Derek、Conway Edward Christopher、東宮 昭彦、岩橋 ぐるみ、 Nobuo Geshi、 <u>針金 由美子</u>	IAVCEI-Volcano Geology Workshop 7th	2025.01.11
高時間分解能で迫るプレート沈み込みにい たるテクトニクス -YK24-05S 航海速報-	石塚 治、谷 健一郎、 <u>下田 玄</u> 、 <u>針金 由美子</u> 、Conway Edward Christopher、 坂本 泉、Yuka Yokoyama、海野 進、 池田 芽生、柴尾 創士、数野 夏美、 新井 仁菜、青木 智、小野 誠太郎、 伊藤 誠	海と地球のシンポジウム	2025.03.13

地質情報研究部門 海洋環境地質研究グループ

Simulation of larval dispersal between seamounts for regional environmental management plans of deep-sea mining	齋藤 直輝、矢野 真一郎、 <u>鈴木 淳</u> 、 鴨志田 紘子	EGU General Assembly 2024	2024.04.14
Characteristics of geochemistry and benthic communities in microbial mat-covered sediments related to methane seepage, northeastern Japan Sea	太田 雄貴、鈴村 昌弘、塚崎 あゆみ、 <u>鈴木 淳</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>西島 美由紀</u> 、吉 岡 秀佳、青柳 智、堀 知行	European Geosciences Union General Assembly 2024	2024.04.14
沖縄県石垣島における原核生物・真核生 物・魚類を対象とした環境 DNA 解析による 多様性評価の実施	<u>西島 美由紀</u> 、濱本 耕平、儀武 滉 大、 <u>鈴木 淳</u> 、山崎仁也、 <u>井口 亮</u>	第 24 回マリンバイオテクノロジー学 会大会	2024.05.25
環境 DNA を用いた石垣島沿岸の生物多 様性評価とその生態学的意味	濱本 耕平、 <u>西島 美由紀</u> 、 <u>儀武 滉 大</u> 、 <u>鈴木 淳</u> 、山崎 仁也、 <u>井口 亮</u>	沖縄生物学会	2024.05.26
間隙水 Li 同位体比を用いた日本海メタン ハイドレート分布域での深部流体検出	宮嶋 佑典、阪井 康真、井尻 晓、 <u>山 岡 香子</u> 、荒岡 大輔、井川 怜欧、吉 岡 秀佳	日本地球惑星科学連合 2024 年大 会 (JpGU2024)	2024.05.26

メタンハイドレート開発における環境影響評価:新潟県上越海丘における化学的環境特性

The sulfur isotope fingerprint of the active methane seepage events in the Pleistocene sediments collected from the northeastern Japan Sea

Exploration of natural gas seepage using acoustic techniques in the Kujukuri offshore region, Chiba, Japan

メタバーコーディング解析による北西太平洋に位置する海山における真核生物の多様性の解明

東太平洋クラリオン・クリッパートン断裂帯周辺における堆積物特性

深海熱水鉱床サイト周辺における海底堆積物中の生物活動評価

太平洋深海域のクラリオン・クリッパートン断裂帯周辺における深海性端脚類の遺伝的集団構造解析

コングロマリットを用いた拓洋第5海山と日本列島沿岸域の連結性に関する研究

海洋コアおよび金属鉱物資源としての海底マンガン鉱床:多様なスケールでの記載の意義

CCZ マンガン団塊鉱床におけるバイオターベーションの評価

東太平洋クラリオン・クリッパートン断裂帯周辺における堆積物特性

海山における堆積物プルームの分散・堆積の予備的シミュレーション

海底熱水鉱床開発に向けた環境影響評価の取り組みについて

海底熱水鉱床開発に向けた環境影響評価の取り組みについて

源田 亜衣、山岡 香子、太田 雄貴、塚崎 あゆみ、宮嶋 佑典、吉岡 秀佳、鈴木 淳、鈴村 昌弘

太田 雄貴、宮嶋 佑典、風呂田 郷史、金子 雅紀、朝比奈 健太、池内 絵里、青木 伸輔、徳弘 航季、鈴木 清史、佐藤 幹夫

石田 洋、鈴村 昌弘、塚崎 あゆみ、長尾 正之、鈴木 淳、吉田 剛、石井 光廣、鈴木 孝太、島 隆夫、小倉 利雄

北橋 倫、西島 美由紀、井口 亮、近藤 俊祐、鈴木 淳

山岡 香子、Washburn William Travis、井口 亮、鈴木 淳、石谷 哲寛、村上 知里、津根 明

清家 弘治、山岡 香子、井口 亮、田中 美菜子、福原 達雄、加藤 広大、山本 祐也、石田 晓之

井口 亮、池内 絵里、喜瀬 浩輝、山岡 香子、村上 知里、鈴木 淳

手良村 知功、齋藤 直輝、喜瀬 浩輝、西島 美由紀、近藤 俊祐、北橋 倫、山本祐也、鈴木 淳、井口 亮

臼井 朗、川畑 博、山岡 香子、柏原 輝彦、日野 ひかり

田中 美菜子、福原 達雄、山岡 香子、藤井 武史、原田 晃、村上 知里、津根 明

山岡 香子、Washburn William Travis、鈴木 淳、石谷 哲寛、村上 知里、津根 明

齋藤 直輝、矢野 真一郎、長尾 正之、鈴木 淳、鴨志田 紘子

福原 達雄、山本 祐也、近藤 俊祐、田中 美菜子、杉山 貴紀、大西 康介、小松原 由美、江里口 知己、三輪 哲也、山岡 香子、井口 亮、鈴木 淳

福原 達雄、山本 祐也、田中 美菜子、近藤 俊祐、大西 康介、杉山 貴紀、小松原 由美、江里口 知己、三輪 哲也、山岡 香子、井口 亮、鈴木 淳、石田 晓之、野尻 涼子

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.26

日本地球惑星科学連合 2024 年度大会

2024.05.26

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.26

Japan Geoscience Union Meeting 2024

2024.05.28

JpGU Meeting 2024

2024.05.28

JpGU Meeting 2024

2024.05.28

JpGU Meeting 2024

2024.05.28

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.28

Japan Geoscience Union Meeting 2024

2024.05.29

JpGU Meeting 2024

2024.05.29

北西太平洋亜熱帯域のセグメントトラップ試料から得られた浮遊性有孔虫の季節変化

Direct Measurement of High-Rate Submarine Groundwater Discharge from a Ryukyu Limestone Aquifer Using a Magnetic Flowmeter

石西礁湖のサンゴ礁生態系における陸起源リン酸塩蓄積の環境影響
Environmental Impacts of Terrestrial-Origin Phosphate Accumulation on the Coral Ecosystems of Sekisei Lagoon

リンの負荷量増加がサンゴの稚ボリップの骨格形成を阻害する
Increasing phosphate load inhibits skeletal formation in coral juvenile polyps.

Detection of spinose species and dominance of microperforate species in molecular community of planktic foraminifers in the northwestern Pacific seamounts

Observation and modeling of flow in a deep-sea seamount for environmental assessment of cobalt-rich crusts mining

メタボローム解析によるシアノ化物のバイオマーカー探索

PESI/MS/MS によるメタボローム解析を用いた日焼け止め成分の暴露がサンゴボリップに与える毒性リスクの評価

Global Climate Change and Environmental Stressors

DISTINCT FECAL MICROBIOME OF HOLOTHURIA ATRA FROM SURROUNDING SEDIMENTS, AND ITS ECOLOGICAL ROLE

海水を溶媒とした上向流カラム通水試験におけるカンラン石の各種元素の溶出挙動

Effect of highly alkaline seawater on growth and geochemical proxies of coral polyps

橋本 優里、黒柳 あずみ、鈴木 淳、山岡 香子、藤井 武史、近藤 俊祐、鴨志田 紘子

志田 紘子

安元 純、安元 剛、浅井 和見、クリス・レオン、飯島 真理子、細野 高啓、新城 竜一、宋 科翰、中屋 真司、井口 亮、谷口 真人

安元 剛、飯島 真理子、安元 純、中村 崇、井口 亮、廣瀬 美奈、渡部 終五

飯島 真理子、安元 剛、安元 純、井口 亮、廣瀬 美奈、鈴木 淳、渡部 終五

前田 歩、西島 美由紀、井口 亮、鈴木 淳、近藤 俊祐、鴨志田 紘子

齋藤 直輝、矢野 真一郎、長尾 正之、鈴木 淳、鴨志田 紘子

久恒 一晃、浅野 友美、谷口 賢、井口 亮、財津 桂

菅 駿一、田中 健、鈴木 留佳、畑 純、井口 亮、大野 良和、安元 剛、財津 桂

Fiona Chong, SOONG GIUNYEE, Agus A Hakim, Camille Burke, Stephane De Palmas, Fabian Goesser, Wan-chien Victoria Hsiao, 喜瀬 浩輝、西島 美由紀、井口 亮、Domino Joyce, Maria Beger, James Davis Reimer

濱本 耕平、水山 克、西島 美由紀、前田 歩、儀武 涼大、Angelo POLISENO、井口 亮、James Davis Reimer

西方 美羽、保高 徹生、TUM Sereyroith、鈴木 淳、山岡 香子、塚崎 あゆみ、藤井 和美

源田 亜衣、井上麻夕里、山岡 香子、飯島 真理子、大野 良和、安元 剛、木下 峻一、石川 剛志、井口 亮、鈴木 淳

JpGU Meeting 2024

2024.05.29

Japan Geoscience Union Meeting 2024

2024.05.30

Japan Geoscience Union Meeting 2024

2024.05.30

Japan Geoscience Union Meeting 2024

2024.05.30

Japan Geoscience Union Meeting 2024

2024.05.31

ISOPE 2024

2024.06.17

日本法中毒学会第 43 年会

2024.06.29

第 3 回環境化学物質合同大会

2024.07.03

European Coral Reef Symposium

2024.07.04

17th International Echinoderm Conference

2024.07.19

第 59 回地盤工学研究発表会

2024.07.25

2024Goldschmidt Conference

2024.08.19

ROV“はくよう3000”を用いた新潟県沖日本海の深海魚類群集調査	手良村 知功、鈴木 淳、井口 亮、喜瀬 浩輝、後藤 秀作、鈴村 昌弘	2024 年度日本魚類学会年会	2024.09.08
ICP-MS 分析におけるスペースチャージ効果の検証	朱 彦北、鹿籠 康行、中野かずみ、山岡 香子	日本分析化学会第 73 年会	2024.09.11
イオン錫型膜と電気透析による金属イオンの選択抽出	大平 慎一、難波江 渉、香川 剛、源田 亜衣、鹿籠 康行、朱 彦北、戸田 敏、山岡 香子	日本分析化学会第 73 年会	2024.09.11
マルチオミクスによる悪性度の異なるヒト臍膜腫の解析	大谷悠斗、江口盛一郎、井口 亮、財津 桂	第 49 回日本医用マススペクトル学会年会	2024.09.13
黒潮流域を中心とした、宝石サンゴとして漁獲される八放サンゴの細菌群集構造解析	高田 健司、儀武 混大、西島 美由紀、野中 正法、岩崎 望、安田 仁奈、井口 亮	日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会 2024	2024.09.14
緯度クラインにおけるコユビミドリイシの微生物叢解析	儀武 混大、喜瀬 浩輝、善岡 祐輝、中島 祐一、齋藤 直輝、酒井 一彦、安田 仁奈、井口 亮	日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会 2024	2024.09.14
クロナマコの糞便はサンゴ礁生態系を救うのか？	濱本 耕平、水山 克、西島 美由紀、前田 歩、儀武 混大、Angelo POLISENO、井口 亮、James Davis Reimer	日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会 2024	2024.09.14
フジツボの着生過程で形成される微生物叢が生産するカロテノイドについて	頬末 武史、高部 由季、新藤 一敏、井口 亮、Aldred Nick	日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会 2024	2024.09.14
沖縄島沿岸全域での環境酵素分布の可視化	井口 亮、儀武 混大、西島 美由紀、依藤 実樹子、SOONG GIUNYEE、喜瀬 浩輝、濱本耕平、城間博紹、北野 宏明、水山 克、青木 伸行、鈴木 淳	日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会 2024	2024.09.14
ミドリイシ属サンゴの産卵時期の違いに関する遺伝的基盤の探索	仮屋園 志帆、石田 純、井口 亮、寺井 洋平	日本動物学会第 95 回長崎大会	2024.09.14
スナギンチャク目(刺胞動物門: 六放サンゴ綱)における宿主転換について	喜瀬 浩輝、Maria Eduarda Alves Santos、Chloe Julie Lois Fourreau、井口 亮、後藤 龍太郎、James Davis Reimer	日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会 2024	2024.09.15
琉球列島におけるベントスの分散ネットワーク	齋藤 直輝、喜瀬 浩輝、井口 亮	日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会 2024	2024.09.15
新潟県沖上越海丘の表層型メタンハイドレート賦存域周辺におけるヒ素の分布と化学形態	山岡 香子、源田 亜衣、成川 知弘、塚崎 あゆみ、太田 雄貴、宮嶋 佑典、吉岡 秀佳、鈴木 淳、鈴村 昌弘	日本地球化学会第 71 回年会	2024.09.19
産総研におけるネイチャーテック関連技術の紹介—サンゴと環境 DNA—	井口 亮	TSUKUBA CONNECT	2024.09.20
ホッコクアカエビへの生物影響評価—網羅的遺伝子発現解析によるアプローチ—	依藤 実樹子、儀武 混大、林 正裕、徳弘 航季、喜瀬 浩輝、井口 亮、鈴木 淳、鈴村 昌弘	令和 6 年度日本水産学会秋季大会	2024.09.25
京都沖イバラモエビとクロザコエビ類の消化管内容物から日本海深海生態系の一端を捉える	飯島 理紗子、藤原 安純奈、堀 碧心、藤田 純太、谷本 尚史、甲斐 嘉晃、儀武 混大、西島 美由紀、喜瀬 浩輝、井口 亮	令和 6 年度日本水産学会秋季大会	2024.09.26

日本海の深海生物を対象とした生物影響評価—ホッコクアカエビへの影響—	林 正裕、徳弘 航季、依藤 実樹子、 <u>井口 亮</u> 、鈴木 淳、鈴村 昌弘	令和 6 年度日本水産学会秋季大会	2024.09.26
Visualization of environmental enzyme distribution throughout the coast of Okinawa island	<u>井口 亮</u> 、儀武 淩大、西島 美由紀、依藤 実樹子、 <u>SOONG GIUNYEE</u> 、喜瀬 浩輝、濱本 耕平、水山 克、 <u>鈴木 淳</u>	APBJC2024	2024.10.24
Microbiome Analysis of Reef-Building Corals Distributed in Different Habitats in Japan	儀武 淩大、酒井 一彦、中島 祐一、安田 仁奈、 <u>井口 亮</u>	APBJC2024	2024.10.24
メタゲノム解析による高水温環境における造礁サンゴの微生物機能の比較	儀武 淩大、城間 博紹、水山 克、北野 宏明、酒井 一彦、安田 仁奈、 <u>井口 亮</u>	日本微生物生態学会第 37 回広島大会	2024.10.29
小笠原諸島母島近海に生息するアオウミガメの消化管内細菌叢解析	西島 美由紀、藤谷 天藏、衣奈 駿治、儀武 淩大、 <u>井口 亮</u> 、鈴木 淳、岩崎 望	日本微生物生態学会第 37 回広島大会	2024.10.29
Spatial distribution of deep-sea megabenthos around cobalt-rich ferromanganese crusts on seamounts in the northwestern Pacific	喜瀬 浩輝、 <u>井口 亮</u> 、加藤 正悟、杉島 英樹、三井 翔太、湊谷 純平、三輪 竜一、岩崎 望、鈴村 昌弘、塚崎 あゆみ、田中 裕一郎、柳田 圭悟、菊田 将平、鴨志田 紘子、 <u>鈴木 淳</u>	PICES-2024	2024.10.31
Comparison of environmental DNA and imaging methods for monitoring deep-sea fishes on a seamount	<u>井口 亮</u> 、西島 美由紀、池内 絵里、横岡 博之、杉島 英樹、池田 和正、三輪 竜一、関戸 嘉郎、岩崎 望、鈴村 昌弘、塚崎 あゆみ、田中 裕一郎、加藤 正悟、湊谷 純平、岡本 信行、國島 大河、伊勢 優史、 <u>鈴木 淳</u>	PICES-2024	2024.10.31
表層型メタンハイドレートの研究開発に係る環境影響評価	塚崎 あゆみ、林 正裕、石田 洋、 <u>井口 亮</u> 、宮嶋 佑典、青柳 智、吉岡 秀佳、堀 知行、 <u>鈴木 淳</u> 、鈴村 昌弘	海洋理工学会 30 周年記念大会 「未来へ繋ぐ海洋理工学会研究」	2024.10.31
Accumulated phosphate in calcareous sediment is an effective indicator of terrestrial load, linked to coral density and bleaching: A case study from Sekisei Lagoon, Japan.	飯島 真理子、安元 剛、中村 崇、 <u>井口 亮</u> 、渡部 終五、安元 純	60th CCOP	2024.11.06
ネイチャーポジティブ社会への貢献を目指した産総研での環境研究—環境 DNA とサンゴー	<u>井口 亮</u>	つくば国際会議場内覧会 特設講演会	2024.11.20
What is the maximum survivable temperature for corals?	Bachtiar Muggi、Tavakoli-Kolour Parviz、Hazraty-Kari Sanaz、熊谷 直喜、 <u>井口 亮</u> 、野澤 洋耕、高橋 駿一	日本サンゴ礁学会第 27 回大会	2024.11.29
裾礁の各地形区分(礁原・海草も場・礁斜面)のサンゴ群集過程への白化現象の長期的影響—大規模白化現象は気象災害—	中野 義勝、 <u>井口 亮</u> 、中井 達郎、長谷川 均、泉 隆盛、磯村 尚子、水山 克	日本サンゴ礁学会第 27 回大会	2024.11.29
MiCucumber, a set of universal PCR primers for metabarcoding environmental DNA from sea cucumbers	夏 非、濱本 耕平、宝徳 日向、菊地 泰生、儀武 淩大、 <u>井口 亮</u> 、安田 仁奈	日本サンゴ礁学会第 27 回大会	2024.11.29

緯度クラインにおけるコユビミドリイシの微生物叢の解明と機能の検討

南西諸島における造礁サンゴの幼生分散ネットワーク

Does cooling from typhoons prevent coral bleaching?

オニヒトデはサンゴをどう認識し捕食するのか? - 嗅覚に着目した遺伝子解析・行動実験-

沖縄島サンゴ礁域での環境酵素分布の可視化-周辺生態系との比較-

上越沖及び酒田沖 MH 胚胎域での掘削影響調査(2) ホバリング型 AUV「YOUZAN」を用いた 海底画像撮影と生物への影響

Comparative study of olivine dissolution methods in the ocean: implications for ocean alkalinity enhancement

深海底での環境影響評価について~深海用濁度計を中心にも~

Availability of 14C ages for organic matter on the assessment of bioturbation activity in surface sediments of seamounts in the northwestern Pacific

深海底開発と海中環境モニタリング

Illuminating the diversity of deep-sea anthozoans found in selected sites of the Northwestern Pacific

志摩海脚の深海底生動物相: YK24-09S 航海の予察的成果報告

深海底近傍における乱流強度の実測、推定法、可視化技術の開発 II ~MR23-03 航海で取得した ADV データを用いた乱流推定~

儀武 混大、喜瀬 浩輝、善岡 祐輝、

中島 祐一、齋藤 直輝、酒井 一彦、
安田 仁奈、井口 亮

齋藤 直輝、喜瀬 浩輝、中島 祐一、
井口 亮

Tanya Singh、Bachtiar Muggi、

Tavakoli-Kolour Parviz、熊谷 直喜、酒
井 一彦、井口 亮、高橋 駿一

鎌田 真壽、喜多村 鷹也、古井戸

樹、目崎 拓真、儀武 混大、井口 亮、
本郷 悠貴、梶谷 嶺、伊藤 武彦、新
村 芳人、安田 仁奈

井口 亮、儀武 混大、西島 美由紀、
依藤 実樹子、SONG GIUNYEE、喜
瀬 浩輝、濱本 耕平、城間 博紹、北
野 宏明、水山 克、鈴木 淳

太田 雄貴、加藤 正悟、高島 創太
郎、高月 直樹、喜瀬 浩輝、井口 亮、
手良村 知功、鈴木 淳、鈴村 昌弘、
塚崎 あゆみ、浅田 美穂、佐藤 幹夫、
長野 和則

TUM Sereyroith、西方 美羽、藤井 和
美、塚崎 あゆみ、山岡 香子、鈴木
淳、保高 徹生

長尾 正之

太田 雄貴、鈴木 淳、鴨志田 弘子

鈴木 淳

Kurt Bryant Bacharo、Kylie Villareal、
喜瀬 浩輝、千徳 明日香、横岡 博
之、波々伯部 夏美、Jeremy Horowitz、
土田 真二、藤原 義弘、James Davis
Reimer

波々伯部 夏美、藤原 義弘、河戸
勝、小川 晟人、自見 直人、酒向 実
里、下岡 敏士、福岡 雅史、手良村
知功、喜瀬 浩輝、櫛田 優花、中野
裕昭、白木 祥貴、関口 翔悟、木村
妙子

古島 靖夫、長尾 正之、田中 衛

日本サンゴ礁学会第 27 回大会

2024.11.29

日本サンゴ礁学会第 27 回大会

2024.11.29

日本サンゴ礁学会第 27 回大会

2024.11.30

日本サンゴ礁学会第 27 回大会

2024.11.30

日本サンゴ礁学会第 27 回大会

2024.11.30

表層型メタンハイドレートの研究開
発 2024 年度 研究成果報告会

2024.12.05

AGU 24

2024.12.10

JFE アドバンテック株式会社製品技
術セミナー

2024.12.12

American Geophysical Union 2024
annual meeting

2024.12.13

海洋音響学会

2024.12.17

17th Deep-Sea Biology Symposium

2025.01.17

海と地球のシンポジウム

2025.03.12

海と地球のシンポジウム 2024 科
学のフロンティア×研究船

2025.03.13

高アルカリ度海水の安全性評価手法の検討

戸田 美沙、岡村 哲郎、酒井 琴和、
山岡 香子、井口 亮、西島 美由紀、
依藤 実樹子、鈴木 淳

第 59 回日本水環境学会年会

2025.03.17

日本で養殖されているギンザケを用いた
6PPD キノンの生態影響試験

戸田 美沙、岡村 哲郎、山口 夏純、
内藤 航、酒井 琴和、山岡 香子、井口 亮、鈴木 淳、山本 潤、眞野 浩行

第 59 回日本水環境学会年会

2025.03.19

地質情報研究部門 地球化学研究グループ

沈み込み帯へのインプット直前の太平洋プレート構成岩石

平野 直人、神藤 裕哉、三國 和音

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.27

本栖湖の堆積物に記録された負の北極振動に伴うダスト減少イベント

根本 夏林、横山 祐典、Stephen Obrochta、宮入 陽介、藤原 治、山本 真也、中村 淳路、Aurelia Hubert-Ferrari、Vanessa Heyvaert、Marc De Batist、the QuakeRecNankai Team

日本第四紀学会 2024 年大会

2024.08.30

チチスポット火山産苦鉄質捕獲岩の Re-Os アイソクロン年代および強親鉄性元素濃度から探る海洋地殻の化学進化

三國 和音、石川 晃、横山 哲也、平野 直人、町田 嗣樹

日本地球化学会 第 71 回年会

2024.09.18

GSJ 地球化学標準物質のハロゲン濃度と均質性の評価

遠山 知亜紀

日本地球化学会

2024.09.20

Cretaceous hotspots, Eocene non-hotspot, and petit-spots on the Western Pacific plate.

平野 直人、三國 和音、神藤 裕哉、町田 嗣樹

AGU fall meeting 2024

2024.12.09

How to Occur the Melt at the Lithosphere-Asthenosphere Boundary: Insights from Geochemical Perspective on Petit-Spot Lavas

三國 和音、平野 直人

AGU fall meeting 2024

2024.12.11

超苦鉄質岩の主要元素組成分析再訪:

XRF 分析におけるマトリックス効果と火成岩標準物質の標準値について

三國 和音、石川 晃、佐藤 隆

変成岩などシンポジウム

2025.03.14

地質情報研究部門 地球物理研究グループ

稠密重力探査による土石流発生渓流の地下構造解明～土石流危険渓流の安全度評価手法の確立を目指して～

住田 達哉

地盤工学会中国支部鳥取講習会

2024.05.17

深層学習マイクロマニピュレータシステムを用いた K-Ar 年代測定のための鉱物ハンドピックの自動化の試み

山崎 誠子、宮川 歩夢、板木 拓也

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.26

吾妻山大穴火口付近の空中磁気探査による磁化構造と繰り返し空中磁気探査による時間変化検出の試み

米倉 光、市來 雅啓、大熊 茂雄、宮川 歩夢、田中 良、海田 俊輝、柘植 鮎太、太田 豊宣、橋 本 武志、中塚 正

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.27

深層学習による周波数領域空中電磁探査データ逆解析の実測データへの適用

大植 聖也、上田 匠、大熊 茂雄、横田 俊之

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.27

The role of ductile fractures in continental crustal faults from micro to macro scale

Yeo Thomas、重松 紀生、ウォリス・サイモン、住田 達哉、宮川 歩夢、香取 拓

日本地球惑星科学連合 2024 年大会

2024.05.28

Impacts of rheological variations along plate boundary in subduction zones for deep slow earthquakes	馬、氏家 恒太郎、小林 慶太、Chunjie Zhang	Japan Geoscience Union Meeting 2024	2024.05.28
深層学習マイクロマニピュレータシステムを用いた K-Ar 年代測定のための鉱物ハンドピックの自動化の試み	宮川 歩夢、奥田 花也	JpGU2024	2024.05.30
富士山重力観測網の拡充と 2023 年の観測成果	山崎 誠子、宮川 歩夢、板木 拓也	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.30
松代における絶対重力測定(2023 年 6 月)と超伝導重力計 CT #036 および iGrav #028 の感度検定	本多 亮、今西 祐一、西山 竜一、風間 卓仁、若林 環、名和 一成、堀川 卓哉、後藤 宏樹、市川 隆一、市原 寛、松廣 健二郎、岡田 和見	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.30
Drone magnetic survey for geothermal alteration areas to evaluate the risk of slope failure	今西 祐一、西山 竜一、本多 亮、丸藤 大樹、名和 一成	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.31
火山灰粒子自動解析技術による噴火の即時推移把握	大熊 茂雄、宮川 歩夢、米倉 光、阪口 圭一、星住 英夫、阿部 朋弥、川畑 大作、宮地 良典	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.31
Frictional property of clay-rich soils as one of geological factors in landslide	下司 信夫、松本 恵子、宮川 歩夢、板木 拓也	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.31
ポックマーク下の構造から推定する塊状メタンハイドレートが海底下で消失した可能性とポックマーク成因論	高橋 美紀、宮川 歩夢、阪口 圭一、星住 英夫、阿部 朋弥、大熊 茂雄、米倉 光、川畑 大作、宮地 良典	Japan Geoscience Union Meeting 2024	2024.05.31
斜面災害ポテンシャル評価のためのドローン磁気探査による熱水変質地域の調査－熊本県阿蘇・大分県由布の事例－	浅田 美穂、宮川 歩夢	物理探査学会大 150 回学術大会	2024.06.04
Where in the F layer can we find out? Where would be the key places?	宮川 歩夢、大熊 茂雄、阪口 圭一、星住 英夫、阿部 朋弥、米岡 佳弥、高下 裕章、米倉 光、川畑 大作、宮地 良典	日本地すべり学会九州支部学術講演会大分大会	2024.06.06
Primary Pressure Scale of KCl B2 Phase to the Core-Mantle Boundary	大滝 壽樹	第 7 回惑星深部研究会	2024.08.04
ポックマーク形成モデルの提案:表層型メタンハイドレート賦存域に特徴的な「撓み」を作る地形的特徴	Ning Ma、住田 達哉、Motohiko Murakami	Goldschmidt 2024	2024.08.21
The evolution of ductile fractures at the base of the seismogenic zone of crustal-scale faults from micro to macro scale	浅田 美穂、宮川 歩夢	日本地質学会第 131 年学術大会	2024.09.06
Shallow crustal structure and slip tendency of normal faults in the outer rise of the Japan Trench	Yeo Thomas、重松 紀生、Simon Wallis、住田 達哉、小林 慶太、Chunjie Zhang、香取拓馬、氏家恒太郎、宮川 歩夢	International Joint Workshop on Slow-to-Fast Earthquakes 2024	2024.09.17
孫 岳、宮川 歩夢、尾鼻 浩一郎、Jamali Hondori Ehsan、朴 進午	日本地震学会 2024 年度秋季大会	2024.10.21	

「地震準備強化」からみた 2024 年 8 月の南海トラフ地震臨時情報の効果—1 年前のアンケート調査結果との比較—

震源分布クラスタリングによる令和 6 年能登半島地震の断層面抽出

地球外核最下部(F 層)の地震波速度とその決定法

斜面災害リスク評価のための火山地域における熱水変質地帯での磁気探査の活用

北海道東部屈斜路カルデラおよび阿寒カルデラにおける繰り返し相対重力観測

富士山における超伝導重力計 iGrav #003 によるテスト観測について

斜面災害リスク評価のためのドローン空中磁気探査—熱水変質地域への適用

Constraints on velocity structure in the lowermost outer core (F layer) by using amplitude decay of creeping waves around the inner core boundary

Role of folds developed near plate boundaries in subduction zones as inelastic deformation

Fault geometries of the 2024 Mw 7.5 Noto Peninsula Earthquake from hypocenter-based hierarchical clustering

粘土質地すべり土の摩擦特性

斜面災害リスク評価のための火山地域における熱水変質地帯での磁気探査の活用

斜面災害リスク評価のための火山地域における熱水変質地帯での磁気探査の活用

AI を用いた微化石即時鑑定:IODP JTRACK での「ちきゅう」船上における実証試験

AI を用いた微化石即時鑑定技術:IODP JTRACK での「ちきゅう」船上における実証試験

林 能成、大谷 竜

佐脇 泰典、椎名 高裕、寒河江 皓
大、佐藤 圭浩、堀川 晴央、宮川 歩
夢、今西 和俊、内出 崇彦

大滝 壽樹、金嶋 聰

大熊 茂雄、宮川 歩夢、阪口 圭一、
星住 英夫、阿部 朋弥、米岡 佳弥、
川畑 大作、宮地 良典

岡 大輔、岡崎 紀俊、高橋 浩晃、大
園 真子、名和 一成

今西 祐一、池田 博、本多 亮、三浦
哲、名和 一成、西山 竜一、風間 卓
仁、若林 環、山本 圭吾

大熊 茂雄、宮川 歩夢、阪口 圭一、
星住 英夫、阿部 朋弥、米岡 佳弥、
高下 裕章、米倉 光、川畑 大作、宮
地 良典

大滝 壽樹、金嶋 聰

大坪 誠、奥田 花也、宮川 歩夢、廣
瀬 文洋

佐脇 泰典、椎名 高裕、寒河江 皓
大、佐藤 圭浩、堀川 晴央、宮川 歩
夢、今西 和俊、内出 崇彦

大森 涼生、高橋 美紀、宮川 歩夢、
星住 英夫、上原 真一

大熊 茂雄、宮川 歩夢、阪口 圭一、
星住 英夫、阿部 朋弥、米岡 佳弥、
川畑 大作、宮地 良典

大熊 茂雄、宮川 歩夢、阪口 圭一、
星住 英夫、阿部 朋弥、米岡 佳弥、
川畑 大作、宮地 良典

宮川 歩夢

萩野 穂、宮川 歩夢、岩井 雅夫、
IODP Exp.405 乗船研究者一同、板木
拓也

日本地震学会 2024 年秋季大会

2024.10.21

日本地震学会 2024 年度秋季大会

2024.10.22

日本地震学会 2024 年度秋季大会

2024.10.23

第 41 回 地質調査総合センター
ンポジウム

2024.10.25

日本測地学会第 142 回講演会

2024.10.29

日本測地学会第 142 回講演会

2024.10.30

物理探査学会第 151 回(2024 年
度秋季)学術講演会

2024.12.04

AGU24

2024.12.09

AGU Fall Meeting 2024

2024.12.12

米国地球物理学連合 2024 年大会

2024.12.13

第 43 回地質調査総合センター
ンポジウム

2024.12.20

第 43 回 地質調査総合センター
ンポジウム

2024.12.20

第 43 回 地質調査総合センター
ンポジウム

2024.12.20

南極堆積物コアのデジタル化と AI
解析に関するワークショップ

2025.02.20

2024 年度微古生物学リファレンス
センター(MRC)研究発表会

2025.03.15

5.5 イベント

発表題目	関係者	イベント名／開催場所	開催日
産総研一般公開 2023 におけるラボツアー、産業技術「ジオ」研究所の開催	森田 澄人、井川 恵欧、 <u>松岡 茗</u> 、 <u>羽田 裕貴</u> 、 <u>針金 由美子</u> 、嶋田 侑眞、金子 翔平、三木 綾佑子、上綱 大輝、武井 勇二郎、常木 俊宏、兼子尚知、中村 由美	産総研一般公開 2023	2023.11.11-2023.11.11
地質調査総合センター「修士卒研究員」オンライン説明会	草野 有紀、今泉 博之、 <u>野田 篤</u> 、三好 陽子、相馬 宣和、徂徠 正夫、吉岡 真弓、原 淳子、井本 由香利、土田 恭平、吉原 直志、 <u>下田 玄</u> 、 <u>山下幹也</u> 、 <u>佐藤 太一</u> 、 <u>高下 裕章</u> 、石塚吉浩、古川 竜太、東宮 昭彦、山崎誠子	地質調査総合センター「修士卒研究員」オンライン説明会	2024.03.04-2024.03.05
地質標本館 講演会「手にとれる!? ミクロな化石 一時代を決める放散虫のかたち—」	伊藤 剛、横山 隼	地質標本館 講演会「手にとれる!? ミクロな化石 一時代を決める放散虫のかたち—」	2024.04.27-2024.04.27
経済産業省、地質の日企画展示～「火山列島に生きる」	須田 好、石塚 吉浩、川邊 穎久、斎藤 真、 <u>中村 佳博</u> 、 <u>小松原 純子</u> 、宍倉 正展、都井 美穂、川畑 史子、長江 敦子、 <u>古川 竜太</u> 、宝田 晋治、下司 信夫、中野 俊、 <u>星住 英夫</u> 、及川 輝樹、阪口 圭一、東宮 昭彦、伊藤 順一、 <u>野田 篤</u> 、百目鬼 洋平、山谷 忠大、川畑 晶、中島 和敏、正根寺 幸子	経済産業省、地質の日企画展示～「火山列島に生きる」	2024.05.08-2024.06.03
2024 年度第 1 回 地質調査研修	利光 誠一、 <u>羽地 俊樹</u> 、斎藤 真、川畑 史子、長江 敦子	2024 年度第 1 回 地質調査研修 実地調査	2024.05.13-2024.05.17
日本地球惑星科学連合 2024 年大会の一般展示ブース出展	須田 好、 <u>小松原 純子</u> 、宍倉 正展、長江 敦子、宝田 晋治、 <u>宮地 良典</u> 、梅澤 良介、草野 有紀、柳澤 教雄、都井 美穂、百目鬼 洋平、森田 澄人、佐藤 努、中川 圭子、瀬口 寛樹、福田 和幸、常木 俊宏、山口 政史	日本地球惑星科学連合 2024 年大会	2024.05.26-2024.05.31
2024 年度第 1 回 追加 地質調査研修	利光 誠一、 <u>住田 達哉</u> 、斎藤 真、川畑 史子、長江 敦子	2024 年度第 1 回 追加 地質調査研修	2024.05.27-2024.05.31
大地の骨格を伝える地質図－全国の経済活動を支えます－(中部センター一般公開)	斎藤 真、 <u>中島 礼</u> 、 <u>内野 隆之</u> 、川畑 史子、都井 美穂、川畑 晶	中部センター一般公開	2024.08.03-2024.08.03
山形県立博物館「地質情報展 2024 やまがた応援プロジェクト」	宍倉 正展、利光 誠一、長江 敦子、 <u>小松原 純子</u> 、川邊 穎久、 <u>板木 拓也</u> 、 <u>見邨 和英</u> 、斎藤 真、 <u>松崎 紗代子</u> 、川畑 史子、川畑 晶、須田 好	地質情報展 2024 やまがた応援プロジェクト	2024.08.03-2024.08.04
経済産業省こどもデー	宍倉 正展、須田 好、 <u>宮地 良典</u> 、 <u>小松原 純子</u> 、落 唯史、兼子 尚知	経済産業省こどもデー	2024.08.07-2024.08.08
地質標本館 イベント「地球なんでも相談」	兼子 尚知、川邊 穎久、利光 誠一、 <u>坂野 靖行</u> 、左部 翔大、柳澤 教雄、	地質標本館 イベント「地球なんでも相談」	2024.08.24-2024.08.24

村岡 やよい、森田 澄人、辻野 匠、中島 礼、下川 浩一

須田 好、宍倉 正展、小松原 純子、
中尾 信典、古谷 博秀、浅沼 宏、蛇名 武雄、田中 裕一郎、阿部 朋弥、
及川 輝樹、土田 恭平、森田 澄人、田口 修弘、佐藤 麻樹、箱崎 早苗、
利光 誠一、中澤 努、内田 洋平、細井 淳、遠山 知亜紀、三國 和音、吾妻 崇、行谷 佑一、伊尾木 圭衣、山崎 誠子、東郷 洋子、眞弓 大介、左部 翔大、天谷 宇志、富樫 聰、石原 武志、鳥越 雄太郎、山口 雄一、清水 彰一、夏井 憲司、上原 由記子、相澤 崇史、後藤 浩平、庄司 絵梨子、本宮 聰子、巽 高宏、館山 美保、工藤 沙織、落 唯史、宮地 良典、兼子 尚知、斎藤 直輝、中島 礼、石野 沙季、中村 由美、川邊 祐久、嶋田 侑眞、村岡 やよい、片桐 星来、斎藤 真、山谷 忠大、百目鬼 洋平、柳澤 敦雄、佐藤 努、中川 圭子、福田 和幸、清水 恵、都井 美穂、瀬口 寛樹、中島 和敏、川畑 史子、長江 敦子

地質情報展 2024 やまがた一山と盆地をつくる大地のヒミツー

地質情報展 2024 やまがた一山と盆地をつくる大地のヒミツー 2024.09.06-2024.09.08

全地連「技術フォーラム 2024」新潟

全地連「技術フォーラム 2024」新潟 2024.09.26-2024.09.27

産総研特別公開 2024 体験ブース「石を割ってみよう」

産総研特別公開 2024 2024.10.05-2024.10.05

2024 年度第 2 回 地質調査研修

利光 誠一、藪田 桜子 2024 年度第 2 回 地質調査研修 2024.10.21-2024.10.25

FREA 一般公開

小松原 純子、伊藤 順一、柳澤 敦雄、中川 圭子、内野 隆之 FREA 一般公開 2024.10.26-2024.10.26

近畿地方周辺の地質図

斎藤 真、松崎 紗代子、百目鬼 洋平、山谷 忠大、川畑 晶、中島 和敏 産総研関西センター 一般公開 2024.11.02-2024-実感！研究空間！- 2024.11.02

九州地方の地質図

斎藤 真、松崎 紗代子、百目鬼 洋平、山谷 忠大、川畑 晶、中島 和敏 令和 6 年度 九州センター 一般公開 2024.11.09-2024.11.09

海洋コア岩相記載

池原 研、加 三千宣、池原 実、鈴木 克明 海洋コア岩相記載武者修行イベント 2024.11.16-2024.11.19

地質標本館イベント「ライブ中継！ 日本海溝で巨大地震の痕跡を掘る。」

宮川 歩夢、草野 有紀、森田 澄人 地質標本館イベント「ライブ中継！ 日本海溝で巨大地震の痕跡を掘る。」 2024.11.23-2024.11.23

地質図とテロワールで農産物DXを推進－
基本情報の 20 万万分の 1 日本シームレス地質図V2を無料配信中－

斎藤 真、内野 隆之、山崎 徹 アグリビジネス創出フェア 2024 2024.11.26-2024.11.28

地質図 Navi で見る地球科学図	斎藤 真、 <u>小松原 純子</u> 、 <u>太田 充恒</u> 、 宍倉 正展	第 25 回国際粉体工業展 東京 (POWTEX 2024)	2024.11.27- 2024.11.29
中部-関東地方の地質図	斎藤 真、 <u>小松原 純子</u> 、 <u>太田 充恒</u> 、 宍倉 正展	第 25 回国際粉体工業展 東京 (POWTEX 2024)	2024.11.27- 2024.11.29
第 43 回地質調査総合センターシンポジウム 地質を用いた斜面災害リスク評価 —高精度化に必須の地質情報整備—	<u>村岡 やよい</u> 、 <u>宮地 良典</u> 、 <u>川畠 大作</u> 、 <u>宮川 歩夢</u> 、 <u>水落 裕樹</u> 、 <u>長 郁夫</u> 、 <u>高橋 美紀</u> 、 <u>斎藤 真</u> 、 <u>阿部 朋弥</u> 、 <u>片桐 星来</u> 、 <u>西岡 芳晴</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、 <u>池田 あやめ</u> 、 <u>山本 聰</u> 、 <u>岩男 弘毅</u> 、 <u>米岡 佳弥</u> 、 <u>星住 英夫</u> 、 <u>大熊 茂雄</u> 、 <u>土田 聰</u> 、 <u>阪口 圭一</u> 、 <u>巖谷 敏光</u> 、 <u>大森 涼生</u> 、 <u>中村 涼</u> 、 <u>古庄 航輝</u> 、 <u>吉澤 和子</u> 、 <u>松崎 紗代子</u> 、 <u>小松原 純子</u> 、 <u>宍倉 正展</u> 、 <u>持丸 華子</u> 、 <u>須田 好</u> 、 <u>長江 敏子</u> 、 <u>川畠 史子</u> 、 <u>都井 美穂</u> 、 <u>百目鬼 洋平</u> 、 <u>正根寺 幸子</u> 、 <u>内藤 一樹</u>	第 43 回地質調査総合センターシンポジウム 地質を用いた斜面災害リスク評価 —高精度化に必須の地質情報整備—	2024.12.20- 2024.12.20
山口大学地質系業界説明会	<u>野田 篤</u> 、 <u>松本 恵子</u> 、 <u>宮下 由香里</u>	地質系業界説明会	2024.12.20- 2024.12.21
International Ocean Drilling Programme Expedition 503 の科学目標と掘削計画	<u>池原 研</u> 、Michael Strasser、前田 玲奈	IODP3 Expedition 503 Webinar	2025.01.08- 2025.01.08
地質標本館イベント「自分で作ろう！化石レプリカ」	<u>福田 和幸</u> 、 <u>兼子 尚知</u> 、 <u>川邊 賢久</u> 、 <u>東郷 洋子</u> 、 <u>瀬口 寛樹</u> 、 <u>藤原 智晴</u> 、 <u>常木 俊宏</u> 、 <u>下川 浩一</u> 、 <u>中村 由美</u> 、 <u>朝川 暢子</u> 、 <u>清水 裕子</u> 、 <u>池田 あやめ</u> 、 <u>武井 勇二郎</u>	地質標本館イベント「自分で作ろう！化石レプリカ」	2025.01.25- 2025.01.25
写真企画展での海洋関係情報の提供	<u>井口 亮</u> 、 <u>斎藤 直輝</u>	うみべのタイムマシーン—100 年後の子どもたちへのおくりもの—	2025.02.02- 2025.02.24
2024 年度地質調査総合センター(GSJ)オンライン説明会	<u>今西 和俊</u> 、 <u>吾妻 崇</u> 、 <u>丸山 正</u> 、 <u>佐藤 善輝</u> 、 <u>矢部 優</u> 、 <u>谷川 晃一朗</u> 、 <u>宮地 良典</u> 、 <u>西山 直毅</u> 、 <u>森本 和也</u> 、 <u>行谷 佑一</u> 、 <u>高橋 幸士</u> 、 <u>澤井 祐紀</u> 、 <u>松本 弾</u> 、 <u>納谷 友規</u> 、 <u>羽田 裕貴</u> 、 <u>松本 恵子</u> 、 <u>相馬 宣和</u> 、 <u>後藤 宏樹</u> 、 <u>吉岡 秀佳</u> 、 <u>今泉 博之</u> 、 <u>野田 篤</u> 、 <u>梅澤 良介</u> 、 <u>大川 裕之</u> 、 <u>中村 淳路</u>	2024 年度地質調査総合センター(GSJ)オンライン説明会	2025.02.26- 2025.02.28
コア試料の肉眼岩相記載	<u>入野 智久</u> 、 <u>池原 研</u>	J-DESC コアスクール コア解析基礎コース 2025	2025.03.07- 2025.03.08
地質標本館イベント「地質標本館ガイドツアー」	<u>下川 浩一</u> 、 <u>村岡 やよい</u> 、 <u>小川 浩</u> 、 <u>高橋 正明</u>	地質標本館イベント「地質標本館ガイドツアー」	2025.03.08- 2025.03.08
使用コアの解説と解釈の一例	<u>池原 研</u>	J-DESC コアスクール コア解析基礎コース 2025	2025.03.09- 2025.03.09

5.6 プレス発表

プレス発表件名	関係者	公開日
環境 DNA と画像観察で海山の魚類多様性を包括的に把握可能に—深海域の生物多様性評価の高度化に貢献—	井口 亮、西島 美由紀、吉原 絵里、横岡 博之、杉島 英樹、池田 和正、三輪 竜一、関戸嘉郎、岩崎 望、鈴村 昌弘、塚崎 あゆみ、田中裕一郎、加藤 正悟、湊谷 純平、岡本 信行、國島 大河、伊勢 優史、鈴木 淳	2024.05.31
サンゴの骨格形成過程で生じる微結晶を可視化—サンゴ骨格の立体構造に関与する石灰化中心—	大野 良和、高橋 有南、堤 元佐、窪田 梓、井口 亮、飯島 真理子、水澤 奈々美、中村 崇、鈴木 淳、鈴木 道生、安元 純、渡部 終五、酒井 一彦、根本 知己、安元 剛	2024.08.21
黄砂が日本に来なかつた 3000 年前の気候イベントの発見—富士山・本栖湖底に残された過去 8000 年の記録から気候変動を復元—	横山 祐典、宮 入陽介、根本 夏林、山本 真也、Stephen Obrochta、藤原 治、中村 淳路	2024.09.11
温暖期なのに昔の東京湾は冷たかった?—過去の温暖期を生きた貝化石から水温の季節変化を復元—	三木 志緒乃、窪田 薫、中島 札、棚部 一成、Cornelia Brosset、Bernd R. Schone、山口 飛鳥、白井 厚太朗	2024.10.31
最終氷期(2 万年前)の日本海水温復元に成功～2 万年前の福井沖の年平均水温は約5°Cとオホーツク海なみ～	岡崎 裕典、小野寺 丈尚太郎、谷崎 恭平、西園 史彬、江頭 一騎、友川 明日香、佐川 拓也、堀川 恵司、池原 研	2024.12.05
本当はサンゴは CO2 を固定している? 骨格形成時の pH 上昇機構を解明	窪田 梓、大野 良和、安元 純、飯島 真理子、鈴木 道生、井口 亮、安元 加奈未、廣瀬(安元) 美奈、坂田 剛、末弘 孝明、中前 華帆、水澤 奈々美、神保 充、渡部 終五、安元 剛	2024.12.10
塵も積もれば山となる? 低濃度でも影響がでるリン酸塩のサンゴへの影響	飯島 真理子、安元 剛、安元純、井口 亮、廣瀬(安元) 美奈、安元 加奈未、水澤 奈々美、神保 充、酒井 一彦、鈴木 淳、渡部 終五	2025.01.10
「生まれる」ことで脳が発達する～早産児脳障害の病態メカニズムが明らかに～	Koya Kawase、Yasuhisa Nakamura、Laura Wolbeck、Shoko Takemura、財津 桂、Takehiro Ando、Hideo Jinnou、Masato Sawada、Chikako Nakajima、Rasmus Rydbirk、Sakura Gokenya、Akira Ito、Hitomi Fujiyama、Akari Saito、井口 亮、Panagiotis Kratimenos、Nobuyuki Ishibashi、Vittorio Gallo、Osuke Iwata、Shinji Saitoh、Konstantin Khodosevich、Kazunobu Sawamoto 見嶺 和英、板木 拓也、片岡 裕雄、宮川 歩夢	2025.01.20
AI 研究の最新知見、ミクロな化石の鑑定で成果	井口 亮	2025.03.6
サンゴ保全のカギは陸域対策?— 陸域影響の新たな評価方法の確立	井口 亮	2025.03.6
月の宝探し:月のチタン鉄鉱の濃集地を探査データ解析で発見!	山本 聰、松岡 萌、池田 あやめ	2025.03.17

5.7 受賞

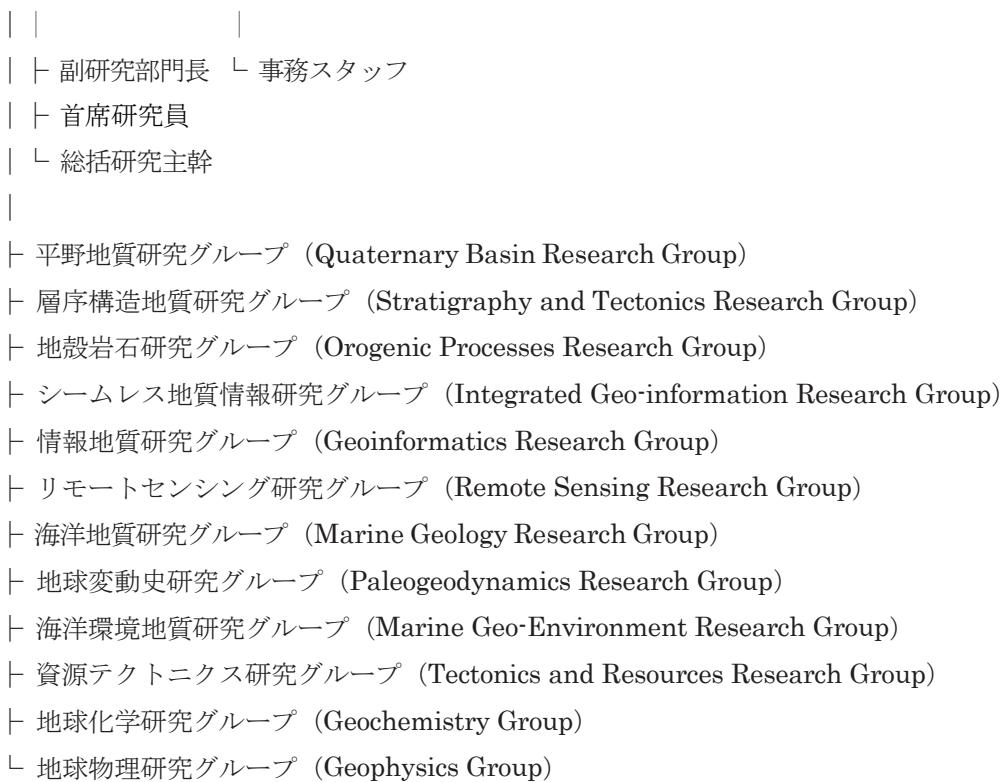
受賞	受賞者	受賞内容	受賞年月
日本リモートセンシング学会優秀論文発表賞	<u>水落 裕樹</u> 、 <u>宮崎 一博</u> 、 <u>阿部 朋弥</u> 、 <u>星住 英夫</u> 、 <u>川畑 大作</u> 、 <u>岩男 弘毅</u> 、 <u>松岡 萌</u> 、 <u>宮地 良典</u>	SBAS 法による九州地域における 地すべりリスク地域の観測および 地質学的考察。 日本リモートセンシング学会第 75 回学術講演会, 仙台, 2023/11/21	2024.06.
日本環境化学会 2024 年優秀発表賞・Springer Nature 賞	<u>菅 駿一</u> 、 <u>田中 健</u> 、 <u>鈴木 留佳</u> 、 <u>畠 毅</u> 、 <u>井口 亮</u> 、 <u>大野 良和</u> 、 <u>安元 剛</u> 、 <u>財 津 桂</u>	発表番号 S-033 PESI/MS/MS に よるメタボローム解析を用いた日焼 け止め暴露がサンゴポリープに与え る毒性リスクの評価	2024.07.
2024 年日本第四紀学会 学術賞	<u>田村 亨</u>	堆積相解析、地中レーダ探査、 OSL 年代測定を用いた沿岸域に おける地形・地層の形成過程解明 に関する第四紀学への貢献	2024.07.
日本地質学会地質学雑誌特別賞	<u>牛丸 健太郎</u>	天草下島北部の中中新世貫入岩体 の方向と応力解析. 地質学雑誌, 126 卷, 11 号, 631-638	2024.09.
日本地質学会小澤儀明賞	<u>羽田 裕貴</u>	鮮新-更新統の超高時間分解能 解析による北西太平洋古海洋・古 地磁気変動の研究	2024.09.
日本地質学会研究奨励賞	<u>武藤 俊</u>	Muto, S., Takahashi, S., & Yamakita, S., 2023, Elevated sedimentation of clastic matter in pelagic Panthalassa during the early Olenekian. Island Arc, 32, e12485.	2024.09.

資料編

付 1 構成及び所在

地質情報研究部門 (Research Institute of Geology and Geoinformation)

研 究 部 門 長



所在地 〒 305-8567 茨城県つくば市東1-1-1 つくばセンター中央事業所7群

TEL/FAX 029-861-3540 (地質調査総合センター 総合受付)

mail igg-webmaster-ml@aist.go.jp

ホームページ <https://unit.aist.go.jp/igg/>

付 2 職員等

地質情報研究部門

荒井 晃作	研究部門長
宮地 良典	副研究部門長
太田 充恒	〃
池原 研	首席研究員
中島 札	総括研究主幹
加藤 碩一	名誉リサーチャー
宮崎 光旗	〃
栗本 史雄	〃
富樫 茂子	〃
西村 昭	〃
齋藤 文紀	〃
脇田 浩二	〃
高橋 曜	キャリアエキスパート
中江 訓	部門付(上級主任研究員)
岩男 弘毅	〃(兼務)
野田 篤	〃(兼務)
小松原 純子	〃(兼務)
富田 陽子	〃(業務室事務担当)
竹内 誠	特定フェロー
その他の構成員	〃
テクニカルスタッフ	1名
クレリカルスタッフ	1名

羽地 俊樹	〃
山岡 健	研究員
その他の構成員	
学振特別研究員	1名
テクニカルスタッフ	1名
リサーチアシスタント	1名
産学官制度来所者	5名

シームレス地質情報研究グループ

内野 隆之	研究グループ長
西岡 芳晴	上級主任研究員
坂野 靖行	主任研究員
長森 英明	〃
川畠 大作	〃
阿部 朋弥	〃(兼務)
村岡 やよい	研究員
片桐 星来	〃
吉川 敏之	研究グループ付(兼務)
内藤 一樹	〃
斎藤 真	〃
宝田 晋治	〃
その他の構成員	

テクニカルスタッフ	7名
リサーチアシスタント	1名
クレリカルスタッフ	1名
技術研修	2名
産学官制度来所者	5名

平野地質研究グループ

納谷 友規	研究グループ長
田邊 晋	上席主任研究員
佐藤 善輝	主任研究員
中谷 是崇	〃
羽田 裕貴	研究員
その他の構成員	
テクニカルスタッフ	3名
産学官制度来所者	3名
J S P S フェロー	1名

長 郁夫	研究グループ長
野々垣 進	上級主任研究員
米岡 佳弥	研究員
藪田 桜子	〃
中澤 努	研究グループ付(兼務)
その他の構成員	

テクニカルスタッフ	3名
-----------	----

層序構造地質研究グループ

原 英俊	研究グループ長
辻野 匠	主任研究員
宇都宮 正志	〃
武藤 俊	〃
伊藤 剛	上級主任研究員
志村 侑亮	研究員
鈴木 敬介	〃
その他の構成員	
テクニカルスタッフ	1名
リサーチアシスタント	1名
技術研修	2名
産学官制度来所者	6名

山本 聰	研究グループ長
水落 裕樹	主任研究員
山本 浩万	〃(兼務)
松岡 萌	研究員
池田 あやめ	〃
その他の構成員	

招聘研究員	1名
テクニカルスタッフ	1名
リサーチアシスタント	1名
技術研修	1名
SE	2名
産学官制度来所者	2名

地殻岩石研究グループ

工藤 崇	研究グループ長
山崎 徹	上級主任研究員
佐藤 大介	主任研究員
中村 佳博	〃

リモートセンシング研究グループ

山本 聰	研究グループ長
水落 裕樹	主任研究員
山本 浩万	〃(兼務)
松岡 萌	研究員
池田 あやめ	〃
その他の構成員	

招聘研究員	1名
テクニカルスタッフ	1名
リサーチアシスタント	1名
技術研修	1名
SE	2名
産学官制度来所者	2名

海洋地質研究グループ

井上 卓彦	研究グループ長
杉崎 彩子	主任研究員

三澤 文慶 リ
石野 沙季 研究員
有元 純 リ
鈴木 克明 リ

その他の構成員

招聘研究員 1名
テクニカルスタッフ 3名
産学官制度来所者 3名

リサーチアシスタント 3名
技術研修 1名
産学官制度来所者 9名

資源テクトニクス研究グループ

下田 玄 研究グループ長
山下 幹也 主任研究員 (兼務)
針金 由美子 リ
佐藤 太一 リ
後藤 孝介 リ
高下 裕章 リ
その他の構成員
テクニカルスタッフ 1名
産学官制度来所者 2名

地球変動史研究グループ

板木 拓也 研究グループ長
小田 啓邦 上級主任研究員
田村 亨 リ
天野 敦子 主任研究員
佐藤 智之 リ
清家 弘治 リ
飯塚 瞳 研究員
見邨 和英 リ
その他の構成員
産総研特別研究員 1名
学振特別研究員 1名
テクニカルスタッフ 5名
リサーチアシスタント 3名
技術研修 2名
産学官制度来所者 7名
国際制度来所者 2名
派遣 2名

間中 光雄 研究グループ長
久保田 蘭 主任研究員
遠山 知亜紀 リ
中村 淳路 リ (兼務)
三國 和音 研究員
その他の構成員
テクニカルスタッフ 1名

地球化学研究グループ

名和 一成 研究グループ長
宮川 歩夢 上級主任研究員
大滝 壽樹 主任研究員
伊藤 忍 リ
大谷 龍 リ
住田 達哉 リ
木下 佐和子 研究員 (兼務)
その他の構成員
テクニカルスタッフ 2名
産学官制度来所者 8名

海洋環境地質研究グループ

鈴木 淳 研究グループ長
長尾 正之 主任研究員
井口 亮 リ
山岡 香子 リ
齋藤 直輝 研究員
喜瀬 浩輝 リ
その他の構成員
産総研特別研究員 2名
学振特別研究員 1名
テクニカルスタッフ 10名

地球物理研究グループ

名和 一成 研究グループ長
宮川 歩夢 上級主任研究員
大滝 壽樹 主任研究員
伊藤 忍 リ
大谷 龍 リ
住田 達哉 リ
木下 佐和子 研究員 (兼務)
その他の構成員
テクニカルスタッフ 2名
産学官制度来所者 8名

2024 年度部門在籍者について、2025.3.31 現在を基本に作成しています。

地質情報研究部門 2024 年度年報

2026（令和 8 年）2 月 2 日発行

編集・発行 国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質情報研究部門
〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 つくばセンター中央事業所 7 群
TEL/FAX 029-861-3540 (地質調査総合センター 総合受付) Email igg-webmaster-ml@aist.go.jp

© 2026 IGG/AIST 本誌掲載記事の無断転載を禁じます。